

第197期 平成25年4月1日から  
平成26年3月31日まで

# 有価証券報告書

株式会社 I H I

E02128

第197期（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

# 有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、平成26年6月27日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書の添付書類は含まれておりませんが、監査報告書及び内部統制監査報告書は末尾に綴じ込んでおります。

株式会社 I H I

# 目 次

	頁
第197期 有価証券報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	6
4 【関係会社の状況】	9
5 【従業員の状況】	12
第2 【事業の状況】	13
1 【業績等の概要】	13
2 【生産、受注及び販売の状況】	15
3 【対処すべき課題】	17
4 【事業等のリスク】	18
5 【経営上の重要な契約等】	22
6 【研究開発活動】	23
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	24
第3 【設備の状況】	26
1 【設備投資等の概要】	26
2 【主要な設備の状況】	26
3 【設備の新設、除却等の計画】	28
第4 【提出会社の状況】	29
1 【株式等の状況】	29
2 【自己株式の取得等の状況】	41
3 【配当政策】	42
4 【株価の推移】	42
5 【役員の状況】	43
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	49
第5 【経理の状況】	57
1 【連結財務諸表等】	58
2 【財務諸表等】	117
第6 【提出会社の株式事務の概要】	135
第7 【提出会社の参考情報】	136
1 【提出会社の親会社等の情報】	136
2 【その他の参考情報】	136
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	138
監査報告書	
平成26年3月連結会計年度	
平成26年3月事業年度	

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年6月27日
【事業年度】	第197期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）
【会社名】	株式会社IHI
【英訳名】	IHI Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 齋藤保
【本店の所在の場所】	東京都江東区豊洲三丁目1番1号
【電話番号】	03(6204)7065
【事務連絡者氏名】	財務部財務決算グループ部長 福本保明
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区豊洲三丁目1番1号
【電話番号】	03(6204)7065
【事務連絡者氏名】	財務部財務決算グループ部長 福本保明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号） 証券会員制法人札幌証券取引所 （札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次		第193期	第194期	第195期	第196期	第197期
決算年月		平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高	(百万円)	1,242,700	1,187,292	1,221,869	1,256,049	1,304,038
経常利益	(百万円)	33,027	51,482	41,715	36,219	53,235
当期純利益	(百万円)	17,378	29,764	23,823	33,386	33,133
包括利益	(百万円)	—	26,364	17,565	44,964	49,571
純資産額	(百万円)	227,065	253,640	258,475	299,282	362,555
総資産額	(百万円)	1,412,421	1,361,441	1,338,131	1,364,239	1,496,361
1株当たり純資産額	(円)	144.66	162.33	170.84	197.08	223.68
1株当たり 当期純利益金額	(円)	11.85	20.29	16.26	22.81	22.51
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	—	20.28	15.37	21.58	21.31
自己資本比率	(%)	15.02	17.49	18.69	21.14	23.07
自己資本利益率	(%)	8.60	13.22	9.76	12.40	10.46
株価収益率	(倍)	14.43	10.00	12.85	12.54	19.28
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	76,708	95,565	24,743	74,347	39,220
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△62,754	△77,798	△37,722	△61,033	△62,282
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△1,800	△25,907	△38,542	△3,150	11,395
現金及び現金同等物の 期末残高	(百万円)	124,870	115,025	63,498	72,070	62,604
従業員数	(人)	24,890	26,035	26,915	26,618	27,562

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれていません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第193期は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載していません。

3 平均臨時従業員数については、従業員の100分の10未満であるため記載していません。

4 金額及び比率は単位未満を四捨五入表示しています。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第193期	第194期	第195期	第196期	第197期
決算年月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月
売上高 (百万円)	596,756	513,560	559,275	589,444	608,678
経常利益 (百万円)	12,492	21,562	18,900	16,665	25,586
当期純利益 (百万円)	15,125	10,501	16,137	19,903	15,238
資本金 (百万円)	95,762	95,762	95,762	95,762	107,165
発行済株式総数 (千株)	1,467,058	1,467,058	1,467,058	1,467,058	1,546,799
純資産額 (百万円)	162,558	167,265	172,335	192,899	225,912
総資産額 (百万円)	855,173	903,881	884,008	936,093	996,652
1株当たり純資産額 (円)	110.64	113.78	117.38	131.44	145.97
1株当たり配当額 (円)	2.00	3.00	4.00	5.00	6.00
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	10.31	7.16	11.01	13.60	10.35
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	7.15	10.40	12.85	9.73
自己資本比率 (%)	18.97	18.46	19.44	20.55	22.60
自己資本利益率 (%)	9.80	6.38	9.53	10.93	7.30
株価収益率 (倍)	16.59	28.35	18.98	21.03	41.93
配当性向 (%)	19.39	41.90	36.30	36.76	57.95
従業員数 (人)	7,723	7,986	7,944	7,982	8,331

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれていません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第193期は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載していません。

3 平均臨時従業員数については、従業員の100分の10未満であるため記載していません。

4 金額及び株式数は単位未満を切捨て表示しています。

5 比率は単位未満を四捨五入表示しています。

## 2 【沿革】

年 月	沿 革
明治22年 1月	当社は、嘉永6年ペルリ渡来を動機として隅田河口の石川島に幕命により創設せられ、明治9年、平野富二の個人経営となり石川島平野造船所と称し民営の第一歩を踏みだしたが明治22年会社組織に改め、有限責任石川島造船所を設立した。
明治26年 9月	商法実施に伴い、株式会社東京石川島造船所と改称した。
昭和14年 2月	造船部門を拡張するため、東京第一工場を新設し、造船関係及び製缶関係の操業を開始した。
昭和18年 9月	船用諸機械及び陸上諸機械の需要増大に対処するため、東京第二工場を新設し、船用諸機械及び鑄造品の操業を開始した。
昭和20年 6月	商号を石川島重工業株式会社と改称した。
昭和24年 5月	東京及び名古屋証券取引所に株式を上場した。
昭和24年 6月	大阪証券取引所（平成25年7月東京証券取引所と現物市場を統合）に株式を上場した。
昭和24年 7月	京都（平成13年3月大阪証券取引所に吸収合併）、福岡及び新潟証券取引所（平成12年3月東京証券取引所に吸収合併）に株式を上場した。
昭和27年 9月	札幌証券取引所に株式を上場した。
昭和32年 3月	航空機用ジェットエンジンを製作するため田無工場を新設した。
昭和33年 3月	広島証券取引所（平成12年3月東京証券取引所に吸収合併）に株式を上場した。
昭和34年 1月	当社とブラジル政府は、リオ・デ・ジャネイロ市に、造船造機を目的とする石川島ブラジル造船所を設立した。
昭和35年12月	株式会社播磨造船所を合併し、商号を石川島播磨重工業株式会社と改称した。
昭和37年11月	石川島芝浦精機株式会社及び芝浦ミシン株式会社を合併した。
昭和38年 4月	当社とシンガポール経済開発局は、ジュロン地区に船舶の建造・修理を目的とするジュロン造船所を設立した。
昭和39年 2月	重機械工場として横浜第二工場を新設した。
昭和39年 5月	名古屋造船株式会社及び名古屋重工業株式会社を合併した。
昭和39年 7月	船舶の大型化に対処するため、造船工場として横浜修理工場を新設した。
昭和42年10月	芝浦共同工業株式会社を合併した。
昭和43年 3月	株式会社呉造船所を合併した。
昭和44年 4月	重器工場として横浜第一工場を新設した。
昭和45年10月	航空機用ジェットエンジン工場として瑞穂工場を新設した。
昭和48年 5月	大型造船工場として愛知工場を新設した。
昭和50年 4月	決算期を年1回（3月31日）に変更し、中間配当制度を導入した。
昭和63年 3月	石川島建材工業株式会社が株式を東京証券取引所第二部に上場した。
平成 4年10月	豊洲センタービル（賃貸用オフィスビル）が竣工した。
平成 6年 4月	横浜エンジニアリングセンターを横浜事業所内に新設した。
平成 7年11月	石川島汎用機サービス株式会社（現 株式会社 I H I 回転機械）が株式を日本証券業協会の登録銘柄として登録した。
平成 8年11月	石川島運搬機械株式会社（現 I H I 運搬機械株式会社）が株式を東京証券取引所第二部に上場した。
平成10年11月	航空機用ジェットエンジン工場として相馬工場を新設した。
平成12年 7月	日産自動車株式会社より宇宙航空事業を譲り受け、株式会社アイ・エイチ・アイ・エアロスペース（現 株式会社 I H I エアロスペース）として営業を開始した。
平成14年10月	船舶・海洋事業を分社化し、株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド（現 ジャパンマリンユナイテッド株式会社）として営業を開始した。
平成15年 2月	株式会社新潟鐵工所から原動機事業と車両事業を承継し、新潟原動機株式会社（原動機事業）及び新潟トランス株式会社（車両事業）として営業を開始した。
平成15年 6月	取締役会改革と執行役員制度導入を骨子とする経営機構改革を実施した。
平成17年 5月	フェースト・アルピネ社との業務協定により、圧延機に関する子会社である I H I メタルテック株式会社を設立した。
平成18年 2月	江東区豊洲三丁目に新本社ビルとなる豊洲 I H I ビルが竣工し、本店移転の登記を行なった。

年 月	沿 革
平成18年 4月	ポンプ設備事業について、株式会社荏原製作所に営業譲渡した。
平成18年 9月	豊洲センタービルアネックス（賃貸用オフィスビル）が竣工した。
平成18年10月	石川島汎用機サービス株式会社（現 株式会社 I H I 回転機械）を株式交換により完全子会社とした。
平成19年 7月	商号を石川島播磨重工業株式会社から株式会社 I H I に変更した。
平成20年 3月	工業炉事業の拡大・発展のため、オランダのHauzer Techno Coating B.V.（現 IHI Hauzer Techno Coating B.V.）の株式を取得し子会社とした。
平成20年 7月	セメントプラント事業について、カワサキプラントシステムズ株式会社に事業譲渡した。
平成21年 8月	栗本橋梁エンジニアリング株式会社（現 株式会社 I H I インフラシステム）の株式を取得し完全子会社とした。
平成21年10月	ごみ処理施設に関する事業について、株式会社 I H I 環境エンジニアリングに吸収分割により承継させた。
平成21年10月	松尾橋梁株式会社（現 株式会社 I H I インフラシステム）の株式を取得し完全子会社とした。
平成21年11月	当社の橋梁・水門その他鋼構造物事業を松尾橋梁株式会社に承継させ、かつ栗本橋梁エンジニアリング株式会社を同社に吸収合併させた。同時に、松尾橋梁株式会社の商号を株式会社 I H I インフラシステムに変更した。
平成22年 1月	株式会社 I H I インフラシステムが株式会社栗本鐵工所より水門等事業を譲り受けた。
平成22年 1月	シールド掘進機その他のトンネル建設機械事業について、ジャバントンネルシステムズ株式会社（平成21年11月に J F E エンジニアリング株式会社と共同して子会社として設立）に吸収分割により承継させた。
平成22年 1月	株式会社 I H I 物流、株式会社 I H I 造船化工機及び東京湾土地株式会社を吸収合併した。
平成22年 7月	株式会社 I H I ファイナンスサポートの株式の一部を東京センチュリーリース株式会社に譲渡し完全子会社から関連会社にした。
平成23年 1月	株式会社東芝と合併で原子力発電所向けタービン用機器の製造を目的とする I H I ・東芝パワーシステム株式会社を設立した。
平成24年 1月	株式会社扶桑エンジニアリング（現 株式会社 I H I 扶桑エンジニアリング）の株式を取得し完全子会社とした。
平成24年 6月	環境計測、防災システム、宇宙関連及び制御システムなどを事業基盤とする明星電気株式会社を株式公開買付けにより子会社化した。
平成24年 7月	北米シェールガス液化プラント事業に参入するため、IHI E&C International Corporationを設立し、アメリカのKvaerner Americas社から陸上EPC事業を買収した。
平成24年 8月	I H I 運搬機械株式会社及び石川島建材工業株式会社を完全子会社とした。（平成24年 3月に株式公開買付け実施）
平成24年11月	ルクセンブルクのPaul Wurth S.A.社と合併で製鉄機械事業を行なう、株式会社 I H I ポールワースを設立した。
平成24年12月	金属や非金属などの材料の耐摩耗性コーティング事業を行なう、スイスのIonbondグループの全株式を取得し、Indigo TopCo Ltd.及びその子会社を当社の傘下とした。
平成25年 1月	造船事業における競争力及び収益力の強化を図るため、当社の特定子会社であった株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッドは、ユニバーサル造船株式会社と合併による経営統合を行ない、ジャパン マリンユナイテッド株式会社が発足した。
平成25年 6月	日揮株式会社及びジャパン マリンユナイテッド株式会社と共同でJAPAN EAS INVESTMENTOS E PARTICIPAÇÕES LTDA（以下、JEI）を設立し、平成25年 8月にJEIを通じてブラジルの造船会社であるEstaleiro Atlântico Sul S.A.へ資本参加した。
平成25年 8月	航空エンジン事業の拡大を図るため、IHI Aero Engines US Co.,Ltd.を設立し、GE Passport,LLCへ出資した。
平成25年10月	I H I メタルテック株式会社の圧延機事業に関する権利及び義務を三菱日立製鉄機械株式会社に承継させた。



### 3 【事業の内容】

当社及び当社の関係会社（連結子会社148社及び持分法適用関連会社35社（平成26年3月31日現在））においては、資源・エネルギー・環境、社会基盤・海洋、産業システム・汎用機械及び航空・宇宙・防衛の4つの事業を主として行っており、その製品は多岐にわたっています。各事業の主な事業内容及びグループ各社の位置付け等は次のとおりです。

なお、次の4事業は「第5 経理の状況 1（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一です。また、当連結会計年度から、「グループ経営方針2013」に基づく4つの事業領域の見直し及びそれによる組織変更を行ないました。これに伴い、事業領域を基礎に報告セグメントを「資源・エネルギー」「船舶・海洋」「社会基盤」「物流・産業機械」「回転・量産機械」「航空・宇宙」「その他」の7つの区分から、「資源・エネルギー・環境」「社会基盤・海洋」「産業システム・汎用機械」「航空・宇宙・防衛」の4つの区分に変更しています。

#### （資源・エネルギー・環境）

当事業においては、ボイラ、原動機プラント、陸船用原動機、船用大型原動機、ガスプロセス（貯蔵設備、化学プラント）、原子力（原子力機器）、環境対応システム、医薬（医薬プラント）等の製造、販売、サービスの提供等を行なっています。

#### 〔主な関係会社〕

I H I ・東芝パワーシステム(株)、(株)I H I 汎用ボイラ、(株)I H I プラントエンジニアリング、I H I プラント建設(株)、金町浄水場エネルギーサービス(株)、寿鉄工(株)、新潟原動機(株)、ニコ精密機器(株)、青森プラント(株)、豊洲エネルギーサービス(株)、(株)I H I 環境エンジニアリング、(株)ディーゼル ユナイテッド、JURONG ENGINEERING LIMITED及びその子会社19社（注①）、IHI Power System Germany GmbH, ISHI POWER SDN.BHD., PT Cilegon Fabricators, NIIGATA POWER SYSTEMS (SINGAPORE) PTE. LTD., IHI E&C International Corporation及びその子会社1社, IHI POWER SYSTEM MALAYSIA SDN.BHD.（注②）、他5社（注③）

#### （社会基盤・海洋）

当事業においては、橋梁、水門、シールド掘進機、交通システム、都市開発（不動産販売・賃貸）、F-LNG（フローティングLNG貯蔵設備）、海洋構造物等の製造、販売、サービスの提供等を行なっています。

#### 〔主な関係会社〕

(株)I H I インフラシステム、(株)I H I インフラ建設、石川島建材工業(株)、関東セグメント(株)、ジャパントンネルシステムズ(株)、ピーシー橋梁(株)、千葉倉庫(株)、(株)三越（注④）、新潟トランス(株)、IHI INFRASTRUCTURE ASIA CO.,LTD., IHI California Inc.

#### （産業システム・汎用機械）

当事業においては、船用機械、物流システム、運搬機械、パーキング、製鉄機械、産業機械、熱・表面処理、製紙機械、車両過給機、圧縮機、分離装置、船用過給機、建機、農機、小型原動機等の製造、販売、サービスの提供等を行なっています。

#### 〔主な関係会社〕

I H I 運搬機械(株)、(株)I H I 扶桑エンジニアリング、西日本設計(株)、(株)I H I 機械システム、(株)I H I フォイトペーパーテクノロジー、(株)I H I ロジテック、セントラルコンベヤー(株)、(株)I H I 回転機械、(株)I H I ターボ、(株)I H I 技術教習所、I H I 建機(株)、(株)I H I シバウラ、(株)I H I シバウラテック、(株)I H I スター、Hauzer Techno Coating B.V. 及びその子会社4社、IHI Press Technology America, Inc., New Metal Engineering, LLC, IUK (HK) LIMITED, Indigo TopCo Ltd. 及びその子会社27社（注⑤）、IHI Charging Systems International GmbH及びその子会社2社、I H I 寿力圧縮技術（蘇州）有限公司、長春富奥石川島過給機有限公司、IHI Turbo America Co., IHI TURBO (THAILAND) CO.,LTD., ISM America Inc., 無錫石播増圧器有限公司（注⑥、⑦）

(航空・宇宙・防衛)

当事業においては、航空エンジン、ロケットシステム・宇宙利用（宇宙開発関連機器）、防衛機器システム等の製造、販売、サービスの提供等を行なっています。

[主な関係会社]

(株)IHIエアロスペース、(株)IHIエアロスペース・エンジニアリング、(株)IHIエアロマニュファクチャリング、(株)IHIキャスティングス、(株)IHIジェットサービス、(株)IHIマスターメタル、(株)アイ・エヌ・シー・エンジニアリング、IHI - ICR, LLC., IHI Aero Engines US Co., Ltd. (注⑧)

(その他)

当事業においては、通信、電子、電気計測、情報処理などの機器・装置等の製造、販売、サービスの提供等並びにサービス業を行なっています。

[主な関係会社]

(株)IHI エスキューブ、(株)IHI トレーディング、(株)IHI ビジネスサポート、明星電気(株)、(株)IHI 検査計測、IHI do Brasil Representações Ltda., IHI ENGINEERING AUSTRALIA PTY.LTD., IHI Europe Ltd., IHI INC., IHI New Energy Inc., Algae Systems, LLC., IHI Power Generation Corporation及びその子会社12社、JAPAN EAS INVESTIMENTOS E PARTICIPAÇÕES LTDA (注⑨)

- (注) ① 平成25年5月にJURONG ENGINEERING LIMITED（資源・エネルギー・環境）がJurong Engineering (Myanmar) Limited（資源・エネルギー・環境）を設立したことに伴い、新たに連結の範囲に含めています。
- ② 当社グループにおける重要性が増したため、IHI POWER SYSTEM MALAYSIA SDN. BHD.（資源・エネルギー・環境）を新たに連結の範囲に含めています。
- ③ 平成25年3月にIHI-Kiewit JV (IHI E&C/Kiewit Energy Company)（資源・エネルギー・環境）を設立したことに伴い、新たに連結の範囲に含めています。
- ④ 当社グループにおける重要性が増したため、(株)三越（社会基盤・海洋）を新たに連結の範囲に含めています。
- ⑤ 平成25年1月にIonbond North America LLC（産業システム・汎用機械）はIndigo TopCo Ltd.の子会社（産業システム・汎用機械）に吸収合併されて消滅しました。
- ⑥ 当社グループにおける重要性が増したため、無錫石播増圧器有限公司（産業システム・汎用機械）を新たに連結の範囲に含めています。
- ⑦ 平成26年1月にIHIメタルテック(株)（産業システム・汎用機械）は当社に吸収合併されて消滅しました。
- ⑧ 平成25年8月にIHI Aero Engines US Co., Ltd.（航空・宇宙・防衛）を設立したことに伴い、新たに連結の範囲に含めています。
- ⑨ 平成25年6月にJAPAN EAS INVESTIMENTOS E PARTICIPAÇÕES LTDA（その他）を設立したことに伴い、新たに連結の範囲に含めています。

【主な関係会社及び事業系統】

各事業における当社及び主な関係会社の位置付けは、次のとおりです。

	製造	販売	エンジニアリング	据付	サービス
	株式会社 IHI				
資源・エネルギー・環境	株式会社 IHI 汎用ボイラ / 寿鉄工機 / 新潟原動機機 / 株式会社 IHI 環境エンジニアリング				
	ニコ精密機器株式会社 / PT Cilegon Fabricators / IHI・東芝パワーシステム株式会社	株式会社 IHI プラントエンジニアリング / 青森プラント株式会社 (《製》) 他5社			
	NIIGATA POWER SYSTEMS (SINGAPORE) PTE. LTD. (《サ》)	IHI プラント建設株式会社 / ISHI POWER SDN. BHD. / IHI Power System Germany GmbH / JURONG ENGINEERING LIMITED 及びその子会社 19社 / IHI E&C International Corporation 及びその子会社 1社			金町浄水場エネルギーサービス株式会社 / 豊洲エネルギーサービス株式会社 / IHI POWER SYSTEM MALAYSIA SDN. BHD.
	株式会社 ディーゼル ユナイテッド (《サ》)				
社会基盤・海洋	株式会社 IHI インフラシステム / 株式会社 IHI インフラ建設 / ビーシー橋梁株式会社 / IHI INFRASTRUCTURE ASIA CO., LTD. / 株式会社 三越				
	新潟トランス株式会社 (《サ》)				
	関東セグメント株式会社	ジャパントネルシステムズ株式会社			
		石川島建材工業株式会社			千葉倉庫株式会社
産業システム・汎用機械	IHI 運搬機械株式会社 / 株式会社 IHI 機械システム / Hauzer Techno Coating B.V. 及びその子会社 4社 / 株式会社 IHI 回転機械 / IHI 寿力圧縮技術 (蘇州) 有限公司				
	株式会社 IHI フォイトペーパーテクノロジー / セントラルコンベヤー株式会社				
	IHI 建機株式会社 (《サ》) / 株式会社 IHI シパウラ (《サ》) / 株式会社 IHI スター (《サ》) / IHI Turbo America Co. / IHI Charging Systems International GmbH 及びその子会社 2社			IHI Press Technology America, Inc. / Indigo TopCo Ltd. 及びその子会社 27社 / New Metal Engineering, LLC / IUUK (HK) LIMITED / 株式会社 IHI 技術教習所 / 株式会社 IHI シパウラテック / ISM America Inc.	
	株式会社 IHI ターボ	西日本設計株式会社			
	株式会社 IHI 扶桑エンジニアリング				
	IHI TURBO (THAILAND) CO., LTD. / 長春富奥石川島過給機有限公司 / 無錫石播増圧器有限公司	株式会社 IHI ロジテック			
航空・宇宙・防衛	株式会社 IHI キャスティングス / 株式会社 IHI マスターメタル / 株式会社 IHI エアロマニュファクチャリング		株式会社 IHI ジェットサービス / 株式会社 アイ・エヌ・シー・エンジニアリング		
			株式会社 IHI エアロスペース・エンジニアリング	IHI - ICR, LLC. / IHI Aero Engines US Co., Ltd.	
	株式会社 IHI エアロスペース				
その他	Algae Systems, LLC.	株式会社 IHI トレーディング / IHI Europe Ltd. / IHI INC. (《サ》) / IHI do Brasil Representações Ltda.			株式会社 IHI エスキューブ / 株式会社 IHI ビジネスサポート / IHI New Energy Inc. / IHI Power Generation Corporation 及びその子会社 12社 / JAPAN EAS INVESTIMENTOS E PARTICIPAÇÕES LTDA
	IHI ENGINEERING AUSTRALIA PTY. LTD. (《販》)				
	明星電気株式会社 (◎)				
	株式会社 IHI 検査計測				

※セグメントを構成する連結子会社を、上表に記載しています。なお、各連結子会社のセグメントにおいて果たす機能について、製造・販売・エンジニアリング・据付・サービスの5つに分類して表示しています。

※複数の機能を果たす子会社の場合、その機能を並べて表示できない会社については、会社名の右横に《製》《販》《エ》《据》《サ》として表示しています。

※上表の連結子会社は、平成26年3月31日現在のものであり、東京証券取引所市場第二部上場子会社に「◎」を付しています。

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 [又は被所有] 割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
(株) I H I エアロスペース	東京都 江東区	5,000	航空・宇宙・防衛	100.0	宇宙機器、ロケット飛しょう体の製造、販売、修理を行なっている。 役員の兼任等・・・有
(株) I H I インフラシステム	堺市 堺区	4,903	社会基盤・海洋	100.0	橋梁、水門の設計、製造、据付、保守、修理を行なっている。 役員の兼任等・・・有
新潟原動機(株)	東京都 千代田区	3,000	資源・エネルギー・環境	100.0	内燃機関、ガスタービン機関、船用機器の製造及び販売を行なっている。 役員の兼任等・・・有
明星電気(株) (注3)	群馬県 伊勢崎市 (注4)	2,996	その他	51.0	通信、電子、電気計測、情報処理などの機器・装置の製造、販売、工事の設計・請負及びその他付帯するサービスを行なっている。 役員の兼任等・・・有
I H I 運搬機械(株)	東京都 中央区	2,647	産業システム・汎用機械	100.0	駐車装置、荷役運搬機械、物流・流通プラントの設計、製造、販売、据付、保守、修理を行なっている。 役員の兼任等・・・有
I H I 建機(株)	横浜市 金沢区	1,750	産業システム・汎用機械	100.0	建設機械、荷役運搬機械の製造、販売、修理を行なっている。 当社が土地・建物等を賃貸している。 役員の兼任等・・・有
(株) I H I シパウラ	長野県 松本市	1,111	産業システム・汎用機械	91.0	内燃機関、農業機械、消防ポンプ、芝草管理機械の設計、製造、販売、据付、保守、修理を行なっている。 役員の兼任等・・・有
(株) I H I 回転機械	東京都 江東区	1,033	産業システム・汎用機械	100.0	圧縮機、分離機、船用過給機の設計、製造、販売、据付、保守、修理を行なっている。 役員の兼任等・・・有
(株) I H I ターボ	東京都 江東区	1,000	産業システム・汎用機械	100.0	車両過給機の製造、販売を行なっている。 役員の兼任等・・・有
新潟トランス(株)	東京都 千代田区	1,000	社会基盤・海洋	100.0	鉄道車両、産業用車両、除雪機械の製造、販売を行なっている。 役員の兼任等・・・有
I H I プラント建設(株)	東京都 江東区	500	資源・エネルギー・環境	100.0	ボイラ設備、原子力設備、環境・貯蔵プラント設備、産業用機械設備の設計、製造、据付、修理を行なっている。 役員の兼任等・・・有
(株) I H I スター	北海道 千歳市	500	産業システム・汎用機械	100.0 (20.0)	農業機械の設計、製造、販売、保守、修理を行なっている。 間接所有分は(株) I H I シパウラが所有している。 役員の兼任等・・・有
JAPAN EAS INVESTIMENTOS E PARTICIPAÇÕES LTDA (注5)	ブラジル リオデジャネイロ州	千BRL 207,000	その他	60.4	Estaleiro Atlântico Sul S.A. への出資、融資及び同社株主としての同社の運営への参加に関する業務を行なっている。 役員の兼任等・・・有

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 [又は被所有] 割合 (%)	関係内容
IHI INC. (注6)	米国 ニューヨーク州	千US\$ 90,382 (注7)	その他	100.0	各種プラント、機器、航空エンジン整備等の販売、受注斡旋を行なっている。 役員の兼任等・・・有
IHI Aero Engines US Co., Ltd. (注5)	米国 ニューヨーク州	千US\$ 52,400	航空・宇宙・防衛	100.0	民間航空エンジンプログラムへの出資を行なっている。 役員の兼任等・・・有
JURONG ENGINEERING LIMITED	シンガポール	千S\$ 51,788	資源・エネルギー ・環境	95.6 (15.0)	各種プラント・機器の据付、建築土木、プラントのエンジニアリング、コンサルティングを行なっている。 間接所有分はIHIプラント建設㈱が所有している。 役員の兼任等・・・有
IHI INFRASTRUCTURE ASIA CO., LTD.	ベトナム ハイフォン市	百万VND 542,638 (注7)	社会基盤・海洋	100.0	鋼構造物及びコンクリート構造物のエンジニアリング、製作、架設を行なっている。 役員の兼任等・・・有
長春富奥石川島過給機 有限公司	中国 吉林省	千人民元 158,300	産業システム・ 汎用機械	57.2 (7.8)	車両過給機の製造、販売を行なっている。 間接所有分は㈱IHIターボが所有している。 役員の兼任等・・・有
IHI Charging Systems International GmbH	ドイツ ハイデルベルク市	千EUR 15,000	産業システム・ 汎用機械	100.0	車両過給機の設計、製造、販売を行なっている。 役員の兼任等・・・有
IHI Turbo America Co.	米国 イリノイ州	千US\$ 7,700	産業システム・ 汎用機械	100.0	車両過給機の製造、販売を行なっている。 役員の兼任等・・・有
無錫石播増圧器有限公司 (注8)	中国 江蘇省	千人民元 62,527	産業システム・ 汎用機械	100.0	車両過給機の製造、販売を行なっている。 役員の兼任等・・・有
IHI TURBO (THAILAND) CO., LTD.	タイ チョンブリー県	百万TBA 260	産業システム・ 汎用機械	90.0 (10.0)	車両過給機の製造、販売を行なっている。 間接所有分は㈱IHIターボが所有している。 役員の兼任等・・・有
IHI 寿力圧縮技術 (蘇州) 有限公司	中国 江蘇省	千人民元 55,465	産業システム・ 汎用機械	51.0 (12.5)	汎用ターボ圧縮機の製造、販売、サービスを行なっている。 間接所有分は㈱IHI回転機械が所有している。 役員の兼任等・・・有
IHI Europe Ltd.	英国 ロンドン市	千STG 2,500	その他	100.0	各種プラント、機器、船舶、航空エンジンの販売、仲介を行なっている。 役員の兼任等・・・有
その他 124社					
合計 148社					

名 称	住 所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 [又は被所有] 割合 (%)	関係内容
(持分法適用会社) ジャパン マリンユナイテ ッド㈱	東京都 港区	25,000	その他	45.9	船舶、艦艇、海洋・浮体構造物等の設計、製造、販売を行なっている。 役員の兼任等・・・有
Estaleiro Atlântico Sul S.A. (注9)	ブラジル ペルナンブコ州	千BRL 459,681	その他	33.3 (33.3)	船舶、船体、造船関連製品の販売、エンジニアリング、建造、メンテナンスや部品供給等のサービス提供を行なっている。 間接所有分はJAPAN EAS INVESTIMENTOS E PARTICIPAÇÕES LTDAが所有している。 役員の兼任等・・・有
GE Passport, LLC (注10)	米国 オハイオ州	千US\$ 210,000	航空・宇宙・防衛	30.0 (30.0)	GE Passport20エンジンの製造、販売、整備、部品供給等のサービス提供を行なっている。 間接所有分は IHI Aero Engines US Co., Ltd. が所有している。 役員の兼任等・・・有
その他 32社					
合 計 35社					

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しています。  
2 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数表示しています。  
3 有価証券報告書を提出しています。  
4 住所を変更しました。  
5 設立したことにより、新たに連結の範囲に含めています。  
6 米州統括会社です。  
7 資本金を変更しました。  
8 当社グループにおける重要性が増したため、新たに連結の範囲に含めています。  
9 資本参加したことにより、新たに持分法適用関連会社としています。  
10 持分を取得したことにより、新たに持分法適用関連会社としています。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成26年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数 (人)
資源・エネルギー・環境	7,224
社会基盤・海洋	2,220
産業システム・汎用機械	9,145
航空・宇宙・防衛	5,958
報告セグメント 計	24,547
その他	2,188
全社 (共通)	827
合計	27,562

(注) 従業員数は就業人員数(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時従業員数については、従業員数の100分の10未満であるため記載していません。

### (2) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数 (人)	平均年齢 (歳)	平均勤続年数 (年)	平均年間給与 (円)
8,331	40.8	14.8	7,200,601

セグメントの名称	従業員数 (人)
資源・エネルギー・環境	2,556
社会基盤・海洋	506
産業システム・汎用機械	875
航空・宇宙・防衛	3,567
報告セグメント 計	7,504
その他	—
全社 (共通)	827
合計	8,331

(注) 1 従業員数は就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時従業員数については、従業員数の100分の10未満であるため記載していません。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいます。

### (3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、I H I 労働組合と称し、連結子会社6社の労働組合と共にI H I 労働組合連合会を組織し、国内9地区にそれぞれ支部を有しています。また、上部団体である日本基幹産業労働組合連合会(基幹労連)を通じて、日本労働組合総連合会(連合)に加盟しています。

I H I 労働組合の組合員数は、平成26年3月31日現在、7,500名です(他社への出向者を含む)。また、I H I 労働組合連合会の組合員数は、9,732名です。

当社と労働組合とは、相互理解に根ざす信頼関係に基づき労働協約を締結しているほか、安全衛生委員会、経営協議会、生産協議会を開催し、相互に隔意のない率直な意見交換により、職場の環境を整備する等労使関係は安定しています。

連結子会社では、国内48社中13社(上記I H I 労働組合連合会を組織する連結子会社6社を除く)で労働組合(組合員数4,536名)が組織され、上部団体は基幹労連です。

また、当社組合と当社連結子会社各社においてそれぞれ組織された労働組合を中心とした21組合によりI H I グループ労働組合連合会(21組合、組合員数14,824名)が組織されています。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、アベノミクスへの期待や、日本銀行の金融緩和政策を受けて円高修正局面を迎え、1ドル90円台後半から100円台前半で安定的に推移したこともあり、景気は緩やかな回復の中でありました。

また、世界経済は、一部を除く新興国での景気の減速懸念があるものの、米国経済の緩やかな回復や、欧州経済の下げ止まりなどにより、全体として緩やかに拡大を続けました。

このような経済環境のもと、当社グループは、平成25年4月よりスタートした「グループ経営方針2013」に基づき、市場特性に応じて括りなおした4事業領域において事業活動を展開したことに加え、「ソリューション・エンジニアリング」「高度情報マネジメント」「グローバルビジネス」の3つのグループ共通機能の取組みを強化することにより、お客さまの価値創造を促進し、当社グループの成長の実現に向けた第一歩を踏み出しました。

当連結会計年度の受注高及び売上高は、前年度まで「船舶・海洋」セグメントを構成していた㈱アイ・エイチ・アイ マリヌナイテッド及びその子会社3社が持分法適用関連会社となった影響により減少したものの、他の全報告セグメントにおいて増加し、受注高が前期比19.0%増の1兆4,589億円、売上高が前期比3.8%増の1兆3,040億円となりました。

損益面では、「船舶・海洋」セグメント除外の影響のほか、「資源・エネルギー・環境」セグメントが減益となったものの、「航空・宇宙・防衛」セグメントの増益により、営業利益が前期比26.4%増の532億円、経常利益は前期比47.0%増の532億円（過去最高益）となりました。当期純利益については、当社グループのIHIメタルテック(株)の圧延機を主体とする事業を三菱日立製鉄機械(株)に承継させる吸収分割を行なったことによる移転利益の計上があったものの、前期に固定資産売却益等の特別利益を計上したことや税金費用の増加の影響等があり、前期比0.8%減の331億円となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

なお、当社グループでは、「グループ経営方針2013」に基づく事業領域の括りなおしに伴い、当連結会計年度より、「資源・エネルギー」「船舶・海洋」「社会基盤」「物流・産業機械」「回転・量産機械」「航空・宇宙」「その他」の7つの報告セグメントから、「資源・エネルギー・環境」「社会基盤・海洋」「産業システム・汎用機械」「航空・宇宙・防衛」の4つの報告セグメントに変更しています。そのため、以下のセグメント別の前期比較は、前期の数値を組み替えて記載しています。

#### <資源・エネルギー・環境>

受注高は、ガスプロセス、ボイラの増加により、前期比64.7%増の4,946億円となりました。

売上高は、原子力が減収となったものの、原動機プラント、ボイラ、陸船用原動機、ガスプロセスの増収や円高修正による増収効果により、前期比7.0%増の3,440億円となりました。

営業利益は、上述の増収の影響があったものの、一部のボイラ工事のコスト増加や見積費等の販管費の増加により前期比28.3%減の116億円となりました。

#### <社会基盤・海洋>

受注高は、海洋構造物、F-LNGの増加により、前期比55.9%増の1,755億円となりました。

売上高は、海洋構造物が減収となったものの、橋梁の増収により、前期比27.5%増の1,503億円となりました。

営業利益は、国内橋梁で採算が悪化したものの、海外橋梁が順調に推移していること及び都市開発の増益等により前期比52.0%増の23億円となりました。

#### <産業システム・汎用機械>

受注高は、運搬機械の減少はあったものの、車両過給機、熱・表面処理の増加により、前期比3.5%増の3,706億円となりました。

売上高は、製鉄機械が減収となったものの、車両過給機、熱・表面処理の増収により、前期比4.0%増の3,978億円となりました。

営業利益は、販管費の増加はあったものの、車両過給機の増収による増益と建機の採算改善等により、前期比10.8%増の151億円となりました。



<航空・宇宙・防衛>

受注高は、航空エンジンの増加により、前期比18.0%増の4,069億円となりました。

売上高は、円高修正等による民間向け航空エンジンの増収により、前期比20.0%増の4,060億円となりました。

営業利益は、航空エンジンのコスト改善に加えて、円高修正等による増収効果が大きく寄与したことにより、前期比138.1%増の367億円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比較して94億円減少し、626億円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって得られた資金は392億円（前連結会計年度は743億円の獲得）となりました。主な資金の増加項目として、税金等調整前当期純利益の計上で604億円、減価償却費の計上で494億円、未払費用の増加で143億円、一方で主な資金の減少項目は、売上債権の増加で400億円、たな卸資産の増加で333億円などです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用された資金は622億円（前連結会計年度は610億円の使用）となりました。これは主に有形及び無形固定資産の取得による支出493億円、有価証券及び投資有価証券の取得による支出161億円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって得られた資金は113億円（前連結会計年度は31億円の使用）となりました。これは主に長期借入れによる収入531億円、長期借入金の返済による支出491億円、社債の発行による収入100億円によるものです。

(注) この項に記載の金額は単位未満を切捨て表示し、比率は四捨五入表示しています。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
資源・エネルギー・環境	323,435	11.2
社会基盤・海洋	149,165	27.1
産業システム・汎用機械	392,379	13.6
航空・宇宙・防衛	386,357	16.8
報告セグメント 計	1,251,336	—
その他	67,711	△56.9
合計	1,319,047	6.2

(注) 1 当連結会計年度から報告セグメントを変更しています。変更の内容については「第5経理の状況 1 連結財務諸表（1）連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりです。

なお、前期比については、前連結会計年度の実績を当連結会計年度の報告セグメントに組み替えたうえで算定しています。

- 2 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しています。
- 3 上記の金額には、消費税等は含まれていません。
- 4 金額及び比率は単位未満を四捨五入表示しています。

### (2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	受注高 （百万円）	前期比（％）	期末受注残高 （百万円）	前期末比（％）
資源・エネルギー・環境	494,635	64.7	535,230	53.7
社会基盤・海洋	175,573	55.9	235,241	18.5
産業システム・汎用機械	370,691	3.5	108,773	△29.5
航空・宇宙・防衛	406,968	18.0	440,324	11.9
報告セグメント 計	1,447,867	—	1,319,568	—
その他	62,332	△65.1	19,305	△1.6
調整額	△51,215	—	—	—
合計	1,458,984	19.0	1,338,873	20.2

(注) 1 当連結会計年度から報告セグメントを変更しています。変更の内容については「第5経理の状況 1 連結財務諸表（1）連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりです。

なお、前期比及び前期末比については、前連結会計年度の実績を当連結会計年度の報告セグメントに組み替えたうえで算定しています。

- 2 各セグメントの受注高は、セグメント間の取引を含んでおり、調整額でセグメント間取引の合計額を消去しています。
- 3 各セグメントの受注残高は、セグメント間の取引については相殺消去しています。
- 4 消費税等は含まれていません。
- 5 金額及び比率は単位未満を四捨五入表示しています。

### (3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	金額 (百万円)	前期比 (%)
資源・エネルギー・環境	344,093	7.0
社会基盤・海洋	150,313	27.5
産業システム・汎用機械	397,820	4.0
航空・宇宙・防衛	406,098	20.0
報告セグメント 計	1,298,324	—
その他	58,953	△66.9
調整額	△53,239	—
合計	1,304,038	3.8

(注) 1 当連結会計年度から報告セグメントを変更しています。変更の内容については「第5経理の状況 1 連結財務諸表 (1) 連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等)」に記載のとおりです。

なお、前期比については、前連結会計年度の販売実績を当連結会計年度の報告セグメントに組み替えたうえで算定しています。

2 各セグメントの売上高は、セグメント間の取引を含んでおり、調整額でセグメント間取引の合計額を消去しています。

3 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は次のとおりです。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
防衛省	149,914	11.9	130,427	10.0

4 販売実績は売上高をもって示します。ただし、消費税等は含まれていません。

5 金額及び比率は単位未満を四捨五入表示しています。

### 3 【対処すべき課題】

今後のわが国経済につきましては、企業収益の改善に基づく設備投資の持ち直しや、アベノミクスの効果の継続などにより、緩やかに回復していくことが予想されます。一方で、世界経済は、米国の金融緩和縮小による影響、欧州債務危機の再燃懸念、中国やその他の新興国経済の先行き等についての不確実性の増大、ウクライナ情勢などに代表される地政学的リスク等が懸念されるなど、国内経済への影響を含め今後の動向を注視する必要があります。

このように、事業のグローバル化に伴い、当社グループを取り巻く経営環境はますます複雑化しており、多様化するリスクに対し、管理を徹底しスピーディーに対応することを経営の基本として取り組んでいます。

「グループ経営方針2013」の初年度である当連結会計年度は、5期連続で全報告セグメントにおいて営業黒字を達成するなど、順調なスタートを切ることができました。

中間年度にあたる平成26年度は、経営目標の達成に向けて成長を加速する重要な年度であると認識しており、次の諸施策を実施してまいります。

#### (1) グループ共通機能の強化と活用

グローバル競争が激化するなかで、お客さまの新たな価値を創造し、当社グループの成長を加速するために、3つのグループ共通機能の強化を図るとともに、4つの事業領域との連携をさらに強化し、既存の事業の枠組みを超えた、製品・サービスの差別化を図ってまいります。

#### (2) 受注の安定的確保

当社グループの成長の加速に向けて、グローバル市場における受注の安定的な確保に向けた取り組みを強化します。特にグローバル重点国（インドネシア・タイ・ベトナム・マレーシア）におけるマーケティング活動を強化し、当社グループのプレゼンスの向上を図るとともに、お客さま・パートナーとの関係をさらに深化させ、個々の市場におけるお客さまの真のニーズに応えてまいります。あわせて、受注活動におけるPDCAサイクルを回して、受注の安定的確保に向けた活動基盤を強化してまいります。

#### (3) 収益構造の改革

「グループ経営方針2013」における当社グループの「成長」とは、事業規模の拡大による利益の拡大を図ることであり、その実現のためには、市場における競争優位性の確保が不可欠であると認識しています。継続的なコストダウン活動によるコスト競争力の強化、海外の大型プロジェクトの収益管理の徹底に加え、製品・サービスの差別化を図り、ビジネスモデルの変革による収益構造の改革に取り組んでまいります。なお、大型プロジェクトの受注及び遂行にあたっては、確立してきた内部管理体制により、リスクマネジメントを確実に実行してまいります。

#### (4) 成長を加速するための経営資源配分の実行

当社グループは、事業の集中と選択等を進めて経営資源を創出し、成長・注力事業及び主力事業に対して重点的に配分することで、成長を加速してまいります。また、平成26年4月に「グループ業務統括室」を新設し、当社グループ内の共通業務を集約して業務効率化を推進するとともに、これにより創出された経営資源を有効に活用してまいります。さらに、当社グループがグローバル市場で成長し続けるための人材の育成・配置を加速してまいります。

#### (5) ものづくり技術力の向上

「技術をもって社会の発展に貢献する」との経営理念に示すとおり、当社グループは、お客さまのニーズに世界最高水準の「ものづくり技術力」で応えてまいります。従業員一人ひとりが、現場・現物・現実を重視する「三現主義」に基づき行動するとともに、それぞれの業務プロセスの品質の向上に取り組み、営業力や設計技術力を含む「ものづくり技術力」を高めることで、当社グループの成長の基盤をさらに強固なものとしします。

当社は、平成25年12月5日に、創業から160年を迎えました。嘉永6年（1853年）、近代日本の夜明けとともに創業した当社は、造船、陸上機械、プラント、航空・宇宙など、幅広い領域で事業を展開し、高度なエンジニアリング力で日本と世界の産業発展と人びとの豊かな暮らしを支えてまいりました。

当社グループは、上述の諸施策を通じて、企業価値の向上を目指すとともに、コーポレート・メッセージである「Realize your dreams」のとおり、お客さまや世界中の人びとの夢を実現する企業グループへと進化を続け、ステークホルダーの皆様のご期待に応えていく所存です。

## 4 【事業等のリスク】

事業の状況、設備の状況、経理の状況に記載した事項のうち、当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成26年3月31日）現在において当社グループが判断したものです。当社グループは、以下のリスクを認識した上で、必要なリスク管理体制を整え、リスク発生の回避及びリスク発生時の影響の極小化に最大限努めています。

### （1）競争環境と事業戦略

わが国の経済は、国内需要が各種経済対策の効果もあって底堅く推移し、世界経済の成長率が次第に高まることなどを背景に、緩やかに回復していくことが期待されます。しかし、当社グループの業績に大きな影響を及ぼす国内民間設備投資を取り巻く環境については、輸出競争力の低下や生産拠点の海外移転により、当面は厳しい競争環境が続くと考えられます。

また、世界経済については、米国を牽引役として引き続き回復傾向にあり、全体としては次第に加速していくと考えられますが、欧州債務問題の長期化や中国経済の減速、地政学的リスクなどの懸念があり、先行きの不確実性は引き続き大きい状況です。

当社グループは、事業の集中と選択、経営資源の集中投入を進めるとともに、グローバルな事業運営を加速していくこととしています。しかし、国内市場における厳しい競争環境の継続や世界経済の成長鈍化、さらには業界再編に伴う競争環境の急激な変化などのリスクが顕在化し、競合企業との間で当社グループの製品・サービスが性能・品質・価格面で十分な競争優位性を得られない場合、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

### （2）他社との連携・M&A、事業統合

当社グループは営業協力、技術協力、生産協力や事業合弁の形で多くの他社との共同事業活動を行なっています。また、成長市場への事業展開の加速、要素技術の補完、シナジーの創出などを目的とした有効なM&Aを活用しています。しかし、経済環境の変化、法的規制、予期せぬ費用増加等の影響により、当初期待された効果を出せない可能性があります。また、当初期待した効果を享受できないと判断された場合は、他社との連携による事業統合の中断、解消を決断する可能性があり、その結果として業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

### （3）カントリーリスク

当社グループの調達・生産・輸出・販売・建設等の諸活動は、北米やヨーロッパ、アジア・オセアニア地域等グローバルに展開されていますが、それぞれの地域・国において政治・経済の混乱並びにそれに起因する為替取引の凍結・債務不履行・投資資産の接収、想定していなかったテロ・労働争議の発生等のカントリーリスクが存在します。また、政情不安やデフォルト等により事業の継続や拠点経営が困難になる可能性があります。貿易保険の付保徹底やカントリーリスクに関する情報の収集とグループ内の啓蒙に努めてはいますが、リスクが顕在化した場合は当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

### （4）資材調達

当社グループはキーとなる主要部品を自社グループ内で製造するよう努めている一方で、複数のグループ外調達先より原材料・部品・サービスの供給を受けています。主要な原材料・部品の市況動向については日常から情報収集に努め安定調達に努めるとともに、調達先の品質・納期等の管理を徹底し、特定の調達先への過度の集中・依存をさけるべく調達先の分散化等を進め、リスクの低減に取り組んでいます。しかしながら、原油・鋼材価格等の急激な変化、あるいは国際情勢の急激な変化による供給不足等の問題が生じた場合、コストアップ、品質管理上の問題、納期遅延等の問題が生じる可能性があり、その結果として業績の悪化を招くおそれがあります。

### （5）保証債務等

当社グループは、事業活動を営む上で必要かつ合法的と確認したものについて、債務の保証等を行なっていますが、経済環境の悪化の長期化や事業の失敗等により債務者の財務状態の悪化が生じた場合、保証の履行を債権者より求められる可能性があります。保証債務等に係る情報は第5「経理の状況」の「注記事項（連結貸借対照表関係）」に記載しています。

(6) 受注契約

当社グループは、個別にお客さまと受注契約を締結した後に製品を生産する 경우가多く、請負金の大きい工事については受注契約締結前に多面的な社内審査を行なっています。しかし、契約締結後に当初想定できなかった経済環境の変化や検討不足、予期しないトラブルの発生、JV等のパートナー企業の経営悪化等により、見積コストを上回る工事の発生、お客さまから要求された性能・納期の未達によるペナルティーの支払い、追加の費用の発生等の可能性があります、その結果として業績の悪化を招くおそれがあります。また、受注契約のお客さま都合による取り消しのケースでは、受注契約条件の中で違約金条項を設定する等そのリスク回避に最大限努力しているものの、必ずしも支出したコストの全額が回収できない可能性があります。

(7) 技術契約

当社グループは、国内外において多岐にわたる機種・技術分野を取り扱うため、他社との間に技術供与・受領に関する契約を締結するケースが多くなっています。締結前には、不利若しくは履行不能な条件の有無や、必要条件の欠落が無いかなど、十分な社内審査を行なっています。しかし、事前の検討不足や契約条件の理解不足等により過大な保証・補填・ペナルティーが発生する、あるいは事業上の制約を受ける等の可能性があります、その結果として業績の悪化を招くおそれがあります。

(8) 生産・製造

当社グループは第3「設備の状況」の「主要な設備の状況」にあるとおり、各地に生産拠点を有しますが、生産施設に影響を及ぼす自然災害、停電、あるいは生産活動をスローダウンさせざるを得ない資機材の入手困難、電力の制限が、事業継続計画（BCP）の想定範囲を超えることがあります。また、生産量が想定以上に急激に変動した場合、生産能力調整が即応できない場合もあります。これらの結果、業績の悪化を招くおそれがあります。

(9) 品質保証

当社グループは、製品の品質確保に努めるとともに、お客さまに安全に使っていただくために、製品安全・機械安全を確保するための設計時のリスクアセスメントの徹底及びお客さまへの注意喚起と情報提供の拡大を図っています。また、当社グループの製品は、品質や安全に関するさまざまな法的規制による制約を受けているため、これらの規制の遵守に努めるとともに、製造物責任賠償保険（P/L保険）に加入する等の対策を講じています。しかしながら、大規模な事故やクレームの発生及び製造物責任賠償につながるような製品の欠陥は、多額のコストに加えて当社グループの社会的評価に重大な影響を及ぼすことが考えられ、これによって当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼすおそれがあります。

(10) 知的財産

当社グループは保有する知的財産の適切な保全（特許・実用新案・先使用権の取得）に努めています。しかし、機種や技術分野は多岐にわたるため、第三者による当社グループの製品・技術の模倣や解析調査等技術的に凌駕しようとする動きを完全に防止することが困難な場合があります。

また、当社グループが将来に向けて開発している製品・技術が、潜在的に他社等の知的所有権を侵害してしまう場合や、従業員の発明に対して適切に対応しない場合は、損害賠償等を求められ当社グループの業績に悪影響を及ぼすおそれがあります。

(11) 研究開発

当社グループの研究開発活動に係る情報は第2「事業の状況」の「研究開発活動」に記載されています。これら研究開発活動は事業の性格上、多額の投資とともに長期の開発時間が必要とされるという特性があります。そのため、実用化の機会の逸失や事業戦略・市場動向との不整合等により十分な成果に結びつかず、当社グループの業績に悪影響を及ぼすおそれがあります。

(12) 法令・規制

当社グループは、グローバルに事業の展開をすすめる上で、日本のみならず、各国・各地域の各種法令、行政による許認可や規制の制約を受けており、その遵守に努めています。しかし、法律・規制に対する理解が不十分、又は予期せぬ変更への対応が適切でない場合等には、各種法令等に違反したと判定され、過料や課徴金による損失や営業停止等の行政処分による機会逸失を被る、あるいはそれに伴う社会的評価の低下によって、業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

係争中の重要な訴訟案件のうち、当社グループの経営に重大な悪影響を及ぼす可能性のある訴訟は存在しません。しかしながら、現時点で認識していない想定外の訴訟が発生した場合、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(13) 情報システム

当社グループは技術情報及び事務管理情報のデータ処理のために多額の投資を行なっています。これらシステム運用並びに導入・更新に際しては、システムトラブルや情報の外部漏洩が発生しないよう最大限の対策を講じていますが、外部からのコンピュータウィルスの感染やハッキングの被害、ホストコンピュータ・サーバ・ネットワーク機器の障害や紛失・盗難、ソフトウェアの不備等によるシステム障害の発生と業務停止、情報の外部漏洩等の事態が発生する可能性があり、それに伴い当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(14) 安全衛生

当社グループは事業所及び建設現場における安全衛生管理には万全の対策を講じていますが、万一不測の事故・災害等が発生した場合には、生産活動に支障をきたし、業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。当社グループは、各種損害保険等に加入する等の対策を講じていますが、大規模な事故や災害が生じた場合、損害の全てを保険求償できない可能性があります。

(15) 環境保全

当社グループには、製造工程で、大気・水質・土壌汚染等の原因となりうる物質を使用している事業所・子会社等があります。これらの物質の管理には万全の注意を払い、万一外部に漏洩した場合においても、その拡大を最小限に抑えるための対策を講じています。しかしながら、想定外の事態が発生した場合には、社会的評価の低下を招くとともに、損害賠償責任が生じ、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(16) 災害・システム不全

当社グループは、伝染病・感染症の世界的流行（パンデミック）、地震・洪水等の大規模災害、テロ等の犯罪行為、情報システムの機能不全によって、業務遂行が阻害されるような事態が生じた場合であっても、その影響を最小限に抑えるべく、事業継続計画（BCP）の整備、非常時を想定した訓練等を実施しています。しかし、想定規模を超える災害やシステム不全が発生した際は、事業を適切に遂行することができず当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(17) 為替動向

外貨に対して円が上昇した場合は外貨建輸出工事における円換算後の入金額は目減りし、下落した場合は現地通貨建の海外調達において円換算支出額の増加を招く等、業績に及ぼす影響も大きくなります。そのため、外貨建の資産と負債のポジションの不均衡に対して、一定の方針に基づき為替予約やマリーの徹底によるリスクヘッジに努めていますが、想定以上の為替変動が発生した場合には、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(18) 金利動向

金利が上昇した場合、当社グループの支払利息が増加し金融収支が悪化します。また、財務活動において借入金又は社債の発行条件が悪化する可能性があり、資金調達に悪影響を与え、ひいては当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(19) 資金調達・格付

当社グループの借入金にはシンジケート・ローンが含まれており、自己資本と利益に関する財務制限条項が付されています。業績の悪化等により同条項に抵触した場合、同ローンの借入れ条件の見直しや期限前弁済義務が生じるおそれがあり、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、格付機関が当社グループの格付を引き下げた場合、当社グループの財務活動において不利な取引条件で取引をせざるを得ない、あるいは一定の取引ができなくなる可能性があります。資金調達に悪影響を与え、ひいては当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(20) 税務

繰延税金資産の計算は、将来の課税所得に関する予測・仮定を含めて個別に資産計上・取崩を行なっていますが、将来の課税所得の予測・仮定が変更され、繰延税金資産の一部ないしは全部が回収できないと判断された場合、当社グループの繰延税金資産は減額され、その結果、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(21) 与信管理

当社グループは、世界中のお客さまに製品・サービスを提供しており、その多くが掛売り又は手形取引となっています。当社はこれに対し、グループ全体で与信管理体制の強化と債権保全の徹底に努めているものの、重要なお客さまが破綻し、その債権が回収できない場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(22) 人材育成

当社グループの将来の成長、技能の伝承は有能な従業員による部分が大きく、高い技術力と技量を有する従業員の確保及び技能の伝承は当社グループの経営課題のひとつです。このようなキーパーソンとなりうる人員を確保あるいは育成できなかった場合には、当社グループの将来の成長、業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。



## 5 【経営上の重要な契約等】

### (1) 技術導入契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	契約期間
当社	ABB TURBO SYSTEMS LTD.	スイス	ターボ過給機	契約品目の日本における独占製造権	平成10年9月24日からJV終了日まで
当社	GEAE TECHNOLOGY, INC.	米国	T700-401C, T700-701Cターボシャフトエンジン	契約品目の製造・販売に関する非独占的権利の取得	平成元年9月26日から平成30年4月30日まで
当社	GEAE TECHNOLOGY, INC.	米国	F110-129ターボファンエンジン	契約品目の製造・販売に関する非独占的権利の取得	平成8年9月27日から平成31年4月30日まで
当社	GEAE TECHNOLOGY, INC.	米国	J79ターボジェットエンジン	契約品目の製造・販売に関する非独占的権利の取得	平成14年3月18日から平成28年4月30日まで
当社	ROLLS-ROYCE CORPORATION	米国	T56-Aターボプロップエンジン	契約品目の製造・販売に関する非独占的権利の取得	平成20年11月7日から平成30年10月31日まで
当社	UNITED TECHNOLOGIES CORPORATION	米国	F100ターボファンエンジン	契約品目の製造・販売に関する非独占的権利の取得	昭和53年6月27日から平成31年9月30日まで
当社	UNITED TECHNOLOGIES CORPORATION	米国	F135ターボファンエンジン	契約品目の日本における非独占製造権	平成25年10月17日から平成27年9月30日まで
㈱ディーゼルユナイテッド (連結子会社)	MAN Diesel & Turbo France SAS	フランス	汎用中速ディーゼルエンジン	契約品目の製造・販売に関する非独占的権利の取得	平成23年1月1日から平成26年12月31日まで
㈱ディーゼルユナイテッド (連結子会社)	WARTSILA SWITZERLAND LTD	スイス	汎用低速ディーゼルエンジン	契約品目の製造・販売に関する非独占的権利の取得	平成21年1月1日から平成31年12月31日まで
㈱I H I エアロスペース (連結子会社)	LOCKHEED MARTIN CORP.	米国	多連装ロケットシステム	契約品目の製造・販売に関する非独占的権利の取得	平成5年1月20日から平成28年8月31日まで

### (2) 技術供与契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	契約期間
I H I 建機㈱ (連結子会社)	IHIMER S. p. A	イタリア	ミニショベル	契約品目の製造・販売に関する独占的権利の供与	平成14年8月31日から平成29年3月31日まで
㈱I H I シバウラ (連結子会社)	無錫珀金斯芝浦発動機有限公司	中国	ディーゼルエンジン	契約品目に係る技術の独占実施権の供与	平成21年1月1日から平成30年12月31日まで

## 6 【研究開発活動】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、事業本部、セクターや連結子会社各社と技術開発本部が密接に連携・協力し、資源・エネルギー・環境、社会基盤・海洋、産業システム・汎用機械、航空・宇宙・防衛のセグメントにおける各製品の競争力強化、及び今後の事業拡大・創造につながる基礎研究から実用化研究までを強力に推進しています。また、国内外の大学や研究機関との産学連携による共同研究にも積極的に取り組んでいます。

当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は335億円です。

各セグメント別の主な研究開発の成果及び研究開発費は次のとおりです。

### (1) 資源・エネルギー・環境

エネルギー・プラントセクター、原子力セクター、及び技術開発本部と連結子会社により、ボイラ、原動機プラント、陸船用原動機、ガスプロセス、原子力等に係る研究開発を行なっています。

連結子会社で研究開発を行なっているのは、主に新潟原動機㈱、㈱IHI環境エンジニアリング等です。

当連結会計年度の主な成果として、IMO NOx 3次規制に対応した船用中速デュアルフューエルエンジン「AHX-DF」の開発、ハイブリッド推進システムの開発とこれを搭載した日本初の環境配慮型タグボートの就航等が挙げられます。また、十分に利用が進んでいない低品位炭から燃料や化学原料となるガスを生成する二塔式ガス化炉について、インドネシアでの実証運転に向けた開発を継続しています。当セグメントに係る研究開発費は102億円です。

### (2) 社会基盤・海洋

社会基盤セクター、海洋・鉄構セクター、都市開発セクター及び技術開発本部と連結子会社により、橋梁、交通システム、F-LNG等に係る研究開発を行なっています。

連結子会社で研究開発を行なっているのは、主に㈱IHIインフラシステム、新潟トランスス㈱等です。

当連結会計年度の主な成果として、国土交通省 四国運輸局策定の「津波救命艇ガイドライン」への適合とこれに適合した津波救命艇の受注、当社とジャパン マリンユナイテッド㈱による中東のUnited Arab Shipping社の大型コンテナ船向けアルミ製SPB LNG燃料タンクの開発合意等が挙げられます。当セグメントに係る研究開発費は6億円です。

### (3) 産業システム・汎用機械

産業・ロジスティクスセクター、車両過給機セクター、回転機械セクター及び技術開発本部と連結子会社により、運搬機械、熱・表面処理、車両過給機、圧縮機等に係る研究開発を行なっています。

連結子会社で研究開発を行なっているのは、主にIHI運搬機械㈱、IHI建機㈱、IHI Hauzer Techno Coating B.V.、Indigo TopCo Limited、㈱IHIフォイトペーパーテクノロジー、㈱IHIロジテック、IHI Charging Systems International GmbH、㈱IHIシパウラ、㈱IHIスター等です。

当連結会計年度の主な成果として、高効率で系統連系可能な最大送電端発電出力20kWのパッケージタイプ小型バイナリー発電装置の販売開始、当社相馬事業所内に設置した国内最大となる2,800kWhの蓄電容量を持つコンテナ型大容量リチウムイオン蓄電システムの開発・設置等が挙げられます。当セグメントに係る研究開発費は58億円です。

### (4) 航空・宇宙・防衛

航空宇宙事業本部及び技術開発本部と連結子会社により、航空エンジン、ロケットシステム・宇宙利用、防衛機器システム等に係る研究開発を行なっています。

連結子会社で研究開発を行なっているのは、主に㈱IHIエアロスペース、㈱IHIキャスティングス等です。

当連結会計年度の主な成果として、宇宙分野においては(独)宇宙航空研究開発機構（JAXA）のイプシロンロケット試験機の打ち上げ成功等が挙げられます。一方、航空エンジン分野においては次世代エンジンに向けてセラミック複合材料や新鍛造材料の開発等を進めています。当セグメントに係る研究開発費は71億円です。

### (5) その他

ソリューション統括本部、高度情報マネジメント統括本部、技術開発本部及び情報システム部等の本社部門と連結子会社により、新技術・新事業分野に係る研究開発を行なっています。

連結子会社で研究開発を行なっているのは、主に㈱IHIエスキューブ、明星電気㈱、㈱IHI検査計測、Algae Systems, LLC. 等です。

当連結会計年度の主な成果として、地域稠密気象観測網POTEKAの観測値を用いた台風に伴う竜巻現象の捕捉等が挙げられます。当セグメントに係る研究開発費は96億円です。

(注) この項に記載の金額は単位未満を切捨て表示しています。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されています。連結財務諸表の作成にあたり、連結貸借対照表上の資産、負債の計上額、及び連結損益計算書上の収益、費用の計上額に影響を与える判断、見積りを行なう必要があります。当社グループの重要な会計方針のうち、判断、見積りを行なう割合が高いものは、貸倒引当金、退職給付引当金、受注工事損失引当金などの各引当金の計上、繰延税金資産の回収可能性の判断などがあります。これらの判断、見積りについては合理的な方法により算定していますが、見積り特有の不確実性が存在するため、将来において認識される業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。これらのうち、重要なものについては、「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載しています。

### (2) 経営成績の分析

#### ①概要

当社グループの当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度比3.8%増の1兆3,040億円となりました。損益面については、営業利益が532億円、経常利益が532億円、当期純利益が331億円となりました。

#### ②売上高

売上高は、前連結会計年度と比べて479億円増加し、1兆3,040億円となりました。

㈱アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド及びその子会社3社が持分法適用関連会社となった影響により減少したほか、製鉄機械が減収となったものの、民間向け航空エンジン、橋梁、車両過給機が増収となったため、全体として増収となりました。なお、海外売上高は、前連結会計年度比27.2%増の6,185億円、連結売上高に対する占有率は47%（前連結会計年度は39%）となりました。

#### ③営業損益

営業損益は、前連結会計年度と比べて111億円改善し、532億円の利益となりました。

㈱アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド及びその子会社3社が持分法適用関連会社となった影響により減益となったものの、コスト改善に加えて円高修正等による増収効果が大きく寄与して航空エンジンが増益となったため、全体として増益となりました。

#### ④営業外損益及び経常損益

営業外損益は、前連結会計年度の59億円の損失（純額）から、36百万円の損失（純額）となり、58億円改善しました。これは、主として営業外損失として計上した契約納期遅延に係る費用が減少したこと、金融収支の改善及び持分法による投資利益の増加によるものです。

この結果、経常損益は前連結会計年度と比べて170億円改善し、532億円の利益となりました。

#### ⑤特別損益

特別損益は、前連結会計年度の210億円の利益（純額）から、72億円の利益（純額）となり、137億円悪化しました。これは、当連結会計年度においてIHIメタルテック㈱の圧延機を主体とする事業を三菱日立製鉄機械㈱に承継させる吸収分割を行なったことによる移転利益75億円を計上したものの、前連結会計年度において、豊洲三丁目土地共有持分の売却益135億円及び㈱アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッドとユニバーサル造船㈱との合併による経営統合に伴う持分変動利益118億円を計上していたことによるものです。

#### ⑥当期純損益

上述の要因を反映して、当期純損益は前連結会計年度の333億円の利益に対し、2億円悪化して331億円の利益となりました。これにより、1株当たり当期純利益の金額は、前連結会計年度の22円81銭に対し、22円51銭となりました。

### (3) 当連結会計年度末の財政状態の分析

#### 資産及び負債、純資産の状況

当連結会計年度末における総資産は1兆4,963億円となり、前連結会計年度末と比較して1,321億円増加しました。主な増加項目は、受取手形及び売掛金で466億円、投資有価証券で332億円、仕掛品で316億円です。

負債は1兆1,338億円となり、前連結会計年度末と比較して688億円増加しました。主な増加項目は、未払費用で164億円、支払手形及び買掛金で146億円、退職給付に係る未認識負債の計上等で144億円、固定負債その他で140億円、長期借入金で136億円です。なお、2016年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債（以下、「転換社債」という。）233億円の転換及び償還並びに新規の社債発行100億円により、社債で133億円減少しています。

純資産は3,625億円となり、前連結会計年度末と比較して632億円増加しました。上述の転換社債の転換により、資本金が114億円、資本剰余金が113億円増加しています。また、当期純利益331億円、剰余金の配当による減少73億円、退職給付に係る未認識負債の計上による減少50億円が含まれています。

以上の結果、1株当たり純資産額は、前連結会計年度末と比較して26円60銭増加して、223円68銭となり、自己資本比率は、前連結会計年度末の21.1%から23.1%となりました。

### (4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの運転資金・設備資金については、借入金や社債、コマーシャル・ペーパー及び自己資金により充当しています。当連結会計年度末の有利子負債残高はリース債務を含めて3,578億円であり、前連結会計年度末と比較して39億円増加しています。

当連結会計年度末の現金及び現金同等物は626億円であり、主要銀行とのコミットメントライン契約や当座貸越枠、コマーシャル・ペーパーなど多様な調達手段とあわせて、十分な流動性を確保しています。

### (5) 経営者の問題認識と今後の方針

当社グループを取り巻く経営環境は、資源・エネルギー問題、欧州債務問題の再燃懸念、中国やその他の新興国経済の先行き等についての不確実性の増大、地政学的リスク、為替の変動など、世界規模で大きく変化を続けており、この変化に的確に対応していくことが経営上の重要な課題と認識しています。

当社グループは、平成24年11月に「グループ経営方針2010」の結果と反省、当時の当社グループを取り巻く経営環境を踏まえ、社会が抱える様々な課題を積極的に解決することによる「成長」をテーマに掲げ、平成25年度を初年度とする3ヵ年の中期経営計画である「グループ経営方針2013」を策定しました。

同方針の策定にあたって、私たちを取り巻く社会は「スマートな社会インフラ」「新たな高度情報化」「複雑化する世界経済」という3つの大きな潮流（メガトレンド）の中にあると認識しました。これらのメガトレンドに対応するために、「既存事業間及び既存事業と周辺事業を『つなぐ』」「製品・サービスとICTを『つなぐ』」「グローバルな規模でお客さまやパートナーとIHIグループを『つなぐ』」の3つの「つなぐ」取り組みを強化していくこととし、平成25年4月に「ソリューション統括本部」「高度情報マネジメント統括本部」「グローバルビジネス統括本部」の3つの統括本部を新設するとともに、お客さまの課題解決のため、市場特性に応じて当社グループが取り扱う事業を、「資源・エネルギー・環境」「社会基盤・海洋」「産業システム・汎用機械」「航空・宇宙・防衛」の4事業領域に括りなおしました。当社グループを取り巻く環境は変化し続けているものの、メガトレンドに変わりはないと認識しており、3つの統括本部と4事業領域との連携を進め、お客さまの価値を創造し、当社グループの成長を実現してまいります。

また、新事業領域として、社会的な課題となっている「ライフサイエンス・食料・水」分野などから、将来の事業の創出に取り組んでいます。

なお、同方針では、具体的な数値目標として、為替レート1米ドル=80円の前提で、平成27年度での連結売上高1兆4,000億円、連結営業利益700億円、投下資本利益率（ROIC）6.5%、D/Eレシオ（安定性指標）1.2倍以下及び投資総額3ヵ年合計4,000億円の達成を掲げています。

当社グループは、「グループ経営方針2013」への取り組みを通じて、企業価値を向上させ、世界をリードする企業グループへと躍進することを、目指していく所存です。

（注）この項に記載の金額は単位未満を切捨て表示しています。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）では、競争力強化のため生産能力の増強、生産体制の整備、生産の合理化等に重点的な投資を行ない、当連結会計年度における投資総額は545億円となりました。セグメント別の投資の概要は以下のとおりです。

資源・エネルギー・環境では、生産能力の増強、生産体制の整備、生産の合理化・省力化のため、81億円の投資を実施しました。

社会基盤・海洋では、生産体制の整備、現有設備の維持更新、賃貸用不動産の取得のため、91億円の投資を実施しました。

産業システム・汎用機械では、生産能力の増強、生産体制の整備、生産の合理化・省力化のため、146億円の投資を実施しました。

航空・宇宙・防衛では、生産能力の増強、生産体制の整備、現有設備の維持更新のため、172億円の投資を実施しました。

その他では、生産の合理化・省力化、現有設備の維持更新のため、53億円の投資を実施しました。

所要資金については、主として自己資金により充当しました。

（注） この項に記載の金額は単位未満を切捨て表示しています。

#### 2【主要な設備の状況】

当連結会計年度末における当社グループ（当社及び連結子会社）の主要な設備の状況は、以下のとおりです。

（注）以下の表に記載の金額は単位未満を四捨五入表示しています。

##### （1）提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額（百万円）						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他 (注1)	合計	
相生工場 (兵庫県相生市)	資源・ エネルギー ・環境	ボイラ 生産設備	768	1,171	223 (193)	16	86	2,264	423
横浜第一工場 (神奈川県横浜市)	資源・ エネルギー ・環境	原子力機器 生産設備	2,206	3,114	555 (114)	136	496	6,507	264
横浜第二工場 (神奈川県横浜市)	資源・ エネルギー ・環境	原子力機器 生産設備	1,218	340	551 (113)	87	21	2,217	138
愛知工場 (愛知県知多市)	社会基盤 ・海洋	F-LNG・ 海洋構造物 生産設備	3,642	1,237	3,433 (734)	1,976	101	10,389	417
瑞穂工場 (東京都西多摩郡)	航空・宇宙 ・防衛	航空エンジン・ 宇宙開発関連機器 生産設備	3,614	4,477	1,979 (168)	732	599	11,401	1,491
相馬工場 (福島県相馬市)	航空・宇宙 ・防衛	航空エンジン・ 宇宙開発関連機器 生産設備	6,852	9,870	3,391 (374)	1,277	6,972	28,362	878
呉第二工場 (広島県呉市)	航空・宇宙 ・防衛	航空エンジン 生産設備	1,049	1,623	57 (48)	574	690	3,993	479
本社 (東京都江東区他) (注2, 3)	その他	その他設備	80,516	4,883	35,211 (132,808)	3,526	5,030	129,166	3,645

（注）1 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品及び建設仮勘定の合計です。

2 本社の土地の帳簿価額には、鹿児島市所在及びブラジル国内保有土地等を含みます。

3 帳簿価額には、社会基盤・海洋セグメントに属する資産（主に賃貸用資産）の帳簿価額91,959百万円を含みます。

## (2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額 (百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他 (注)	合 計	
新潟原動機㈱	太田工場 (群馬県太田市)	資源・ エネルギー ・環境	生産 設備	495	863	2,152 (152)	3	66	3,579	334
㈱IHIインフラシステム	堺工場 (大阪府堺市)	社会基盤 ・海洋	生産 設備	2,663	805	6,931 (170)	—	172	10,572	485
IHI運搬機械㈱	沼津工場 (静岡県沼津市)	産業シス テム・汎用 機械	生産 設備	689	170	1,345 (108)	31	12	2,247	129
㈱IHI回転機械	辰野工場 (長野県上伊那郡)	産業シス テム・汎用 機械	生産 設備	968	886	418 (65)	275	177	2,724	384
㈱IHIターボ	木曾工場 (長野県木曾郡)	産業シス テム・汎用 機械	生産 設備	1,039	1,199	89 (45)	1,319	737	4,388	363
㈱IHIシパウラ	松本工場 (長野県松本市)	産業シス テム・汎用 機械	生産 設備	1,286	850	5,490 (117)	163	1,020	8,809	482
㈱IHIエアロスペース	富岡工場 (群馬県富岡市)	航空・宇宙 ・防衛	生産 設備	4,120	3,047	2,388 (490)	22	1,107	10,684	923

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品及び建設仮勘定の合計です。

## (3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額 (百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他 (注1)	合 計	
Indigo TopCo Ltd. (注2)	スイス 他	産業シス テム・汎用 機械	生産 設備	403	3,946	469 (35)	178	1,822	6,818	871
IHI Charging Systems International GmbH (注2)	ドイツ, イタリア	産業シス テム・汎用 機械	生産 設備	734	12,546	180 (8)	2,849	3,513	19,822	944
IHI TURBO (THAILAND) CO., LTD.	タイ	産業シス テム・汎用 機械	生産 設備	1,341	2,048	327 (54)	—	508	4,224	738

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品及び建設仮勘定の合計です。

2 Indigo TopCo Ltd.及びIHI Charging Systems International GmbHは、それぞれの子会社を連結した数値で表示しています。

### 3【設備の新設，除却等の計画】

当社グループ（当社及び連結子会社）の当連結会計年度終了後1年間の設備投資計画については，生産能力の増強，生産体制の整備，生産の合理化・省力化，現有設備の維持更新等のため，750億円を計画しています。なお，セグメントごとの内訳は次のとおりです。

#### （1）新設・改修

セグメントの名称	平成26年度 計画金額（百万円）	設備の内容
資源・エネルギー・環境	10,700	ボイラ生産設備，陸船用原動機生産設備 原子力機器生産設備等
社会基盤・海洋	15,500	橋梁・水門生産設備，不動産賃貸物件整備， フローティングLNG貯蔵設備生産設備等
産業システム・汎用機械	17,000	熱・表面処理加工設備，車両過給機生産設備等
航空・宇宙・防衛	18,100	航空エンジン・宇宙開発関連機器生産設備等
報告セグメント計	61,300	
その他（注3）	13,700	福利厚生関連設備等
合計	75,000	

（注）1 金額には消費税等を含めていません。

2 投資予定に関する所要資金については，主として自己資金及び借入金等により充当する予定です。

3 その他には，各報告セグメントに帰属していない全社の設備投資額が含まれています。

#### （2）売却・廃却

平成26年3月31日現在における，当社グループの重要な設備に係る売却・廃却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	3,300,000,000
計	3,300,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数（株） （平成26年3月31日）	提出日現在 発行数（株） （平成26年6月27日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,546,799,542	1,546,799,542	東京・名古屋 （市場第一部） 福岡・札幌 各証券取引所	完全議決権であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式。単元株式数は1,000株です。
計	1,546,799,542	1,546,799,542	—	—

（注） 「提出日現在発行数」欄には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれていません。

#### (2)【新株予約権等の状況】

当社は、会社法に基づき新株予約権を発行しています。

##### ① 平成19年7月23日開催の取締役会決議（第1回新株予約権）

	事業年度末現在 （平成26年3月31日）	提出日の前月末現在 （平成26年5月31日）
新株予約権の数（個）	76	76
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数1,000株	同左
新株予約権の目的となる株式の数（株）	76,000	76,000
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1	同左
新株予約権の行使期間	平成19年8月10日～ 平成49年8月9日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 463 資本組入額 232	同左
新株予約権の行使の条件	（注1）	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡により取得するには、当社取締役会の承認を要します。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	（注2）	同左



② 平成20年7月22日開催の取締役会決議（第2回新株予約権）

	事業年度末現在 (平成26年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成26年5月31日)
新株予約権の数（個）	276	276
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数1,000株	同左
新株予約権の目的となる株式の数（株）	276,000	276,000
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1	同左
新株予約権の行使期間	平成20年8月19日～ 平成50年8月18日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 186 資本組入額 93	同左
新株予約権の行使の条件	（注1）	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡により 取得するには、当社取締役 会の承認を要します。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	（注2）	同左

③ 平成21年7月21日開催の取締役会決議（第3回新株予約権）

	事業年度末現在 (平成26年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成26年5月31日)
新株予約権の数（個）	488	469
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数1,000株	同左
新株予約権の目的となる株式の数（株）	488,000	469,000
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1	同左
新株予約権の行使期間	平成21年8月6日～ 平成51年8月5日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 166 資本組入額 83	同左
新株予約権の行使の条件	（注1）	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡により 取得するには、当社取締役 会の承認を要します。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	（注2）	同左

## ④ 平成22年7月23日開催の取締役会決議（第4回新株予約権）

	事業年度末現在 (平成26年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成26年5月31日)
新株予約権の数(個)	646	623
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数1,000株	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	646,000	623,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	平成22年8月10日～ 平成52年8月9日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 155 資本組入額 78	同左
新株予約権の行使の条件	(注1)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡により 取得するには、当社取締役 会の承認を要します。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注2)	同左

## ⑤ 平成23年7月25日開催の取締役会決議（第5回新株予約権）

	事業年度末現在 (平成26年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成26年5月31日)
新株予約権の数(個)	541	524
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数1,000株	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	541,000	524,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1	同左
新株予約権の行使期間	平成23年8月18日～ 平成53年8月17日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 179 資本組入額 90	同左
新株予約権の行使の条件	(注1)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡により 取得するには、当社取締役 会の承認を要します。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注2)	同左

⑥ 平成24年7月23日開催の取締役会決議（第6回新株予約権）

	事業年度末現在 (平成26年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成26年5月31日)
新株予約権の数（個）	798	771
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数1,000株	同左
新株予約権の目的となる株式の数（株）	798,000	771,000
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1	同左
新株予約権の行使期間	平成24年8月17日～ 平成54年8月16日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 160 資本組入額 80	同左
新株予約権の行使の条件	(注1)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡により 取得するには、当社取締役 会の承認を要します。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注2)	同左

⑦ 平成25年7月22日開催の取締役会決議（第7回新株予約権）

	事業年度末現在 (平成26年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成26年5月31日)
新株予約権の数（個）	350	350
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数1,000株	同左
新株予約権の目的となる株式の数（株）	350,000	350,000
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1	同左
新株予約権の行使期間	平成25年8月22日～ 平成55年8月21日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 377 資本組入額 189	同左
新株予約権の行使の条件	(注1)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡により 取得するには、当社取締役 会の承認を要します。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注2)	同左

(注) 1 新株予約権の行使の条件

- (1) 新株予約権者は、当社の取締役又は執行役員 of いずれの地位をも喪失した日（取締役又は執行役員退任後1年以内に監査役に就任した場合は当該監査役の地位を喪失した日）から1年経過した日（以下、「権利行使開始日」という。）以降、5年間に限り新株予約権を行使することができます。

- (2) 上記(1)にかかわらず、新株予約権者は、以下の(ア)又は(イ)に定める場合(ただし、(イ)については、新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付された場合を除く。)には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとします。

(ア) 新株予約権者が、各新株予約権について次に掲げる日(以下、「期限日」という。)に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合。

回次	期限日	新株予約権を行使できる期間
第1回新株予約権	平成48年8月9日	平成48年8月10日から平成49年8月9日
第2回新株予約権	平成49年8月18日	平成49年8月19日から平成50年8月18日
第3回新株予約権	平成50年8月5日	平成50年8月6日から平成51年8月5日
第4回新株予約権	平成51年8月9日	平成51年8月10日から平成52年8月9日
第5回新株予約権	平成52年8月17日	平成52年8月18日から平成53年8月17日
第6回新株予約権	平成53年8月16日	平成53年8月17日から平成54年8月16日
第7回新株予約権	平成54年8月21日	平成54年8月22日から平成55年8月21日

(イ) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議又は代表執行役の決定がなされた場合)

当該承認日の翌日から15日間

- (3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、係る新株予約権を行使することができないものとします。

## 2 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割若しくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。)、又は株式交換若しくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。)(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生日(吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。)の直前において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を交付することとします。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとします。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とします。

- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとします。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とします。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件等を勘案の上、残存新株予約権に定められた事項に準じて決定します。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に、上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とします。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とします。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間  
上記表中に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記表中に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとします。

- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
残存新株予約権に定められた事項に準じて決定します。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとします。
- (8) 新株予約権の取得条項  
残存新株予約権に定められた事項に準じて決定します。
- (9) その他の新株予約権の行使の条件  
上記(注)1に準じて決定します。
- (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】  
該当事項はありません。
- (4) 【ライツプランの内容】  
該当事項はありません。
- (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年1月14日～ 平成26年3月25日 (注1)	79,741	1,546,799	11,402	107,165	11,387	54,520

- (注) 1 転換社債型新株予約権付社債に付された新株予約権の行使による増加です。  
2 平成26年4月1日から当有価証券報告書提出日(平成26年6月27日)までに資本金の増減はありません。

(6) 【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

区 分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	1	91	70	995	450	55	82,539	84,201	—
所有株式数 (単元)	14	541,024	25,324	65,144	563,946	255	348,462	1,544,169	2,630,542
所有株式数の割合 (%)	0.00	35.04	1.64	4.22	36.52	0.01	22.57	100	—

- (注) 1 自己株式は3,369,103株であり「個人その他」欄に3,369単元、「単元未満株式の状況」欄に103株含まれています。  
2 上記「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が7単元含まれています。

## (7) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する所有株式 数の割合 (%)
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U. S. A (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	59,412	3.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	57,608	3.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社東芝退職給付信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	55,422	3.58
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	54,060	3.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	48,903	3.16
クレディ・スイス・セキュリティーズ (ユーエスエー) エルエルシー エスピーシーエル, フォー イーエックスシーエル, ビーイーエヌ (常任代理人 クレディ・スイス証券株式会社)	ELEVEN MADISON AVENUE NEW YORK NY 10010-3629 USA (東京都港区六本木一丁目6番1号)	48,529	3.13
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託 みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス 信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8番12号	45,979	2.97
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラーアカウント (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	200 West Street, New York, NY, USA (東京都港区六本木6丁目10番1号)	26,759	1.73
I H I 共栄会	東京都江東区豊洲三丁目1番1号	25,562	1.65
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	23,867	1.54
計	—	446,104	28.84

(注) 1 株式数及び持株比率は単位未満を切捨て表示しています。

2 「日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)」「日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社東芝退職給付信託口)」「日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)」及び「みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社」の所有株式は、当該各社の信託業務に係る株式です。

- 3 ブラックロック・ジャパン株式会社及び共同保有者8社から、平成25年7月5日付で大量保有報告書の写しの送付があり、平成25年6月28日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けていますが、当社として平成26年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができないため、大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
ブラックロック・ジャパン株式会社	13,150	0.85
ブラックロック・アドバイザーズ・エルエルシー	15,906	1.03
ブラックロック・インベストメント・マネジメント・エルエルシー	2,035	0.13
ブラックロック (ルクセンブルグ) エス・エー	3,852	0.25
ブラックロック・ライフ・リミテッド	3,851	0.25
ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド	4,080	0.26
ブラックロック・アドバイザーズ (UK) リミテッド	3,708	0.24
ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ	10,380	0.67
ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー, エヌ. エイ.	16,690	1.08
計	73,654	4.76

- 4 株式会社みずほ銀行及び共同保有者4社から、平成25年7月22日付で変更報告書の写しの送付があり、平成25年7月15日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として平成26年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができないため、大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社みずほ銀行	66,890	4.32
みずほ証券 株式会社	2,343	0.15
みずほ信託銀行株式会社	20,596	1.33
新光投信株式会社	1,499	0.10
みずほインターナショナル	1,749	0.11
計	93,078	6.02

- 5 アーチザン・インベストメンツ・ジーピー・エルエルシーから、平成26年1月7日付で大量保有報告書の写しの送付があり、平成25年12月31日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として平成26年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができないため、大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
アーチザン・インベストメンツ・ジーピー・エルエルシー	88,975	5.75

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区 分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内 容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,369,000	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 157,000	—	同 上
完全議決権株式 (その他)	普通株式 1,540,643,000	1,540,643	同 上
単元未満株式	普通株式 2,630,542	—	1 単元 (1,000株) 未満の株式
発行済株式総数	1,546,799,542	—	—
総株主の議決権	—	1,540,643	—

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が103株含まれています。

2 「完全議決権株式 (その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の名義書換失念株式が7,000株含まれています。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の名義書換失念株式に係る議決権の数7個が含まれています。

## ② 【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に対 する所有株式数の割 合 (%)
(自己保有株式) ㈱ I H I	東京都 江東区豊洲 三丁目1番1号	3,369,000	—	3,369,000	0.22
(相互保有株式) 近藤鉄工㈱	東京都 中央区八重洲 二丁目10番5号	142,000	—	142,000	0.01
皆川農器製造㈱	新潟県 三条市田島 二丁目20番13号	15,000	—	15,000	0.00
計	—	3,526,000	—	3,526,000	0.23



## (9) 【ストックオプション制度の内容】

	第1回新株予約権
決議年月日	平成19年7月23日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社の取締役13名及び執行役員13名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

	第2回新株予約権
決議年月日	平成20年7月22日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社の取締役13名及び執行役員11名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

	第3回新株予約権
決議年月日	平成21年7月21日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社の取締役13名及び執行役員14名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

	第4回新株予約権
決議年月日	平成22年7月23日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社の取締役13名及び執行役員13名
新株予約権の目的となる株式の種類	「（2）新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数（株）	同上
新株予約権の行使時の払込金額（円）	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

	第5回新株予約権
決議年月日	平成23年7月25日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社の取締役13名及び執行役員14名
新株予約権の目的となる株式の種類	「（2）新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数（株）	同上
新株予約権の行使時の払込金額（円）	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

	第6回新株予約権
決議年月日	平成24年7月23日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社の取締役13名及び執行役員15名
新株予約権の目的となる株式の種類	「（2）新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数（株）	同上
新株予約権の行使時の払込金額（円）	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

	第7回新株予約権
決議年月日	平成25年7月22日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社の取締役13名及び執行役員14名
新株予約権の目的となる株式の種類	「（2）新株予約権等の状況」に記載のとおり
株式の数（株）	同上
新株予約権の行使時の払込金額（円）	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

区 分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	20,930	8,714,146
当期間における取得自己株式	1,474	613,762

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日から当有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれていません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区 分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行なった取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行なった取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行なった取得自己株式	—	—	—	—
その他 (注1)	400,492	78,908,428	86,000	16,989,690
保有自己株式数	3,369,103	—	3,284,577	—

(注) 1 当事業年度の内訳は、新株予約権の権利行使によるもの(株式数365,000株, 処分価額の総額71,913,700円), 転換社債型新株予約権付社債の転換によるもの(株式数34,989株, 処分価格の総額6,895,982円), 単元未満株式の売渡請求によるもの(株式数503株, 処分価額の総額98,746円)です。また、当期間は新株予約権の権利行使によるものです。

2 当期間におけるその他の欄には、平成26年6月1日から当有価証券報告書提出日までの新株予約権の権利行使及び単元未満株式の売渡による株式は含まれていません。

### 3 【配当政策】

当社は、株主に対して安定的な配当を行なうことを重視するとともに、その安定配当の実施を可能とする経営基盤の強化のために必要な内部留保の充実にも配慮して、利益配分を決定することにしていきます。

年間の配当回数は、中間配当及び期末配当の2回を基本的な方針としており、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は定時株主総会です。なお、定款において、「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行なうことができる。」旨を定めています。

当期の配当金については、当事業年度の業績並びに今後の事業展開等を勘案し、年間1株当たり6円（中間配当は無配）としています。

内部留保については、経営基盤の一層の強化・充実並びに今後の事業展開に有効活用し、長期的に株主利益の向上に努めていきます。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりです。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成26年6月27日 定時株主総会決議	9,261	6

(注) 金額は単位未満を四捨五入表示しています。

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第193期	第194期	第195期	第196期	第197期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	200	226	222	310	516
最低(円)	114	139	160	150	261

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものです。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	422	431	456	516	482	499
最低(円)	369	391	418	449	425	410

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものです。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長	—	金 和明	昭和23年12月26日生	昭和46年7月 当社入社 平成16年6月 当社執行役員 財務部長 平成17年4月 当社常務執行役員 平成17年6月 当社取締役 平成19年4月 当社代表取締役社長 最高経営執行責任者 平成24年4月 当社代表取締役会長（現任）	（注6）	164
代表取締役 社長	最高経営 責任者	斎藤 保	昭和27年7月13日生	昭和50年4月 当社入社 平成18年4月 当社航空宇宙事業本部副本部長 平成18年6月 当社執行役員 平成20年1月 当社航空宇宙事業本部長 平成20年4月 当社取締役 平成21年4月 当社常務執行役員 平成23年4月 当社代表取締役副社長 平成24年4月 当社代表取締役社長（現任） 最高経営執行責任者（現任） （平成26年6月27日付で最高経営責任者へ改称）	（注6）	89
代表取締役 副社長	—	中村 房芳	昭和27年3月11日生	昭和49年4月 当社入社 平成15年4月 当社機械事業本部車両過給機事業部長 平成19年4月 当社執行役員 車両過給機セクター 副セクター長 平成20年4月 当社取締役 車両過給機セクター長 平成22年4月 当社常務執行役員 平成23年4月 当社代表取締役副社長（現任） 副社長執行役員	（注6）	38
代表取締役 副社長	—	出川 定男	昭和26年7月20日生	昭和52年4月 当社入社 平成16年7月 当社技術開発本部副本部長 平成20年4月 当社執行役員 技術開発本部長 平成21年6月 当社取締役 平成23年4月 当社常務執行役員 平成24年4月 当社代表取締役副社長（現任）	（注6）	60
代表取締役 副社長	—	石戸 利典	昭和28年7月6日生	昭和53年4月 当社入社 平成16年7月 当社航空宇宙事業本部民間エンジン 事業部長 平成19年4月 当社執行役員 航空宇宙事業本部副本部長 平成22年4月 当社常務執行役員 航空宇宙事業本部長 平成23年6月 当社取締役 平成26年4月 当社代表取締役副社長（現任）	（注6）	38
取締役	—	坂本 譲二	昭和27年11月23日生	昭和51年4月 当社入社 平成14年7月 当社総務部長 平成17年7月 当社広報室長 平成19年4月 当社コンプライアンス統括室長（兼） 契約法務部長 平成20年4月 当社執行役員 体制改善プロジェクト室長 平成21年6月 当社取締役（現任）	（注6）	53

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	—	寺井 一郎	昭和29年1月12日生	昭和51年4月 当社入社 平成14年7月 当社財務部税務・設備グループ部長 平成21年4月 当社執行役員 財務部次長 平成21年6月 当社取締役(現任) 財務部長 平成24年4月 当社常務執行役員	(注6)	15
取締役	—	岩本 宏	昭和27年9月11日生	昭和51年4月 当社入社 平成17年4月 当社人事部長 平成20年4月 当社執行役員 平成20年7月 IHIINC.(米州統括会社)社長 平成22年4月 当社営業・グローバル戦略本部 副本部長 平成23年4月 当社常務執行役員 中国総支配人 平成24年4月 当社営業・グローバル戦略本部長 平成24年6月 当社取締役(現任) 平成25年4月 当社グローバルビジネス統括本部長	(注6)	48
取締役	—	浜村 宏光	昭和28年8月10日生	昭和51年4月 当社入社 平成14年4月 当社調達管理本部調達 エンジニアリング推進部長 平成17年4月 当社調達管理本部調達企画部長 平成19年4月 当社エネルギー事業本部管理部長 (兼) 事業開発部長 平成21年4月 当社エネルギー事業本部副本部長 平成22年4月 当社執行役員 エネルギーシステム セクター長 平成24年4月 当社エネルギーセクター長 平成24年6月 当社取締役(現任) 平成25年4月 当社常務執行役員 エネルギー・ プラントセクター長(兼) ソリューション統括本部長	(注6)	26
取締役	常務執行役員 営業本部長 (兼) ソリュー ション統括本部 副本部長	吉田 詠一	昭和27年9月9日生	昭和52年4月 当社入社 平成18年4月 当社物流・鉄構事業本部副本部長 平成20年4月 当社執行役員 平成21年4月 当社ロジスティクスセクター長 平成23年4月 当社産業・環境・ロジスティクス セクター副セクター長 平成24年4月 当社常務執行役員(現任) 営業・グローバル戦略本部副本部長 (兼) 中国総支配人 平成25年4月 当社営業本部長(兼) ソリューション 統括本部副本部長(現任) 平成25年6月 当社取締役(現任)	(注6)	42
取締役	常務執行役員 航空宇宙事業本 部長(兼) 高度 情報マネジメン ト統括本部副本 部長	満岡 次郎	昭和29年10月13日生	昭和55年4月 当社入社 平成20年4月 当社航空宇宙事業本部副本部長 平成22年4月 当社執行役員 平成25年4月 当社常務執行役員 航空宇宙事業本 部長(兼) 高度情報マネジメント統括本 部副本部長(現任) 平成26年6月 当社取締役(現任)	(注6)	42

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	常務執行役員 産業・ロジス ティックスセ クター長 (兼) 高度情 報マネジメン ト統括本部副 本部長	大谷 宏之	昭和30年10月8日生	昭和53年4月 当社入社 平成22年4月 当社航空宇宙事業本部副本部長 平成23年4月 当社執行役員 原動機セクター長 平成24年4月 当社エネルギーセクター副セクター長 平成25年4月 当社産業・ロジスティックスセクター 副セクター長 平成26年4月 当社常務執行役員 産業・ロジスティ ックスセクター長 (兼) 高度情報マネ ジメント統括本部副本部長 (現任) 平成26年6月 当社取締役 (現任)	(注6)	35
取締役	常務執行役員 海洋・鉄構セ クター長 (兼) ソリュ ーション統括 本部長	安部 昭則	昭和29年11月4日生	昭和52年4月 当社入社 平成16年7月 株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド (現ジャパン マリンユナイテッド株式会社) 基本設計部長 同社横浜工場長 平成22年4月 同社取締役 平成22年6月 同社取締役 平成24年4月 当社執行役員 海洋・鉄構セクター長 (現任) 平成26年4月 当社常務執行役員 ソリューション統括本部長 (現任) 平成26年6月 当社取締役 (現任)	(注6)	6
取締役	—	浜口 友一	昭和19年4月20日生	昭和42年4月 日本電信電話公社入社 昭和60年4月 日本電信電話株式会社データ 通信本部総括部調査役 昭和63年7月 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ (旧エヌ・ティ・ティ・データ通信 株式会社) 経営企画部担当部長 平成7年6月 同社取締役 平成9年6月 同社常務取締役 平成13年6月 同社代表取締役副社長 平成15年6月 同社代表取締役社長 平成19年6月 同社取締役相談役 平成20年4月 当社取締役 (現任) 平成21年6月 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ 相談役 平成25年6月 同社シニアアドバイザー (現任)	(注6)	27
取締役	—	岡村 正	昭和13年7月26日生	昭和37年4月 株式会社東芝(旧東京芝浦電気 株式会社)入社 平成5年10月 同社情報処理・制御システム 事業本部長 平成6年6月 同社取締役 平成8年6月 同社常務取締役 平成10年6月 同社取締役 上席常務 平成11年4月 同社情報・社会システム社社長 平成12年6月 同社取締役社長 平成15年6月 同社取締役 代表執行役社長 平成17年6月 同社取締役会長 平成21年6月 同社相談役 (現任) 平成22年6月 当社取締役 (現任)	(注6)	17



役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	—	大鷹 秀生	昭和27年4月26日生	昭和53年4月 当社入社 平成14年7月 当社エネルギー・プラント事業本部 原子力営業部部長 平成15年7月 当社経営企画部総合企画グループ部長 平成19年4月 当社航空宇宙事業本部武蔵総務部長 平成20年4月 当社秘書室長 平成24年6月 当社常勤監査役（現任）	(注8)	17
常勤監査役	—	芹澤 誠	昭和29年3月17日生	昭和51年4月 当社入社 平成17年4月 当社財務部次長 平成18年4月 当社執行役員 財務部長 平成19年4月 当社内部統制対応推進室長 平成19年6月 当社取締役 平成20年4月 当社内部統制室長 平成25年6月 当社常勤監査役（現任）	(注9)	54
監査役	—	井口 武雄	昭和17年4月9日生	昭和40年4月 三井住友海上火災保険株式会社 (旧大正海上火災保険株式会社) 入社 平成5年6月 同社取締役 平成6年6月 同社常務取締役 平成8年4月 同社取締役社長 平成12年6月 同社最高執行責任者（CEO） 取締役会長 取締役社長 平成13年10月 同社取締役会長共同最高経営責任者 平成15年6月 当社監査役（現任） 平成18年4月 三井住友海上火災保険株式会社 取締役会長執行役員 平成19年7月 同社シニアアドバイザー（現任）	(注7)	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役	—	郷原 信郎	昭和30年3月2日生	昭和58年4月 平成13年4月 平成15年10月 平成16年1月 平成16年4月 平成17年4月 平成18年4月 平成18年11月 平成20年4月 平成20年6月 平成21年4月 平成24年4月 平成26年4月	検事任官 長崎地方検察庁次席検事 桐蔭横浜大学法科大学院特任教授 (兼職) 東京地方検察庁八王子支部副部長 法務省法務総合研究所総括研究官 (兼) 教官 桐蔭横浜大学法科大学院教授、コンプライアンス研究センター長 弁護士登録 株式会社コンプライアンス・コミュニケーションズ代表取締役 桐蔭横浜大学法科大学院特任教授 当社監査役(現任) 名城大学専任教授、コンプライアンス研究センター長 関西大学特任教授 同大学客員教授(現任)	(注8)	—
監査役	—	渡辺 敏治	昭和25年7月28日生	昭和49年4月 平成14年4月 平成18年4月 平成19年6月 平成20年4月 平成20年6月 平成22年4月 平成22年6月 平成22年10月 平成23年6月 平成25年6月	株式会社東芝(旧東京芝浦電気株式会社)入社 同社社会インフラシステム社社会・産業システム事業部長 同社産業システム社副社長 同社執行役常務 産業システム社社長 同社社会システム社社長 同社執行役上席常務 同社スマートファシリティ事業統括部長 同社執行役専務 同社スマートコミュニティ事業統括部長 同社取締役 同社顧問(現任) 当社監査役(現任)	(注9)	—
合 計							778

- (注) 1 最高経営責任者、常務執行役員は執行役員の役位です。
- 2 取締役 浜口友一、岡村正は、社外取締役です。なお、取締役 浜口友一、岡村正の両名を、当社が上場している国内金融商品取引所に独立役員として届け出しています。
- 3 監査役 井口武雄、郷原信郎、渡辺敏治は、社外監査役です。なお、監査役 井口武雄、郷原信郎、渡辺敏治の3名を、当社が上場している国内金融商品取引所に独立役員として届け出しています。
- 4 所有株式数は、単位未満を切捨て表示しています。
- 5 当社は、経営監視・監督体制と業務執行体制の区分を明確化し、経営機構におけるガバナンス機能とマネジメント機能の強化を目的として、執行役員制度を導入しています。なお、提出日現在の執行役員は下表のとおりです。
- 6 平成26年6月27日開催の定時株主総会における選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時まで。
- 7 平成23年6月24日開催の定時株主総会における選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時まで。
- 8 平成24年6月22日開催の定時株主総会における選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時まで。
- 9 平成25年6月27日開催の定時株主総会における選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時まで。

提出日現在の執行役員

	役 位	氏 名	主要担当業務
○	最高経営責任者	斎藤 保	
○	常務執行役員	吉田 詠一	営業本部長（兼）ソリューション統括本部副本部長
	常務執行役員	高田 成人	調達企画本部長
	常務執行役員	朝倉 啓	経営企画部長
○	常務執行役員	満岡 次郎	航空宇宙事業本部長（兼） 高度情報マネジメント統括本部副本部長
	常務執行役員	桑田 始	グローバルビジネス統括本部長
○	常務執行役員	大谷 宏之	産業・ロジスティクスセクター長（兼） 高度情報マネジメント統括本部副本部長
	常務執行役員	望月 幹夫	財務部長
	常務執行役員	堂元 直哉	エネルギー・プラントセクター長
○	常務執行役員	安部 昭則	海洋・鉄構セクター長（兼）ソリューション統括本部長
	執行役員	榊 純一	回転機械セクター長
	執行役員	館野 昭	技術開発本部長
	執行役員	古川 弘	車両過給機セクター長
	執行役員	菅 泰三	アジア大洋州統括会社社長
	執行役員	吉田 力	米州統括会社社長
	執行役員	國廣 孝徳	原子力セクター長
	執行役員	識名 朝春	航空宇宙事業本部副本部長
	執行役員	桑田 敦	産業・ロジスティクスセクター副セクター長（兼） 営業本部副本部長
	執行役員	山田 剛志	財務部次長
	執行役員	畑 英也	社会基盤セクター長（兼）ソリューション統括本部副本部長 （兼）高度情報マネジメント統括本部副本部長
	執行役員	水本 伸子	グループ業務統括室長
	執行役員	長野 正史	人事部長
	執行役員	矢矧 浩二	エネルギー・プラントセクター副セクター長
	執行役員	村野 幸哉	高度情報マネジメント統括本部長

（注）○印は取締役です。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

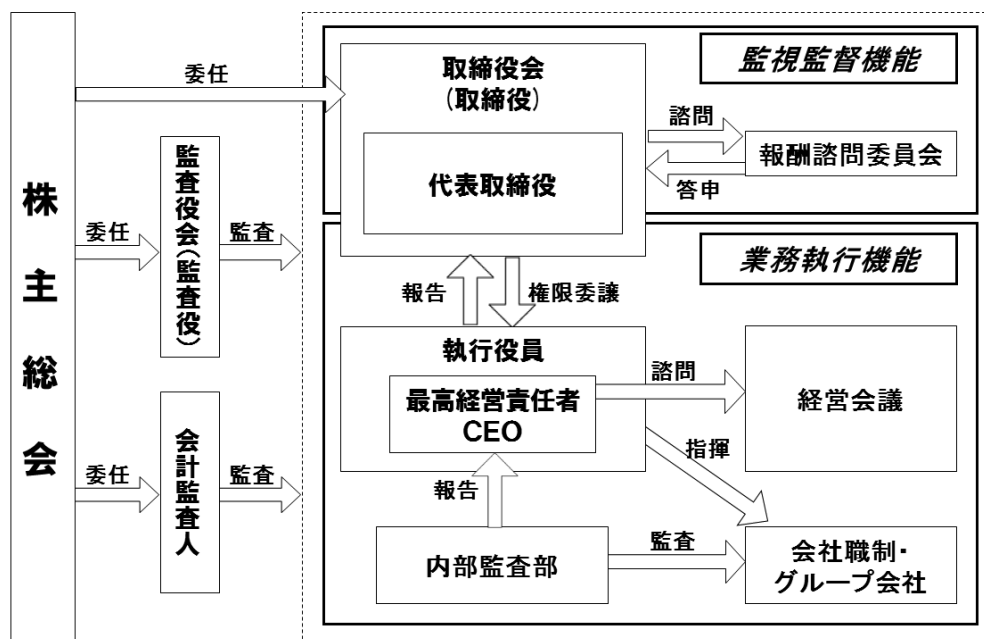
### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### ① 企業統治の体制

##### (ア) 企業統治の体制の概要

- ・当社は監査役会設置会社であり、取締役の職務の執行を監査するため監査役5名（うち社外監査役3名）を選任しています。
- ・取締役会は、取締役15名（うち社外取締役2名）で構成され、当社経営上の重要事項及びグループ経営上の重要事項に関する意思決定を行なうとともに、取締役の業務執行について監督を行なっています。なお、社外取締役は、長年にわたる経営者としての豊富な経験と優れた見識に基づき、業務執行を行なう経営陣から独立した立場にて、取締役会の意思決定に参画するとともに、当社経営に対して助言・提言を行なっています。
- ・取締役会の意思決定機能と監督機能の強化及び業務執行の効率化を図るため執行役員制度を導入しています。執行役員は、取締役会の決議をもって任命され（24名、うち取締役兼務者5名）、最高経営責任者（CEO）の指揮命令・監督の下、担当職務を執行します。
- ・最高経営責任者の意思決定及び業務執行をサポートする機関として「経営会議」があり、最高経営責任者の指名する者により構成されています。
- ・役員報酬の妥当性を確保するため、社外取締役を委員長とし、社外監査役1名、人事担当取締役、財務担当取締役の計4名からなる「報酬諮問委員会」を設置しています。
- ・当社の企業統治の体制を図示すると、下の「経営機構図」のとおりです。

経営機構図



##### (イ) 企業統治の体制を採用する理由

- ・当社は、以上に記載した企業統治体制が、経営の効率性を確保しつつ、経営全般に対する監査・監督を十分に果たすことができる機能を有するものであると考えているため、本体制を採用しています。

##### (ウ) 内部統制・リスク管理

- ・コーポレート・ガバナンスの実効性を高め、企業価値向上に資することを目的として、基本方針を策定しています。
- ・コンプライアンスについては、コンプライアンス活動を推進していく組織として「CSR推進部」を設けているとともに、全社委員会である「コンプライアンス委員会」で年度の活動方針を定めて展開しています。併せて、内部通報制度の利用の促進、業務上必要な各法令の理解と遵守を徹底するための社内教育を拡充し、実効性のあるコンプライアンス体制を構築しています。
- ・金融商品取引法の内部統制では、経営者のもとで内部統制を評価する組織が必要であり、この組織には被評価組織からの完全な独立性が求められます。当社では、社長直属の独立組織である「内部監査部」により全体の評価の計画立案、評価作業とりまとめ、評価結果の妥当性の検討、連結グループ全体での内部統制の有効性の判断を行なっています。また、業務プロセス統制の主たる評価対象となる部門である財務部、1事業本部・8セクターに内部統制評価グループを、情報システム部にIT統制評価グループを設けています。

- ・当社グループ全体のリスク管理体制並びに運用・評価の仕組みを整備し、最高経営責任者を議長とするリスク管理会議を定期的に開催して当社グループ全体のリスクの確認と重点取組方針等を検討し、リスクの発生回避及びリスク発生時の影響の極小化に努めています。
- ・当社グループの経営や事業活動に重大な影響を与える危機への対応として「危機管理基本規程」を定め、危機管理担当役員及び危機管理事務局の設置、危機発生時の対策本部の設置や対応など危機管理体制を整備しています。また、非常時に対する事前の備えとして、各部門において事業継続計画の作成に取り組んでいます。
- ・「重要受注案件審査会」及び「審査小委員会」を設置し、受注前の契約・技術リスク等見積原価情報に反映されるべき各種リスクの審査体制を強化するとともに、受注後の採算悪化を防ぐため、事業本部・セクターにおいて、工程・原価・品質等についてのプロジェクト管理体制を充実させ、工事採算の正確な把握に努めています。また、専門組織として「プロジェクト管理室」を設置し、大型受注工事の中間原価管理やリスク管理を監査しています。
- ・「投資審査会」及び「投資審査小委員会」を設置し、経営に大きな影響を及ぼす可能性のある当社グループの大型投資について、投資の意義、計画の妥当性、投資効率、最大損失の見極めとトールゲートの設定について審査を行なっています。
- ・各事業について、財務部と各事業本部、セクター幹部との定期的な連絡会を設けての情報収集、原価業務を財務部に集約させることによる統制強化、中間原価手続の規定化・標準化等により、受注量のコントロールやリスク、採算性の評価を厳密に行なっています。

#### (エ) 責任限定契約の内容の概要

- ・当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しています。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としています。

#### ② 内部監査及び監査役監査

- ・社長直属の内部監査部門として「内部監査部」（33名）及び「プロジェクト管理室」（8名）を設置し、社内各部門や関係会社における業務執行について監査を定常的に実施しており、各部門における自主監査と併せて内部統制機能の向上を図っています。
- ・内部監査部門は、監査役及び会計監査人に対して監査実施状況及び監査結果の報告を行なうとともに、定期的な連絡会を通じて情報・意見の交換を行なう等の緊密な連携を図っています。
- ・監査役は、監査役会で定めた監査役監査基準に則り、取締役会その他重要な会議への出席、取締役及び従業員等から受領した報告内容の検討、会社の業務及び財産の状況に関する調査等を行ない、取締役の職務の執行を監査しています。なお、監査役の職務執行を補佐するため「監査役事務局」（専任4名）を置いています。
- ・監査役は、会計監査人及び内部監査部門から監査実施状況及び監査結果の報告を受けるとともに、定期的な連絡会を通じて情報・意見の交換を行なう等の緊密な連携を図っています。
- ・常勤監査役 芹澤 誠は、当社の財務部における長年の業務経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しています。

#### ③ 社外取締役及び社外監査役

- ・当社は、当社の業務執行に対する客観的視点での助言、監査・監督機能を確保することを目的とし、社外取締役（2名）及び社外監査役（3名）を選任しています。
- ・当社は、社外取締役及び社外監査役の選任に際して、国内金融商品取引所が定める社外役員の独立性基準を参考にしています。
- ・当社の社外取締役及び社外監査役はいずれも、国内金融商品取引所が定める社外役員の独立性基準を満たしており、当社が上場している国内金融商品取引所に独立役員として届け出ています。
- ・社外取締役及び社外監査役が所有する当社株式数については、5. 役員 の状況 に記載のとおりです。
- ・各社外取締役及び社外監査役の独立性基準への該当状況並びに選任理由については、以下のとおりです。

氏名	独立性基準への該当状況	選任理由
浜口 友一	<p>同氏は、平成21年6月まで株式会社エヌ・ティ・ティ・データの代表取締役社長、取締役相談役を歴任され、現在は同社のシニアアドバイザーです。</p> <p>当社子会社において、株式会社エヌ・ティ・ティ・データとの間に設備保守等の取引関係があり、その取引金額は当社連結売上高の0.01%未満（平成26年3月期実績）です。</p>	<p>同氏には、最先端IT・情報通信企業での経営トップとしての変革実績や同企業における顧客に対する変革支援等の実績をふまえた幅広い見識を当社の経営に反映していただいております。社外取締役役に適任であると判断しています。</p> <p>なお、同氏は、当社の親会社や兄弟会社、総株主の議決権の10%以上を保有する主要株主の出身者等ではなく、また左記のとおり当社経営陣からの独立性を阻害する立場にもないことから、一般株主と利益相反が生じるおそれはないと判断しています。</p>
岡村 正	<p>同氏は、平成21年6月まで株式会社東芝の取締役代表執行役社長、取締役会長を歴任され、現在は同社の相談役です。</p> <p>当社グループは、株式会社東芝との間に原子力関連製品販売等の取引関係があり、その取引金額は当社連結売上高の2.38%（直近3事業年度実績の平均）です。</p>	<p>同氏には、総合電機メーカーの経営に長年にわたって携わられた経験豊富な経営者の観点から、取締役会の意思決定の妥当性及び適正性について助言をいただいております。社外取締役に適任であると判断しています。</p> <p>なお、同氏は、当社の親会社や兄弟会社、総株主の議決権の10%以上を保有する主要株主の出身者等ではなく、また左記のとおり当社経営陣からの独立性を阻害する立場にもないことから、一般株主と利益相反が生じるおそれはないと判断しています。</p>
井口 武雄	<p>同氏は、平成19年6月まで三井住友海上火災保険株式会社の取締役会長共同最高経営責任者、取締役会長執行役員を歴任され、現在は同社のシニアアドバイザーです。</p> <p>当社子会社において、三井住友海上火災保険株式会社との間に損害保険に関する取引関係があり、その取引金額は当社連結売上高の0.04%（平成26年3月期実績）です。</p>	<p>同氏には、金融機関において長年にわたって経営に携わられ、その豊富な経験と幅広い見識を経営の監査に反映していただいております。社外監査役に適任であると判断しています。</p> <p>なお、同氏は、当社の親会社や兄弟会社、総株主の議決権の10%以上を保有する主要株主の出身者等ではなく、また左記のとおり当社経営陣からの独立性を阻害する立場にもないことから、一般株主と利益相反が生じるおそれはないと判断しています。</p>
郷原 信郎	<p>該当事項はありません。</p>	<p>同氏は、「企業が社会の要請に応えること」をめざすフルセット・コンプライアンスの研究・啓蒙活動に取り組み、会社法・金融商品取引法にも造詣が深いことから、当社のコーポレート・ガバナンスの強化に向けて尽力していただいております。社外監査役に適任であると判断しています。</p> <p>なお、同氏は、当社の親会社や兄弟会社、総株主の議決権の10%以上を保有する主要株主の出身者等ではなく、当社経営陣からの独立性を阻害する立場にもないことから、一般株主と利益相反が生じるおそれはないと判断しています。</p>
渡辺 敏治	<p>同氏は、平成25年6月まで株式会社東芝の取締役執行役専務を務められ、現在は同社の顧問です。</p> <p>当社グループは、株式会社東芝との間に原子力関連製品販売等の取引関係があり、その取引金額は当社連結売上高の2.38%（直近3事業年度実績の平均）です。</p>	<p>同氏には、総合電機メーカーにおける社会インフラ分野の業務執行によって培われた経験及び知見を経営の監査に反映いただくことを期待しております。社外監査役に適任であると判断しています。</p> <p>なお、同氏は、当社の親会社や兄弟会社、総株主の議決権の10%以上を保有する主要株主の出身者等ではなく、また左記のとおり当社経営陣からの独立性を阻害する立場にもないことから、一般株主と利益相反が生じるおそれはないと判断しています。</p>

- ・なお、当社は、社外取締役及び社外監査役に対して、取締役会及び監査役会での「内部監査部」からの随時の内部監査実施状況の報告に加え、事前説明及び日常的な情報交換等を行なっています。
- ・社外監査役は、会計監査人と定期的に情報や意見交換を行なうとともに、監査結果の報告を受けるなど緊密な連携をとっています。

④ 役員報酬等

(ア) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	株式報酬型 ストック オプション	業績連動 賞与	
取締役 (社外取締役を除く)	824	576	79	167	14
監査役 (社外監査役を除く)	60	60	—	—	3
社外役員	45	45	—	—	6

- (注) 1 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれていません。
- 2 平成19年6月27日開催の第190回定時株主総会において、取締役の報酬限度額は、年額10億90百万円以内（ただし、使用人分給与は含みません。）、監査役の報酬限度額は、年度90百万円以内と決議されています。なお、平成26年6月27日開催の第197回定時株主総会において、監査役の報酬限度額を年額120百万円以内とすることが決議されました。
- 3 当事業年度中、取締役13名に対し平成24年度分の業績連動賞与101百万円を支給しています。前事業年度で報酬額として開示した額（94百万円）と支給額の差異については、上表の業績連動賞与に含めて記載しています。
- 4 平成26年3月31日現在の取締役は15名（うち社外取締役2名）、監査役は5名（うち社外監査役3名）です。上表の役員数には、平成25年6月27日開催の第196回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名及び監査役2名が含まれています。

(イ) 役員ごとの報酬等の総額が1億円以上である役員の報酬等

氏名	役員区分	会社区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)		
				基本報酬	株式報酬型 ストック オプション	業績連動 賞与
益 和明	取締役	提出会社	107	75	10	22
斎藤 保	取締役	提出会社	109	77	10	22

- (注) 業績連動賞与には、上記注3のとおり、当事業年度中に支給された平成24年度分の業績連動賞与の一部を含んでいます。

(ウ) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

- 取締役及び監査役の報酬については、株主総会の決議により、それぞれの報酬総額の限度額を決定しています。取締役の報酬は、優秀な人材を確保できる水準を勘案しつつ、当社グループの連結業績、企業価値の向上をより強く志向し、かつ株主と株価変動リスク・リターンを共有することに主眼をおいた報酬体系としています。その内容は、基本報酬、株式報酬型ストックオプション及び業績連動賞与から構成され（社外取締役は基本報酬のみ）、報酬諮問委員会の答申を受け、取締役会において決定します。監査役の報酬は、当社グループ全体の職務執行に対する監査の職責を負うことから定額報酬とし、監査役の協議により決定します。
- 報酬内容の妥当性と手続きの透明性を確保するために設置している報酬諮問委員会は、社外取締役を委員長とし、社外監査役1名、人事担当取締役、財務担当取締役の計4名からなり、答申内容の最終判断は委員長が行ないます。

⑤ 株式の保有状況

(ア) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的である銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

178銘柄 70,466百万円

(イ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
株式会社みずほフィナンシャルグループ	23,332,717	4,643	資金調達先との関係維持
株式会社東芝	8,751,000	4,130	取引先との関係維持
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	6,318,746	2,799	資金調達先との関係維持
株式会社静岡銀行	2,364,500	2,506	資金調達先との関係維持
三井物産株式会社	1,709,255	2,244	取引先との関係維持
株式会社UMNファーマ	453,250	1,690	取引先との関係維持
興銀リース株式会社	480,000	1,386	取引先との関係維持
新日鐵住金株式会社	5,408,867	1,271	取引先との関係維持
中国鋼鐵結構股份有限公司	11,061,690	1,241	取引先との関係維持
株式会社中国銀行	800,000	1,229	資金調達先との関係維持
三井不動産株式会社	402,000	1,060	取引先との関係維持
THE HUB POWER COMPANY LIMITED	20,432,459	981	取引先との関係維持
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,374,780	767	資金調達先との関係維持
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	146,300	552	資金調達先との関係維持
東邦瓦斯株式会社	885,250	542	取引先との関係維持
電源開発株式会社	217,500	538	取引先との関係維持
株式会社山口フィナンシャルグループ	537,000	511	資金調達先との関係維持
極東貿易株式会社	1,927,904	497	取引先との関係維持
関西電力株式会社	520,300	482	取引先との関係維持
株式会社伊予銀行	539,782	479	資金調達先との関係維持
日揮株式会社	194,000	461	取引先との関係維持
東芝機械株式会社	968,000	447	取引先との関係維持
株式会社群馬銀行	742,000	419	資金調達先との関係維持
東京瓦斯株式会社	798,750	410	取引先との関係維持
第一生命保険株式会社	3,244	410	資金調達先との関係維持
中国電力株式会社	309,000	387	取引先との関係維持
西芝電機株式会社	2,741,860	329	取引先との関係維持
東ソー株式会社	1,156,000	302	取引先との関係維持
澁澤倉庫株式会社	400,000	224	取引先との関係維持
株式会社七十七銀行	395,250	200	資金調達先との関係維持



(当事業年度)  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
株式会社みずほフィナンシャルグループ	23,332,717	4,759	資金調達先との関係維持
株式会社東芝	8,751,000	3,824	取引先との関係維持
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	6,318,746	2,944	資金調達先との関係維持
三井物産株式会社	1,709,255	2,493	取引先との関係維持
株式会社静岡銀行	2,364,500	2,381	資金調達先との関係維持
新日鐵住金株式会社	5,408,867	1,525	取引先との関係維持
中国鋼鐵結構股份有限公司	11,061,690	1,267	取引先との関係維持
三井不動産株式会社	402,000	1,265	取引先との関係維持
興銀リース株式会社	480,000	1,249	取引先との関係維持
THE HUB POWER COMPANY LIMITED	20,432,459	1,139	取引先との関係維持
株式会社中国銀行	800,000	1,100	資金調達先との関係維持
株式会社UMNファーマ	453,250	964	取引先との関係維持
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,374,780	779	資金調達先との関係維持
日揮株式会社	194,000	696	取引先との関係維持
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	146,300	645	資金調達先との関係維持
電源開発株式会社	217,500	634	取引先との関係維持
関西電力株式会社	520,300	550	取引先との関係維持
株式会社伊予銀行	539,782	532	資金調達先との関係維持
株式会社山口フィナンシャルグループ	537,000	499	資金調達先との関係維持
東邦瓦斯株式会社	885,250	497	取引先との関係維持
第一生命保険株式会社	324,400	486	資金調達先との関係維持
西芝電機株式会社	2,741,860	479	取引先との関係維持
東芝機械株式会社	968,000	472	取引先との関係維持
東ソー株式会社	1,156,000	460	取引先との関係維持
中国電力株式会社	309,000	444	取引先との関係維持
東京瓦斯株式会社	798,750	418	取引先との関係維持
株式会社群馬銀行	742,000	417	資金調達先との関係維持
極東貿易株式会社	1,927,904	416	取引先との関係維持
鹿島建設株式会社	514,265	186	取引先との関係維持
株式会社七十七銀行	395,250	183	資金調達先との関係維持

(ウ) 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

⑥ 会計監査の状況

当社は会計監査業務を新日本有限責任監査法人に委嘱しており、当社の会計監査業務を執行した当該監査法人に所属する公認会計士の氏名及び当社に係る継続監査年数は、以下のとおりです。

上村 純 (1年)

佐久間 佳之 (5年)

田島 一郎 (4年)

また、当社の会計監査業務に係る補助者は、以下のとおりです。

公認会計士 41名

その他 46名

(注) その他は、公認会計士試験合格者、システム監査担当者等です。

⑦ 取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めています。

⑧ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行なう旨定款に定めています。

また、累積投票による取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨定款に定めています。

⑨ 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨定款に定めています。これは、機動的な資本政策の遂行を目的とするものです。

⑩ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行なうため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行なうことができる旨定款に定めています。

⑪ 取締役会決議による取締役及び監査役の責任を免除することを可能にする定款の定め

当社は、取締役及び監査役が職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、取締役及び監査役の責任を免除することができる旨定款で定めています。

⑫ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行なう旨定款に定めています。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行なうことを目的とするものです。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬 (百万円)	非監査業務に 基づく報酬 (百万円)	監査証明業務に 基づく報酬 (百万円)	非監査業務に 基づく報酬 (百万円)
提出会社	187	13	186	27
連結子会社	172	30	159	16
計	359	43	345	43

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の在外子会社の一部は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Youngグループに対して監査証明業務及び非監査業務に対する報酬を支払っています。

(当連結会計年度)

当社の在外子会社の一部は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Youngグループに対して監査証明業務及び非監査業務に対する報酬を支払っています。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）である「IFRS（国際財務報告基準）の導入に関する助言・支援業務」及び「関係会社に対する会計指導」を委託しています。

(当連結会計年度)

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）である「IFRS（国際財務報告基準）の導入に関する助言・支援業務」及び「関係会社に対する会計指導」を委託しています。

④ 【監査報酬の決定方針】

監査報酬の決定方針は特に定めていませんが、監査日数、監査単価などを勘案し、監査役会の同意を得て決定しています。

(注) 第4 [提出会社の状況] に記載の金額は、3 [配当政策]及び6 [コーポレート・ガバナンスの状況等]の(2) [監査報酬の内容等]を除き単位未満を切捨て表示しています。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

なお、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行なっております。具体的には、会計基準等の内容を適正に把握し、適時に正確かつ公正な会社情報を開示できる社内体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	※1 73,032	※1 63,236
受取手形及び売掛金	※1, ※4, ※5 348,350	※1, ※4 395,037
有価証券	395	1,528
製品	※8 19,741	※8 20,665
仕掛品	※8 190,594	※8 222,237
原材料及び貯蔵品	※1 105,968	※1 112,983
繰延税金資産	31,358	34,632
その他	※1 52,083	57,010
貸倒引当金	△6,735	△6,127
流動資産合計	814,786	901,201
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※1, ※9 132,416	※1, ※9 133,148
機械装置及び運搬具（純額）	※1, ※6, ※9 58,191	※1, ※9 67,124
土地	※1, ※7 88,370	※1, ※7 90,175
リース資産（純額）	※9 16,537	※9 16,929
建設仮勘定	11,323	13,425
その他（純額）	※1, ※6, ※9 14,220	※1, ※9 15,647
有形固定資産合計	321,057	336,448
無形固定資産		
のれん	22,608	22,958
ソフトウェア	12,184	12,647
その他	4,351	6,535
無形固定資産合計	39,143	42,140
投資その他の資産		
投資有価証券	※1, ※2 128,879	※1, ※2 162,165
繰延税金資産	36,383	32,489
その他	※2 26,248	※2 24,751
貸倒引当金	△2,257	△2,833
投資その他の資産合計	189,253	216,572
固定資産合計	549,453	595,160
資産合計	1,364,239	1,496,361

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※5 266,299	280,900
短期借入金	※1 114,927	※1 110,340
コマーシャル・ペーパー	6,000	14,000
1年内償還予定の社債	—	20,000
未払費用	56,851	73,339
未払法人税等	11,984	16,692
前受金	106,377	103,237
賞与引当金	22,443	24,590
保証工事引当金	18,948	25,485
受注工事損失引当金	※8 21,510	※8 18,389
その他の引当金	740	566
その他	※1 39,373	38,711
流動負債合計	665,452	726,249
固定負債		
社債	63,335	30,000
長期借入金	※1 151,449	※1 165,143
リース債務	14,431	14,697
再評価に係る繰延税金負債	※7 6,312	※7 6,312
退職給付引当金	115,408	—
退職給付に係る負債	—	129,893
その他の引当金	4,217	3,112
その他	※1 44,353	58,400
固定負債合計	399,505	407,557
負債合計	1,064,957	1,133,806
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	95,762	107,165
資本剰余金	43,047	54,439
利益剰余金	144,675	171,318
自己株式	△736	△665
株主資本合計	282,748	332,257
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,158	8,424
繰延ヘッジ損益	△810	36
土地再評価差額金	※7 4,665	※7 4,665
為替換算調整勘定	△4,377	4,912
退職給付に係る調整累計額	—	△5,058
その他の包括利益累計額合計	5,636	12,979
新株予約権	563	621
少数株主持分	※7 10,335	※7 16,698
純資産合計	299,282	362,555
負債純資産合計	1,364,239	1,496,361

## ②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	1,256,049	1,304,038
売上原価	※1, ※2, ※3 1,059,279	※1, ※2, ※3 1,081,630
売上総利益	196,770	222,408
販売費及び一般管理費	※1, ※4 154,629	※1, ※4 169,137
営業利益	42,141	53,271
営業外収益		
受取利息	724	640
受取配当金	2,147	3,389
持分法による投資利益	4,333	5,397
為替差益	4,571	4,244
その他の営業外収益	5,295	6,653
営業外収益合計	17,070	20,323
営業外費用		
支払利息	4,438	4,020
契約納期遅延に係る費用	6,062	4,019
その他の営業外費用	12,492	12,320
営業外費用合計	22,992	20,359
経常利益	36,219	53,235
特別利益		
事業分離における移転利益	—	※5 7,500
固定資産売却益	14,137	—
持分変動利益	11,848	—
特別利益合計	25,985	7,500
特別損失		
減損損失	※6 1,260	※6 245
投資有価証券評価損	1,432	—
環境保全対策費用	1,280	—
関係会社損失引当金繰入額	987	—
特別損失合計	4,959	245
税金等調整前当期純利益	57,245	60,490
法人税、住民税及び事業税	19,166	22,385
法人税等調整額	3,280	2,608
法人税等合計	22,446	24,993
少数株主損益調整前当期純利益	34,799	35,497
少数株主利益	1,413	2,364
当期純利益	33,386	33,133

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	34,799	35,497
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,876	2,549
繰延ヘッジ損益	△924	550
為替換算調整勘定	4,260	10,080
持分法適用会社に対する持分相当額	953	895
その他の包括利益合計	※1 10,165	※1 14,074
包括利益	44,964	49,571
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	43,028	46,099
少数株主に係る包括利益	1,936	3,472



③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	95,762	43,044	116,083	△547	254,342
当期変動額					
転換社債型新株予約権付社債の転換					—
剰余金の配当			△5,857		△5,857
当期純利益			33,386		33,386
自己株式の取得				△212	△212
自己株式の処分		3		23	26
連結子会社増加等に伴う増加高			1,063		1,063
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	3	28,592	△189	28,406
当期末残高	95,762	43,047	144,675	△736	282,748

	その他の包括利益累計額						新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	△361	△55	4,665	△8,452	—	△4,203	462	7,874	258,475
当期変動額									
転換社債型新株予約権付社債の転換									—
剰余金の配当									△5,857
当期純利益									33,386
自己株式の取得									△212
自己株式の処分									26
連結子会社増加等に伴う増加高									1,063
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,519	△755	—	4,075	—	9,839	101	2,461	12,401
当期変動額合計	6,519	△755	—	4,075	—	9,839	101	2,461	40,807
当期末残高	6,158	△810	4,665	△4,377	—	5,636	563	10,335	299,282

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	95,762	43,047	144,675	△736	282,748
当期変動額					
転換社債型新株予約権付社債の転換	11,403	11,390		7	22,800
剰余金の配当			△7,317		△7,317
当期純利益			33,133		33,133
自己株式の取得				△8	△8
自己株式の処分		2		72	74
連結子会社増加等に伴う増加高			827		827
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	11,403	11,392	26,643	71	49,509
当期末残高	107,165	54,439	171,318	△665	332,257

	その他の包括利益累計額						新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	6,158	△810	4,665	△4,377	—	5,636	563	10,335	299,282
当期変動額									
転換社債型新株予約権付社債の転換									22,800
剰余金の配当									△7,317
当期純利益									33,133
自己株式の取得									△8
自己株式の処分									74
連結子会社増加等に伴う増加高									827
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,266	846	—	9,289	△5,058	7,343	58	6,363	13,764
当期変動額合計	2,266	846	—	9,289	△5,058	7,343	58	6,363	63,273
当期末残高	8,424	36	4,665	4,912	△5,058	12,979	621	16,698	362,555

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	57,245	60,490
減価償却費	48,315	49,479
その他の償却額	3,641	3,620
事業分離における移転利益	—	△7,500
持分変動利益	△11,848	—
減損損失	1,260	245
環境保全対策費用	1,280	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△408	△294
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△307	1,859
保証工事引当金の増減額 (△は減少)	4,170	6,441
受注工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△1,990	△3,182
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△1,179	△115,484
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	—	123,345
受取利息及び受取配当金	△2,871	△4,029
支払利息	4,438	4,020
為替差損益 (△は益)	△596	146
有価証券及び投資有価証券売却損益 (△は益)	188	134
有価証券及び投資有価証券評価損益 (△は益)	2,447	211
持分法による投資損益 (△は益)	△4,333	△5,397
固定資産売却却損益 (△は益)	△10,414	1,453
売上債権の増減額 (△は増加)	△38,011	△40,020
前受金の増減額 (△は減少)	4,684	△3,389
前渡金の増減額 (△は増加)	1,427	△3,135
たな卸資産の増減額 (△は増加)	29,192	△33,319
仕入債務の増減額 (△は減少)	△8,821	8,266
未払費用の増減額 (△は減少)	15,698	14,386
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△1,843	△2,679
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	3,119	△1,415
未収消費税等の増減額 (△は増加)	1,704	1,192
その他	△267	200
小計	95,920	55,644
利息及び配当金の受取額	3,028	4,522
利息の支払額	△4,531	△4,142
法人税等の支払額	△20,070	△16,804
営業活動によるキャッシュ・フロー	74,347	39,220

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 (△は増加)	23	266
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△5,862	△16,117
子会社株式の取得による支出	△868	—
子会社出資金の取得による支出	△3,538	—
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	3,722	1,191
有形及び無形固定資産の取得による支出	△53,231	△49,382
有形及び無形固定資産の売却による収支 (△は支出)	16,145	1,444
信託受益権の取得による支出	—	△5,140
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△15,263	—
事業譲受による支出	△735	—
短期貸付金の増減額 (△は増加)	△758	△2,497
長期貸付けによる支出	△381	△366
長期貸付金の回収による収入	85	436
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△4,185	△1,939
その他固定負債の増減額 (△は減少)	4,007	9,346
その他	△194	476
投資活動によるキャッシュ・フロー	△61,033	△62,282
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	10,254	△1,968
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	6,000	8,000
長期借入れによる収入	60,805	53,181
長期借入金の返済による支出	△69,449	△49,184
社債の発行による収入	10,000	10,000
社債の償還による支出	△10,000	△200
リース債務の返済による支出	△3,773	△3,994
自己株式の増減額 (△は増加)	△212	△8
配当金の支払額	△5,829	△7,288
少数株主からの払込みによる収入	52	4,252
少数株主への配当金の支払額	△998	△1,396
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,150	11,395
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,083	2,979
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	14,247	△8,688
現金及び現金同等物の期首残高	63,498	72,070
非連結子会社の連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	598	855
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	67	91
連結子会社の事業分離に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△1,724
連結子会社の合併に伴う持分変動による現金及び現金同等物の減少額	△6,340	—
現金及び現金同等物の期末残高	※1 72,070	※1 62,604

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社

連結子会社の数は148社(前連結会計年度143社)です。主要な連結子会社の社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため、省略しています。

なお、当連結会計年度において、連結対象会社に異動があります。その理由及び状況については「第1 企業の概況 3 事業の内容」に記載しています。

#### (2) 非連結子会社

主要な非連結子会社の社名は、高嶋技研㈱、石川島(上海)管理有限公司、IHI ASIA PACIFIC PTE.LTD.、上海世達爾現代農機有限公司、IHI Southwest Technologies, Inc、NitroCision, LLCです。非連結子会社は、各々小規模であって、非連結子会社全体としても、総資産合計、売上高合計、当期純利益持分相当額合計及び利益剰余金持分相当額等の合計は、連結会社の総資産合計、売上高合計、当期純利益持分相当額合計及び利益剰余金持分相当額等の合計に比べ、重要性が乏しいため、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていません。

#### (3) 開示対象特別目的会社

開示対象特別目的会社の概要及び開示対象特別目的会社を利用した取引の概要及び開示対象特別目的会社との取引金額等については、「開示対象特別目的会社関係」に記載しています。

### 2 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法適用の非連結子会社及び関連会社

持分法を適用した会社の数は35社(前連結会計年度32社)であり、会社名は次のとおりです。

##### (国内関連会社)

日豪酸素燃焼実証事業日本有限責任事業組合、東芝電力検査サービス㈱、㈱IHI ポールワース、ターボシステムズ ユナイテッド㈱、ジャパン マリンユナイテッド㈱、㈱JMUアムテック、㈱IMC、ユニバーサル特機㈱、海洋海運㈱、㈱IHI ファイナンスサポート

##### (在外関連会社)

FELGUERA-IHI S.A.、Long Xin Enterprise Pte.Ltd.、PETROLEUM CONSULTING ENGINEERS (MUMBAI) Private Limited、TJEL E&C & RMS JV、HVM Plasma, spol sro、杭州西子石川島停車設備有限公司、杭州西子石川島設備安裝有限公司、GE Passport, LLC、KAISHO MARINE S.A.、SOUTH-POINT MARINE S.A.、SUNNY RIVER LINE S.A.、GREAT RIVER LINE S.A.、LUNAR RIVER LINE S.A.、GLORIOUS RIVER LINE S.A.、Perkins Shibaura Engines LLC、Perkins Shibaura Engines Limited、ALPHA Automotive Technologies LLC、Estaleiro Atlântico Sul S.A.、EAS International Inc.、Rio Bravo Fresno他5社  
(持分法適用関連会社の異動)

重要性が増したことにより、TJEL E&C & RMS JVを新たに持分法適用関連会社としています。

GE Passport, LLCの持分を取得したことに伴い、新たに持分法適用関連会社としています。

Estaleiro Atlântico Sul S.A.への資本参加に伴い、Estaleiro Atlântico Sul S.A.及びEAS International Inc.を新たに持分法適用関連会社としています。

清算が終了したことに伴い、Thai Summit Ionbond Coatings Ltd.を持分法適用関連会社から除外しています。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社

持分法を適用していない主要な非連結子会社及び関連会社の社名は、次のとおりです。

(非連結子会社)

高嶋技研(株)、石川島(上海)管理有限公司、IHI ASIA PACIFIC PTE.LTD.、上海世達爾現代農機有限公司、IHI Southwest Technologies, Inc, NitroCision, LLC

(関連会社)

(株)UNIGEN、無錫珀金斯芝浦發動機有限公司

これらは当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても、その影響の重要性がありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

JURONG ENGINEERING LIMITED及び同社の子会社19社、IHI Power System Germany GmbH, ISHI POWER SDN.BHD., PT Cilegon Fabricators, NIIGATA POWER SYSTEMS (SINGAPORE) PTE. LTD., IHI E&C International Corporation及びその子会社1社、IHI POWER SYSTEM MALAYSIA SDN.BHD., IHI INFRASTRUCTURE ASIA CO.,LTD., IHI California Inc., Hauzer Techno Coating B.V.及び同社の子会社4社、IHI Press Technology America, Inc., New Metal Engineering, LLC, IUK (HK) LIMITED, Indigo TopCo Ltd.及び同社の子会社27社、IHI Charging Systems International GmbH及び同社の子会社2社、IHI 寿力圧縮技術(蘇州)有限公司、長春富奥石川島過給機有限公司、IHI Turbo America Co., IHI TURBO (THAILAND) CO.,LTD., ISM America Inc., 無錫石播増圧器有限公司、IHI - ICR, LLC., IHI Aero Engines US Co.,Ltd., IHI do Brasil Representações Ltda., IHI ENGINEERING AUSTRALIA PTY.LTD., IHI Europe Ltd., IHI INC., IHI New Energy Inc., Algae Systems, LLC., IHI Power Generation Corporation及びその子会社12社、JAPAN EAS INVESTIMENTOS E PARTICIPAÇÕES LTDA, 他5社の決算日は12月31日です。

連結財務諸表の作成にあたっては、在外子会社との決算日の差異が3か月を超えないため、各社決算日現在の財務諸表を使用しています。ただし連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行なっています。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

イ 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

ロ その他有価証券

時価のあるもの

期末決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算出)

時価のないもの

移動平均法による原価法

② デリバティブ

時価法

③ たな卸資産

イ 原材料及び貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

ロ 製品、仕掛品

主として個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっています。ただし、貸与リース物件、及び一部の連結子会社は定額法によっています。また、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法を採用しています。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっています。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっています。

③ リース資産

イ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しています。

ロ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。なお、所有権移転外ファイナンス・リースの取引のうち、リース契約日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支払いに充てるため、支給見込額を計上しています。

③ 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しています。

④ 保証工事引当金

保証工事費の支出に備えるため、過去の実績を基礎に将来の発生見込額を加味した見積額を計上しています。

⑤ 受注工事損失引当金

当連結会計年度末において見込まれる未引渡工事の損失発生に備えるため、当該見込額を計上しています。

⑥ 役員退職慰労引当金

国内連結子会社では、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しています。

⑦ 関係会社損失引当金

関係会社の事業に伴う損失に備えるため、資産内容等を勘案して、当社の損失負担見込額を計上しています。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産を控除した額を計上しています。また、一部の連結子会社においては簡便法を採用しています。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しています。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しています。

- (5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準  
在外子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により換算し、収益及び費用は期中平均相場により換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上していません。
- (6) 重要な収益及び費用の計上基準  
完成工事高及び完成工事原価の計上基準  
① 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）  
② その他の工事  
工事完成基準
- (7) 重要なヘッジ会計の方法  
① ヘッジ会計の方法  
繰延ヘッジ処理によっています。為替予約等については、振当処理の要件を満たす場合は振当処理によっています。  
なお、金利スワップについては、特例処理の要件を満たす場合は特例処理によっています。  
② ヘッジ手段とヘッジ対象  
借入金の金利変動リスクをヘッジするために金利スワップを利用し、外貨建金銭債権債務の為替変動リスクをヘッジするために為替予約等を利用しています。  
③ ヘッジ方針  
リスク・カテゴリー別に必要なヘッジ手段を選択しています。  
④ ヘッジの有効性評価の方法  
ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額等を基礎にして有効性評価を行なっています。
- (8) のれんの償却方法及び償却期間  
のれんの償却については、投資効果の発現する期間を見積もり、当該期間において均等償却を行なっています。ただし、金額の重要性の乏しいものについては当該連結会計年度において一括償却していません。
- (9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲  
連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は手許現金、随時引出可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりリスクしか負わない、取得日から償還期限までの期間が3か月以内の短期投資からなります。
- (10) 消費税等の会計処理  
税抜方式によっています。



(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を退職給付に係る負債に計上しています。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しています。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が129,893百万円計上されるとともに、その他の包括利益累計額が5,058百万円減少し、少数株主持分が11百万円増加しています。

なお、1株当たり純資産額は3.27円減少しています。

(未適用の会計基準等)

(退職給付に関する会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充等について改正されました。

(2) 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首から適用します。

なお、当該会計基準等には経過的な取り扱いが定められているため、過去の期間の連結財務諸表に対しては遡及適用しません。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

平成27年3月期の期首の連結貸借対照表において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正により退職給付に係る負債が約220億円増加し、利益剰余金が約150億円減少する見込みです。なお、連結損益計算書に与える影響は軽微となる見込みです。

(企業結合に関する会計基準等)

- ・「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)
- ・「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)
- ・「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)
- ・「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成25年9月13日)
- ・「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)
- ・「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成25年9月13日)

(1) 概要

①支配が継続している場合の子会社に対する親会社の持分変動による差額は、資本剰余金として計上する方法に改正されました。なお、改正前会計基準における「少数株主持分」について、当該会計基準等では「非支配株主持分」に変更されました。

②企業結合における取得関連費用は、発生した連結会計年度の費用として処理する方法に改正されました。

③暫定的な会計処理の確定が企業結合年度の翌年度に行われた場合、企業結合年度の翌年度の連結財務諸表と併せて企業結合年度の連結財務諸表を表示するときには、当該企業結合年度の連結財務諸表に暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを反映させる方法に改正されました。

④改正前会計基準における「少数株主損益調整前当期純利益」について、当該会計基準等では「当期純利益」に変更されました。これに伴い、改正前会計基準における「当期純利益」について、当該会計基準等では「親会社株主に帰属する当期純利益」に変更されました。

(2) 適用予定日

平成27年4月1日以降開始する連結会計年度の期首から適用予定です。なお、暫定的な会計処理の取扱いについては、平成27年4月1日以降実施される企業結合から適用する予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時において、連結財務諸表に与える影響は未定です。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、費目別に区分掲記していた「販売費及び一般管理費」は、連結損益計算書の一覽性及び明瞭性を高めるため、当連結会計年度より「販売費及び一般管理費」として一括掲記し、その主要な費目及び金額を注記する方法に変更しています。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えをしています。

なお、前連結会計年度及び当連結会計年度における販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、「連結損益計算書関係 ※4 主要な販売費及び一般管理費」に記載のとおりです。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、区分掲記していた「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「有形及び無形固定資産の売却による収入」及び「固定資産の除却による支出」については、重要性が乏しいため、当連結会計年度より「有形及び無形固定資産の売却による収支(△は支出)」と表示しています。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えをしています。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「有形及び無形固定資産の売却による収入」に表示していた17,850百万円及び「固定資産の除却による支出」に表示していた△1,705百万円は、「有形及び無形固定資産の売却による収支(△は支出)」16,145百万円として組み替えています。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
現金及び預金	709百万円	141百万円
受取手形及び売掛金	103	106
原材料及び貯蔵品	5	5
流動資産その他	2,510	—
建物及び構築物	2,714	1,485
機械装置及び運搬具	256	195
土地	11,187	6,513
有形固定資産その他	9	20
投資有価証券	646 (注)	646 (注)
合計	18,139	9,111

(注) 鹿児島メガソーラー発電㈱と金融機関との間で締結した限度貸付契約に基づく同社の一切の債務を担保するために、鹿児島メガソーラー発電㈱とその株主7社と金融機関との間で株式根質権設定契約を締結しています。

上記のうち、工場財団抵当に担保として供している資産は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
建物及び構築物	263百万円	244百万円
機械装置及び運搬具	88	70
土地	2,613	2,613
有形固定資産その他	9	20
合計	2,973	2,947

担保付債務は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	5,765百万円	5,554百万円
流動負債その他	840	—
長期借入金	1,958	1,267
固定負債その他	3,360	—
合計	11,923	6,821

上記のうち、工場財団抵当に対応する債務は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	2,475百万円	2,484百万円

※2 非連結子会社及び関連会社株式・出資金

非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
投資有価証券(株式)	63,126百万円	86,648百万円
投資その他の資産その他(出資金)	3,323	2,455

### 3 保証債務等

次の関係会社等の金融機関の借入等に対し、保証債務及び保証類似行為を行なっています。

#### (1) 保証債務（注1）

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当連結会計年度 (平成26年3月31日)
(一財)日本航空機エンジン協会	5,675百万円	Estaleiro Atlântico Sul S.A.	12,569百万円
㈱UNIGEN	5,000	㈱UNIGEN	6,300
ALPHA Automotive Technologies LLC	1,600	(一財)日本航空機エンジン協会	6,180
IHIグループ健康保険組合	983	JAPAN EAS INVESTIMENTOS E PARTICIPAÇÕES LTDA	3,428
日本エアロフォージ㈱	944	ALPHA Automotive Technologies LLC	1,835
石川島自動化設備 (上海)有限公司	416	石川島自動化設備 (上海)有限公司	908
建機客先のリース債務保証	120	IHIグループ健康保険組合	885
従業員の住宅資金等借入保証	88	日本エアロフォージ㈱	590
中部セグメント㈱	50	Rio Bravo Frenso	361 (注2)
近畿イシコ㈱	17	Rio Bravo Rocklin	350 (注2)
		IHI Southwest Technologies, Inc.	215
		建機客先のリース債務保証	101
		従業員の住宅資金等借入保証	82
		中部セグメント㈱	50
合計	14,893	合計	33,854

#### (2) 保証類似行為（注1）

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当連結会計年度 (平成26年3月31日)
従業員の住宅資金等借入保証	9,721百万円	従業員の住宅資金等借入保証	8,998百万円
IHIグループ健康保険組合	1,025	IHIグループ健康保険組合	932
ターボ システムズ ユナイテッド㈱	40		
合計	10,786	合計	9,930

(注) 1 以下のいずれかに該当する場合には、当社グループの負担額を表示しています。

- ①債権者への対抗要件を備えた共同保証等の保証契約で、当社グループの負担額が明示され、かつ、他の保証人の負担能力に関係なく当社グループの負担額が特定されている場合。
  - ②複数の保証人がいる連帯保証契約で、保証人間の取決め等により、当社グループの負担割合又は負担額が明示され、かつ、他の連帯保証人の負担能力が十分であると判断される場合。
- 2 継続的取引に係る債務を保証するために設定した一定の限度額の範囲内で保証する根保証契約であり、保証枠を表示しています。

#### ※4 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
受取手形割引高	450百万円	540百万円
受取手形裏書譲渡高	—	16

※5 期末日満期手形

連結会計年度末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済しています。

なお、前連結会計年度末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が前連結会計年度末日の残高に含まれています。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
受取手形	2,045百万円	－百万円
支払手形	2,492	－

※6 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
機械装置及び運搬具	114百万円	－百万円
その他	36	－
合計	150	－

※7 土地再評価差額金

連結子会社のうち2社は土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行ない、再評価に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、少数株主持分相当額を「少数株主持分」に計上し、これらを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しています。

- ・再評価の方法…土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第1号及び4号に定める公示価格及び路線価により算出
- ・再評価を行なった年月日…平成12年3月31日及び平成12年9月30日

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
再評価を行なった土地の期末における 時価と再評価後の帳簿価額との差額	△5,270百万円	△5,437百万円

※8 たな卸資産及び受注工事損失引当金の表示

損失が見込まれる工事契約に係るたな卸資産と受注工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しています。

損失の発生が見込まれる工事契約に係るたな卸資産のうち、受注工事損失引当金に対応する額は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
製品	525百万円	363百万円
仕掛品	6,110	3,858
合計	6,635	4,221

※9 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
	477,912百万円	502,680百万円

(連結損益計算書関係)

※1 研究開発費の総額

一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は以下のとおりです。

前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
30,280百万円	33,528百万円

※2 たな卸資産評価損

期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、前連結会計年度の評価損の戻入益と当連結会計年度の評価損を相殺した結果、以下のたな卸資産評価損又は戻入益が売上原価に含まれています。

前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
△1,376百万円	90百万円

※3 受注工事損失引当金繰入額

売上原価に含まれている受注工事損失引当金繰入額は以下のとおりです。

前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
21,510百万円	18,389百万円

※4 主要な販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は以下のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
引合費用	12,861百万円	13,277百万円
貸倒引当金繰入額	0	309
役員・従業員給与手当(注)	60,325	64,670
旅費及び交通費	5,752	6,225
研究開発費	26,364	29,510
業務委託費	7,424	7,148
共通部門費受入額	4,235	4,203
減価償却費	4,642	6,354

(注) 前連結会計年度には、賞与引当金繰入額9,140百万円、退職給付費用5,550百万円が含まれており、当連結会計年度には、賞与引当金繰入額8,335百万円、退職給付費用5,022百万円が含まれています。

※5 事業分離における移転利益

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社の連結子会社であるIHIメタルテック(株)の圧延機を主体とする事業を三菱日立製鉄機械(株)に承継させる吸収分割を行なったことに対価として取得した三菱日立製鉄機械(株)の普通株式の帳簿価額と、IHIメタルテック(株)の承継対象事業に係る資産・負債の帳簿価額との差額です。

※6 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(1) 減損損失を認識した資産グループの概要

用途	場所	種類	金額	金額算定根拠
処分予定資産	東京都江東区	建物他	650百万円	備忘価額
遊休資産	長野県松本市	建物他	244百万円	正味売却価額
処分予定資産	東京都中央区	建物他	176百万円	備忘価額
処分予定資産	長野県上伊那郡	土地	118百万円	正味売却価額
処分予定資産	兵庫県高砂市	土地・建物他	62百万円	正味売却価額
遊休資産	広島県呉市他	土地・建物他	10百万円	正味売却価額

(2) 資産のグルーピングの方法

資産のグルーピングは、主として事業内容又は事業所単位とし、遊休資産、処分予定資産は、原則として個々の資産単位をグループとして取り扱っています。

(3) 減損損失の認識に至った経緯

遊休資産については、市場価格が下落したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額しました。処分予定資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額しました。

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額の算出については、正味売却価額（固定資産税評価額等を合理的に調整して算出した額、売却予定価額）と使用価値（割引率 主として5.0%）のいずれか高い金額を採用しています。なお、廃却予定資産は、備忘価額により評価しています。

(5) 減損損失の金額

減損処理額1,260百万円は減損損失として特別損失に計上しており、固定資産の種類ごとの内訳は次のとおりです。

土地	143百万円
建物他	1,117百万円
合計	1,260百万円

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(1) 減損損失を認識した資産グループの概要

用途	場所	種類	金額	金額算定根拠
事業用資産	長野県松本市他	建物他	183百万円	使用価値
遊休資産	長野県上伊那郡	土地	42百万円	正味売却価額
遊休資産	広島県呉市	土地・建物他	20百万円	正味売却価額

(2) 資産のグルーピングの方法

資産のグルーピングは、主として事業内容又は事業所単位とし、遊休資産は、原則として個々の資産単位をグループとして取り扱っています。

(3) 減損損失の認識に至った経緯

事業用資産については、事業損益が悪化したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額しました。遊休資産については、市場価格が下落したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額しました。

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額の算出については、正味売却価額（固定資産税評価額等を合理的に調整して算出した額、売却予定価額）と使用価値（割引率 主として5.0%）のいずれか高い金額を採用しています。

(5) 減損損失の金額

減損処理額245百万円は減損損失として特別損失に計上しており、固定資産の種類ごとの内訳は次のとおりです。

土地	57百万円
建物他	188百万円
合計	245百万円

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	7,899百万円	2,680百万円
組替調整額	△201	△9
税効果調整前	7,698	2,671
税効果額	△1,822	△122
その他有価証券評価差額金	5,876	2,549
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	△1,333	892
税効果額	409	△342
繰延ヘッジ損益	△924	550
為替換算調整勘定：		
当期発生額	4,260	10,080
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	950	895
組替調整額	3	—
持分法適用会社に対する持分相当額	953	895
その他の包括利益合計	10,165	14,074



(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	期首株式数 (千株)	増加株式数 (千株)	減少株式数 (千株)	期末株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	1,467,058	—	—	1,467,058
合計	1,467,058	—	—	1,467,058
自己株式				
普通株式(注1, 2)	2,853	1,011	115	3,749
合計	2,853	1,011	115	3,749

(注) 1. 普通株式の株式数の増加1,011千株は、会社法第797条第1項に基づく取得による増加1,000千株、及び単元未満株式の買取による増加11千株です。

2. 普通株式の株式数の減少の115千株は、新株予約権の行使に伴う処分による減少です。

2 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				期末残高 (百万円)
			期首	増加	減少	期末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプション としての新株予約権	—	—	—	—	563	
合計		—	—	—	—	563	

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	5,857	4	平成24年 3月31日	平成24年 6月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	7,317	利益剰余金	5	平成25年 3月31日	平成25年 6月28日

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	期首株式数 (千株)	増加株式数 (千株)	減少株式数 (千株)	期末株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式（注1）	1,467,058	79,741	—	1,546,799
合計	1,467,058	79,741	—	1,546,799
自己株式				
普通株式（注2, 3）	3,749	21	401	3,369
合計	3,749	21	401	3,369

- （注）1. 普通株式の発行済株式総数の増加79,741千株は、転換社債型新株予約権付社債の転換によるものです。  
 2. 普通株式の自己株式の増加の21千株は、単元未満株式の買取によるものです。  
 3. 普通株式の自己株式の減少の401千株は、単元未満株主からの買増し請求による減少1千株、新株予約権の行使に伴う処分による減少365千株、転換社債型新株予約権付社債の転換による減少35千株です。

2 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				期末残高 (百万円)
			期首	増加	減少	期末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプション としての新株予約権	—	—	—	—	—	621
合計		—	—	—	—	—	621

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	7,317	5	平成25年 3月31日	平成25年 6月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	9,261	利益剰余金	6	平成26年 3月31日	平成26年 6月30日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## ※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金及び預金	73,032百万円	63,236百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△259	△496
担保に供している預金	△708	△141
有価証券に含まれる投資信託	5	5
現金及び現金同等物	72,070	62,604

## 2 重要な非資金取引の内容

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
新株予約権の行使による資本金増加額(注)	—	11,403百万円
新株予約権の行使による資本剰余金増加額(注)	—	11,390
新株予約権の行使による自己株式減少額(注)	—	7
新株予約権の行使による新株予約権付社債減少額(注)	—	22,800

(注) 2016年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債に付された新株予約権の行使によるものです。

## (リース取引関係)

## 1. ファイナンス・リース取引(借主側)

## 所有権移転ファイナンス・リース取引

## ①リース資産の内容

主として、資源・エネルギー・環境事業における原子力機器生産設備(機械装置及び運搬具)です。

## ②リース資産の減価償却の方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

## 所有権移転外ファイナンス・リース取引

## ①リース資産の内容

主として、産業システム・汎用機械事業における車両過給機生産設備(機械装置及び運搬具)です。

## ②リース資産の減価償却の方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース契約開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりです。

## (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

	前連結会計年度(平成25年3月31日)			
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額 相当額 (百万円)	減損損失累計額 相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)
建物及び構築物	1,979	722	—	1,256
機械装置及び運搬具	7,418	5,835	—	1,584
その他(工具器具備品)	398	335	—	63
ソフトウェア	361	323	—	38
合計	10,156	7,215	—	2,941

	当連結会計年度（平成26年3月31日）			
	取得価額相当額 （百万円）	減価償却累計額 相当額 （百万円）	減損損失累計額 相当額 （百万円）	期末残高相当額 （百万円）
建物及び構築物	1,979	817	—	1,162
機械装置及び運搬具	4,901	4,051	—	850
その他（工具器具備品）	246	208	—	38
ソフトウェア	—	—	—	—
合 計	7,126	5,076	—	2,050

（2）未経過リース料期末残高相当額等

	前連結会計年度 （平成25年3月31日）	当連結会計年度 （平成26年3月31日）
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	1,112 百万円	1,027 百万円
1年超	3,480 百万円	2,012 百万円
合 計	4,592 百万円	3,039 百万円
リース資産減損勘定の期末残高	— 百万円	— 百万円

（3）支払リース料，リース資産減損勘定の取崩額，減価償却費相当額，支払利息相当額及び減損損失

	前連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）
支払リース料	1,597 百万円	1,276 百万円
リース資産減損勘定の取崩額	— 百万円	— 百万円
減価償却費相当額	852 百万円	525 百万円
支払利息相当額	393 百万円	341 百万円
減損損失	— 百万円	— 百万円

（4）減価償却費相当額の算定方法

主として，リース期間を耐用年数とし，残存価額を10パーセントとする定率法によって算定し，これに9分の10を乗じた額を各期の減価償却費相当額とする方法を採用しています。

（5）利息相当額の算定方法

リース料の総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし，各期への配分方法については，利息法によっています。

2. オペレーティング・リース取引（借主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1年内	4,266 百万円	4,063 百万円
1年超	14,320 百万円	11,052 百万円
合 計	18,586 百万円	15,115 百万円

3. ファイナンス・リース取引（貸主側）

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりです。

(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額及び期末残高

	前連結会計年度（平成25年3月31日）		
	取得価額 (百万円)	減価償却累計額 (百万円)	期末残高 (百万円)
建物及び構築物	2,109	1,033	1,076
機械装置及び運搬具	1,048	789	259
その他（工具器具備品）	6	6	0
合 計	3,163	1,828	1,335

	当連結会計年度（平成26年3月31日）		
	取得価額 (百万円)	減価償却累計額 (百万円)	期末残高 (百万円)
建物及び構築物	2,065	1,068	997
機械装置及び運搬具	1,048	832	216
その他（工具器具備品）	6	6	0
合 計	3,119	1,906	1,213

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1年内	188 百万円	204 百万円
1年超	1,795 百万円	1,591 百万円
合 計	1,983 百万円	1,795 百万円

(3) 受取リース料、減価償却費及び受取利息相当額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
受取リース料	385 百万円	378 百万円
減価償却費	127 百万円	122 百万円
受取利息相当額	209 百万円	190 百万円

(4) 利息相当額の算定方法

リース料の総額と見積残存価額の合計額からリース物件の購入価額を控除した額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっています。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

4. オペレーティング・リース取引（貸主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1年内	564 百万円	542 百万円
1年超	3,543 百万円	3,000 百万円
合 計	4,107 百万円	3,542 百万円

5. 転リース取引

重要性が乏しいため、注記を省略しています。

## (金融商品関係)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループ（当社及び連結子会社）は、資金運用については短期的かつ安全性の高い預金等の金融資産に限定し、また、資金調達については主に銀行借入や社債発行による方針です。デリバティブは、為替や金利、商品価格等の変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行なわない方針です。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。また、輸出工事等に係る外貨建て営業債権は、為替変動リスクに晒されていますが、原則として外貨建ての営業債務をネットしたポジションについて先物為替予約、通貨オプション等を利用してヘッジしています。有価証券及び投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されています。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日のものです。また、その一部には、海外調達品等に係る外貨建てのものがあり、為替変動リスクに晒されていますが、総じて恒常的に同じ外貨建ての売掛金残高の範囲内にあります。借入金、コマーシャル・ペーパー及び社債は、運転資金及び設備投資資金の調達を目的としたものであり、返済日及び償還日は決算日後、最長で10年後です。このうち一部は、変動金利による金利変動リスク及び外貨建てによる為替変動リスクに晒されていますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引及び通貨スワップ取引）を利用してヘッジしています。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替取引、通貨オプション取引、借入金等に係る支払金利変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引です。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計処理基準に関する事項 (7) 重要なヘッジ会計の方法」に記載しています。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理のための関連諸規程に従い、営業債権について、各事業部門における回収責任部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手又は受注案件ごとに回収状況及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図るとともに、担保徴収を行なうなどの債権保全を図っています。連結子会社においても同様の管理を行なっています。

満期保有目的の債券は、格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少です。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンタパーティーリスクを軽減するため、格付けの高い金融機関とのみ取引を行なっています。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の連結貸借対照表価額により表されています。

##### ②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替リスクに対して、先物為替予約、通貨オプションを利用してヘッジしています。ヘッジ実績は、月次で財務部担当役員に、四半期毎に経営会議に報告しています。主要な連結子会社についても、同様の管理を行なっています。

また、当社及び一部の連結子会社は、長期借入金に係る支払金利の変動リスク及び外貨建て借入の為替変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引及び通貨スワップ取引を利用しています。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しています。

デリバティブ取引については、取引の記帳及び契約先と残高照合等を行なうとともに、月末時点の取引残高・時価評価損益等を、月次で財務部担当役員に報告しています。

##### ③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社グループでは、各社が適時に資金繰計画を作成・更新する方法により、流動性リスクを管理しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれていません（注）2参照）。

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	73,032	73,032	—
(2) 受取手形及び売掛金	348,350		
貸倒引当金（*1）	△3,974		
	344,376	344,189	△187
(3) 有価証券及び投資有価証券	40,893	40,897	4
満期保有目的の債券	1,999	2,003	4
その他有価証券	38,894	38,894	—
資産計	458,301	458,118	△183
(4) 支払手形及び買掛金	266,299	266,299	—
(5) 短期借入金	114,927	114,927	—
(6) コマーシャル・ペーパー	6,000	6,000	—
(7) 社債	63,335	68,113	4,778
(8) 長期借入金	151,449	152,742	1,293
負債計	602,010	608,081	6,071
(9) デリバティブ取引（*2）			
①ヘッジ会計が適用されていないもの	(1,105)	(1,105)	—
②ヘッジ会計が適用されているもの	(631)	(631)	—
デリバティブ取引計	(1,736)	(1,736)	—

(\*1) 受取手形及び売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しています。

(\*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しています。



当連結会計年度（平成26年3月31日）

	連結貸借対照表 計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	63,236	63,236	—
(2) 受取手形及び売掛金	395,037		
貸倒引当金（*1）	△4,060		
	390,977	390,648	△329
(3) 有価証券及び投資有価証券	41,551	41,556	5
満期保有目的の債券	1,878	1,883	5
その他有価証券	39,673	39,673	—
資産計	495,764	495,440	△324
(4) 支払手形及び買掛金	280,900	280,900	—
(5) 短期借入金	110,340	110,340	—
(6) コマーシャル・ペーパー	14,000	14,000	—
(7) 社債	50,000	50,606	606
(8) 長期借入金	165,143	165,082	△61
負債計	620,383	620,928	545
(9) デリバティブ取引（*2）			
①ヘッジ会計が適用されていないもの	697	697	—
②ヘッジ会計が適用されているもの	(114)	(114)	—
デリバティブ取引計	583	583	—

（\*1）受取手形及び売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しています。

（\*2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しています。

（注）1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(2) 受取手形及び売掛金

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債権ごとに、債権額を、満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっています。また、貸倒懸念債権については、同様の割引率による見積キャッシュ・フローの現在価値により時価を算定しています。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっています。債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっています。また、保有目的毎の有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」に記載しています。

(4) 支払手形及び買掛金、(5) 短期借入金、及び(6) コマーシャル・ペーパー

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(7) 社債

当社の発行する社債の時価は、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しています。

(8) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額（\*3）を同様の新規調達を行なった場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。

（\*3）為替予約等の振当処理あるいは金利スワップの特例処理の対象とされた長期借入金については、当該デリバティブ取引と一体として処理された場合の条件により算定された合計額

(9) デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」に記載しています。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
非上場株式	25,255	35,494
関係会社株式	63,126	86,648
合計	88,381	122,142

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めていません。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成25年3月31日）

区分	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	73,032	—	—	—
受取手形及び売掛金	342,024	6,266	60	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	300	1,500	—	—
(2) 社債	90	—	—	109
合計	415,446	7,766	60	109

当連結会計年度（平成26年3月31日）

区分	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	63,236	—	—	—
受取手形及び売掛金	383,409	11,606	22	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	1,500	200	—	—
(2) 社債	20	50	—	108
合計	448,165	11,856	22	108

4 社債、長期借入金及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	—	20,000	23,000	10,000	10,000	—
長期借入金	—	41,798	22,953	36,136	36,968	13,594

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	20,000	—	10,000	10,000	—	10,000
長期借入金	—	23,867	49,157	41,593	31,331	19,195

(有価証券関係)

1 売買目的有価証券

前連結会計年度（平成25年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

該当事項はありません。

2 満期保有目的の債券

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計 上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	1,500	1,501	1
	(2) 社債	109	112	3
	小計	1,609	1,613	4
時価が連結貸借対照表計 上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	300	300	△0
	(2) 社債	90	90	—
	小計	390	390	△0
合計		1,999	2,003	4

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計 上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	200	200	0
	(2) 社債	108	113	5
	小計	308	313	5
時価が連結貸借対照表計 上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	1,500	1,500	—
	(2) 社債	70	70	—
	小計	1,570	1,570	—
合計		1,878	1,883	5

3 その他有価証券

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	種類	連結貸借対照表 計上額（百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	28,400	13,495	14,905
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	10,494	13,507	△3,013
合計		38,894	27,002	11,892

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額 25,255百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていません。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	種類	連結貸借対照表 計上額（百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	29,938	14,782	15,156
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	9,735	11,441	△1,706
合計		39,673	26,223	13,450

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額 35,494百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていません。

4 連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券

前連結会計年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）

該当事項はありません。

当連結会計年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）

該当事項はありません。

5 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）

種類	売却額 （百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
株式	67	11	△1

当連結会計年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）

種類	売却額 （百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
株式	29	10	△1

6 減損処理を行なった有価証券

前連結会計年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）

その他有価証券について743百万円減損処理を行なっています。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、全て減損処理を行ない、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行なっています。

当連結会計年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）

その他有価証券について、減損処理額に重要性が乏しいため記載を省略しています。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、全て減損処理を行ない、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行なっています。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	1,782	—	53	53
	買建				
	韓国ウォン	12	—	2	2
	日本円	3,360	—	△198	△198
	オプション取引				
	売建				
	コール				
	米ドル	15,643	—		
		(—)	(—)	△1,035	△1,035
	ユーロ	192	192		
		(—)	(—)	2	2
	プット				
	米ドル	2,545	—		
		(—)	(—)	46	46
ユーロ	711	—			
	(—)	(—)	11	11	
買建					
コール					
米ドル	2,640	—			
	(—)	(—)	143	143	
プット					
米ドル	7,255	—			
	(—)	(—)	△123	△123	
ユーロ	182	182			
	(—)	(—)	1	1	
	合計	—	—	△1,098	△1,098

(注) 1 時価の算定方法

為替予約取引……………先物為替相場を使用しています。

通貨オプション取引……………取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しています。

2 契約額等の( )内の金額は、通貨オプション取引のオプション料を記載しています。当該通貨オプション取引はゼロコストオプション取引であり、オプション料の授受はありません。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	2,093	—	△7	△7
	タイバーツ	140	—	1	1
	買建				
	米ドル	2,627	—	458	458
	ユーロ	4,575	2,842	237	237
	シンガポール ドル	418	—	△2	△2
	日本円	1,881	—	△57	△57
	オプション取引				
	売建				
	コール				
	米ドル	1,874	—		
		(—)	(—)	△4	△4
ユーロ	48	—			
	(—)	(—)	△4	△4	
買建					
プット					
ユーロ	45	—			
	(—)	(—)	△3	△3	
合計		—	—	619	619

(注) 1 時価の算定方法

為替予約取引……………先物為替相場を使用しています。

通貨オプション取引……………取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しています。

2 契約額等の（ ）内の金額は、通貨オプション取引のオプション料を記載しています。当該通貨オプション取引はゼロコストオプション取引であり、オプション料の授受はありません。

(2) 金利関連

前連結会計年度（平成25年3月31日）

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	385	385	△7	△7
合計		—	—	△7	△7

(注) 1 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しています。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	274	174	△3	△3
合計		—	—	△3	△3

(注) 1 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しています。

(3) 商品関連

前連結会計年度（平成25年3月31日）  
該当事項はありません。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	ニッケルスワップ取引 支払固定・受取変動	960	—	81	81
合計		—	—	81	81

(注) 1 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しています。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度（平成25年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	
原則的処理方法	為替予約取引 売建	売掛金	米ドル	13,900	709	△853
	ユーロ		667	—	△61	
	買建	買掛金	米ドル	2,396	152	192
			ユーロ	1,976	40	104
			シンガポール ドル	13	—	0
			カナダドル	16	—	0
			タイバーツ	42	—	0
			通貨スワップ取引 米ドルー円	長期借入金	15,597	14,547
為替予約等の 振当処理	為替予約取引 売建	売掛金	米ドル	13,132	707	(注2)
	ユーロ		331	—	(注2)	
	香港ドル		2,310	1,863	(注2)	
	買建	買掛金	米ドル	1,210	—	(注2)
			ユーロ	1	—	(注2)
			タイバーツ	18	—	(注2)
			合計	—	—	△618

(注) 1 時価の算定方法

先物為替相場を使用しています。

- 2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金、売掛金又は買掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金、売掛金又は買掛金の時価に含めて記載しています。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 売建	売掛金			
	米ドル		27,734	1,301	△384
	ユーロ	77	—	△1	
	買建	買掛金			
	米ドル		2,726	105	170
	ユーロ		2,586	—	99
	シンガポール ドル		450	—	7
	スイスフラン		54	—	0
タイバーツ	162		—	1	
為替予約等の 振当処理	通貨スワップ取引 米ドルー円	長期借入金	10,337	9,287	(注2)
	米ドルーユーロ	長期借入金	4,939	4,939	(注2)
	為替予約取引 売建	売掛金			
	米ドル		7,202	1,261	(注2)
	ユーロ		1,687	—	(注2)
	香港ドル	1,645	543	(注2)	
	買建	買掛金			
	米ドル		627	—	(注2)
	ユーロ		55	—	(注2)
	タイバーツ		86	—	(注2)
合計			—	—	△108

(注) 1 時価の算定方法

先物為替相場を使用しています。

- 2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金、売掛金又は買掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金、売掛金又は買掛金の時価に含めて記載しています。

(2) 金利関連

前連結会計年度（平成25年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	3,000	3,000	△13
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	78,609	68,587	(注2)
合計			—	—	△13

(注) 1 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しています。

- 2 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しています。



当連結会計年度（平成26年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	3,000	3,000	△6
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	79,806	68,984	(注2)
合計			—	—	△6

(注) 1 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しています。

2 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しています。

(退職給付関係)

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は確定給付型の制度として、退職一時金制度及び確定給付企業年金制度を設けているほか、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けています。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2. 退職給付債務に関する事項

(1) 退職給付債務	△130,350百万円
(2) 年金資産	475
<hr/>	
(3) 未積立退職給付債務	△129,875
(4) 未認識数理計算上の差異	13,362
(5) 未認識過去勤務債務	1,105
<hr/>	
(6) 退職給付引当金	△115,408

3. 退職給付費用に関する事項

(1) 勤務費用	8,302百万円
(2) 利息費用	2,737
(3) 期待運用収益	—
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	3,767
(5) 過去勤務債務の費用処理額	866
(6) 割増退職金	610
<hr/>	
(7) 退職給付費用	16,282
<hr/>	
(8) その他	153
<hr/>	
計	16,435

(注) 1. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は勤務費用に計上しています。

2. (8) その他は確定拠出年金への掛金支払額です。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(2) 割引率	主として2.0%
(3) 期待運用収益率	—%
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	主として13年
(5) 数理計算上の差異の処理年数	主として13年

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は確定給付型の制度として、退職一時金制度及び確定給付企業年金制度を設けているほか、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けています。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。なお、一部の国内連結子会社が有する退職一時金制度及び確定給付企業年金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しています。

また、一部の海外連結子会社は国際会計基準（IFRS）を適用しており、平成25年度より「従業員給付」（IAS19号 平成23年6月16日）に従い会計処理しています。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	130,350百万円
勤務費用	7,889
利息費用	2,390
数理計算上の差異の発生額	347
退職給付の支払額	△7,158
過去勤務費用の発生額	△5,099
為替換算調整勘定	622
連結子会社の増加等に伴う増加額	2,032
簡便法から原則法への変更による増減額	1,367
その他	274
<hr/>	<hr/>
退職給付債務の期末残高	133,014

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	475百万円
期待運用収益	—
海外連結子会社における利息収益	39
簡便法による実際運用収益	13
数理計算上の差異の発生額	46
事業主からの拠出	225
退職給付の支払額	△197
為替換算調整勘定	499
連結子会社の増加等に伴う増加額	2,016
その他	5
<hr/>	<hr/>
年金資産の期末残高	3,121

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	5,188百万円
年金資産	△3,121
<hr/>	<hr/>
	2,067
非積立型制度の退職給付債務	127,826
<hr/>	<hr/>
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	129,893
<hr/>	<hr/>
退職給付に係る負債	129,893
<hr/>	<hr/>
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	129,893

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額	
勤務費用	7,876百万円
利息費用	2,345
海外連結子会社における利息純額	6
期待運用収益	—
数理計算上の差異の費用処理額	3,306
過去勤務費用の費用処理額	△218
簡便法から原則法への変更による費用処理額	1,367
制度移行に伴う損益	213
その他	138
<hr/>	
確定給付制度に係る退職給付費用	15,033

- (注) 1. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は勤務費用に計上しています。  
2. 制度移行に伴う損益は連結子会社の制度移行に伴う損益です。

(5) 退職給付に係る調整累計額	
退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりです。	
未認識過去勤務費用	3,817百万円
未認識数理計算上の差異	△10,352
<hr/>	
合 計	△6,535

(6) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです。

債券	45%
株式	10
現金及び預金	9
一般勘定	10
不動産	26
その他	0
<hr/>	
合 計	100

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しています。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	主として2.0%
長期期待運用収益率	—%

3. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、590百万円です。

(ストック・オプション等関係)

1 スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
販売費及び一般管理費	127	132

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成19年度 ストック・オプション	平成20年度 ストック・オプション	平成21年度 ストック・オプション	平成22年度 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 13名, 当社執行役員 13名	当社取締役 13名, 当社執行役員 11名	当社取締役 13名, 当社執行役員 14名	当社取締役 13名, 当社執行役員 13名
株式の種類別のストック・オプションの付与数 (注)	普通株式 274,000株	普通株式 511,000株	普通株式 647,000株	普通株式 759,000株
付与日	平成19年8月9日	平成20年8月18日	平成21年8月5日	平成22年8月9日
権利確定条件	原則として当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日から1年経過した日。	原則として当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日から1年経過した日。	原則として当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日から1年経過した日。	原則として当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日から1年経過した日。
対象勤務期間	権利確定日を合理的に予測することが困難なため、対象勤務期間はないものとみなしています。	権利確定日を合理的に予測することが困難なため、対象勤務期間はないものとみなしています。	権利確定日を合理的に予測することが困難なため、対象勤務期間はないものとみなしています。	権利確定日を合理的に予測することが困難なため、対象勤務期間はないものとみなしています。
権利行使期間	自 平成19年8月10日 至 平成49年8月9日	自 平成20年8月19日 至 平成50年8月18日	自 平成21年8月6日 至 平成51年8月5日	自 平成22年8月10日 至 平成52年8月9日

	平成23年度 ストック・オプション	平成24年度 ストック・オプション	平成25年度 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 13名, 当社執行役員 14名	当社取締役 13名, 当社執行役員 15名	当社取締役 13名, 当社執行役員 14名
株式の種類別のストック・オプションの付与数 (注)	普通株式 593,000株	普通株式 798,000株	普通株式 350,000株
付与日	平成23年8月17日	平成24年8月16日	平成25年8月21日
権利確定条件	原則として当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日から1年経過した日。	原則として当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日から1年経過した日。	原則として当社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日から1年経過した日。
対象勤務期間	権利確定日を合理的に予測することが困難なため、対象勤務期間はないものとみなしています。	権利確定日を合理的に予測することが困難なため、対象勤務期間はないものとみなしています。	権利確定日を合理的に予測することが困難なため、対象勤務期間はないものとみなしています。
権利行使期間	自 平成23年8月18日 至 平成53年8月17日	自 平成24年8月17日 至 平成54年8月16日	自 平成25年8月22日 至 平成55年8月21日

(注) 株式数に換算して記載しています。

## (2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しています。

## ①ストック・オプションの数

	平成19年度 ストック・ オプション	平成20年度 ストック・ オプション	平成21年度 ストック・ オプション	平成22年度 ストック・ オプション	平成23年度 ストック・ オプション
権利確定前 (株)					
前連結会計年度末	95,000	320,000	513,000	717,000	593,000
付与	—	—	—	—	—
失効	—	—	—	—	—
権利確定	25,000	83,000	107,000	159,000	100,000
未確定残	70,000	237,000	406,000	558,000	493,000
権利確定後 (株)					
前連結会計年度末	22,000	54,000	36,000	42,000	—
権利確定	25,000	83,000	107,000	159,000	100,000
権利行使	41,000	98,000	61,000	113,000	52,000
失効	—	—	—	—	—
未行使残	6,000	39,000	82,000	88,000	48,000

	平成24年度 ストック・ オプション	平成25年度 ストック・ オプション
権利確定前 (株)		
前連結会計年度末	798,000	—
付与	—	350,000
失効	—	—
権利確定	—	—
未確定残	798,000	350,000
権利確定後 (株)		
前連結会計年度末	—	—
権利確定	—	—
権利行使	—	—
失効	—	—
未行使残	—	—

②単価情報

	平成19年度 ストック・ オプション	平成20年度 ストック・ オプション	平成21年度 ストック・ オプション	平成22年度 ストック・ オプション	平成23年度 ストック・ オプション
権利行使価格（円）	1	1	1	1	1
行使時平均株価（円）	424	424	410	434	410
付与日における公正な 評価単価（円）	462	185	165	154	178

	平成24年度 ストック・ オプション	平成25年度 ストック・ オプション
権利行使価格（円）	1	1
行使時平均株価（円）	—	—
付与日における公正な 評価単価（円）	159	376

3 当連結会計年度に付与したストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与された平成25年度ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりです。

①使用した評価技法

ブラック・ショールズ式

②主な基礎数値及び見積方法

株価変動性（注1）	38%
予想残存期間（注2）	3.5年
予想配当（注3）	5円/株
無リスク利子率（注4）	0.19%

(注) 1 年率，過去3.5年の日次株価（平成22年2月22日～平成25年8月21日の各取引日における終値）に基づき算出

2 オプション付与日から権利行使されると見込まれる平均的な時期までの期間

3 過去1年間の実績配当金（平成25年3月期末配当金）

4 年率，平成25年8月21日の国債利回り（残存期間3.5年）

4 スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には，将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため，実績の失効数のみ反映させる方法を採用しています。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産評価損	4,161百万円	3,434百万円
減損損失	5,735	5,716
賞与引当金	7,610	7,597
保証工事引当金	6,980	8,757
受注工事損失引当金	7,931	6,414
未払費用否認	6,044	7,109
投資有価証券等評価損	1,558	1,473
退職給付引当金	40,730	—
退職給付に係る負債	—	45,173
繰越欠損金	19,991	14,195
未実現利益	3,205	3,405
その他	12,316	16,802
繰延税金資産小計	116,261	120,075
評価性引当額	△37,425	△38,737
繰延税金資産合計	78,836	81,338
繰延税金負債		
組織再編に伴う資産評価差額	—	△2,923
その他有価証券評価差額金	△4,334	△4,456
固定資産圧縮積立金	△6,259	△5,803
その他	△3,358	△4,529
繰延税金負債合計	△13,951	△17,711
繰延税金資産の純額	64,885	63,627

(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれています。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
流動資産—繰延税金資産	31,358百万円	34,632百万円
固定資産—繰延税金資産	36,383	32,489
流動負債—その他の流動負債	△108	△142
固定負債—その他の固定負債	△2,748	△3,352

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
国内の法定実効税率 (調整)		38.0%
評価性引当額増減	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しています。	4.2
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		3.2
交際費等永久に損金に算入されない項目		1.1
外国税率差異		△3.0
試験研究費税額控除		△2.9
その他		0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率		41.3

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないことになりました。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が1,752百万円減少し、法人税等調整額が1,750百万円増加しています。

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しています。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しています。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

当社及び一部の連結子会社では、東京都及びその他の地域において、賃貸用のオフィスビル(土地を含む)、駐車場及び商業用施設等を有しています。これらの賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び期末時価は、次のとおりです。

(単位:百万円)

用途	連結貸借対照表計上額			期末時価
	期首残高	期中増減額	期末残高	
オフィスビル	70,641	△2,274	68,367	132,488
駐車場	1,970	△1,395	575	9,698
商業用施設	1,499	2,177	3,676	43,385
その他	22,329	3,148	25,477	66,445
合計	96,439	1,656	98,095	252,016

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額です。

2 期末時価は、主として社外の不動産鑑定士による不動産調査報告書に基づいて算定した金額です。

また、賃貸等不動産に関する損益は、次のとおりです。

(単位:百万円)

用途	連結損益計算書における金額			
	賃貸収入	賃貸費用	差額	その他損益
オフィスビル	8,351	5,333	3,018	13,443
駐車場	677	162	515	△2
商業用施設	1,041	340	701	—
その他	2,796	1,277	1,519	△192
合計	12,865	7,112	5,753	13,249

(注) 1 主な賃貸収入は売上に、主な賃貸費用は売上原価に計上しています。

2 その他損益は、固定資産売却益及び固定資産廃却損であり、特別利益及び営業外費用に計上しています。



当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

当社及び一部の連結子会社では、東京都及びその他の地域において、賃貸用のオフィスビル（土地を含む）、駐車場及び商業用施設等を有しています。これらの賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び期末時価は、次のとおりです。

（単位：百万円）

用途	連結貸借対照表計上額			期末時価
	期首残高	期中増減額	期末残高	
オフィスビル	68,367	△2,618	65,749	135,399
駐車場	575	△27	548	9,672
商業用施設	3,676	△23	3,653	46,094
その他	25,477	2,894	28,371	68,705
合 計	98,095	226	98,321	259,870

- （注） 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額です。  
 2 期末時価は、主として社外の不動産鑑定士による不動産調査報告書に基づいて算定した金額です。

また、賃貸等不動産に関する損益は、次のとおりです。

（単位：百万円）

用途	連結損益計算書における金額			
	賃貸収入	賃貸費用	差額	その他損益
オフィスビル	8,325	5,277	3,048	—
駐車場	465	146	319	11
商業用施設	1,095	381	714	—
その他	3,324	1,573	1,751	5
合 計	13,209	7,377	5,832	16

- （注） 1 主な賃貸収入は売上に、主な賃貸費用は売上原価に計上しています。  
 2 その他損益は、固定資産売却益及び固定資産廃却損であり、営業外収益及び営業外費用に計上しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行なう対象となっているものです。

当社は、製品・サービス別の事業本部・セクターを置き、各事業本部・セクターは、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

当社は、第1四半期連結会計期間から、「グループ経営方針2013」に基づく4つの事業領域の見直し及びそれによる組織変更を行ないました。これに伴い、事業領域を基礎に報告セグメントを「資源・エネルギー」「船舶・海洋」「社会基盤」「物流・産業機械」「回転・量産機械」「航空・宇宙」「その他」の7つの区分から「資源・エネルギー・環境」「社会基盤・海洋」「産業システム・汎用機械」「航空・宇宙・防衛」の4つの区分に変更しています。

なお、前連結会計年度のセグメント情報は、組織変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しています。

・各セグメントに属する主な事業、製品・サービス

報告セグメント	主な事業、製品・サービス
資源・エネルギー・環境	ボイラ、原動機プラント、陸船用原動機、船用大型原動機、ガスプロセス（貯蔵設備、化学プラント）、原子力（原子力機器）、環境対応システム、医薬（医薬プラント）
社会基盤・海洋	橋梁、水門、シールド掘進機、交通システム、都市開発（不動産販売・賃貸）、F-LNG（フローティングLNG貯蔵設備）、海洋構造物
産業システム・汎用機械	船用機械、物流システム、運搬機械、パーキング、製鉄機械、産業機械、熱・表面処理、製紙機械、車両過給機、圧縮機、分離装置、船用過給機、建機、農機、小型原動機
航空・宇宙・防衛	航空エンジン、ロケットシステム・宇宙利用（宇宙開発関連機器）、防衛機器システム

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一です。報告セグメントの利益は、営業利益ベース数値です。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいています。

3. 報告セグメントごとの売上高，利益又は損失，資産，負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額
	資源・ エネルギー・ 環境	社会基盤・ 海洋	産業システム・ 汎用機械	航空・ 宇宙・防衛	計				
売上高									
外部顧客への売上高	299,124	109,195	369,617	328,447	1,106,383	149,666	1,256,049	—	1,256,049
セグメント間の 内部売上高又は振替 高	22,405	8,664	12,951	10,034	54,054	28,540	82,594	△82,594	—
計	321,529	117,859	382,568	338,481	1,160,437	178,206	1,338,643	△82,594	1,256,049
セグメント利益 (営業利益)	16,206	1,559	13,651	15,423	46,839	8,085	54,924	△12,783	42,141
その他の項目									
減価償却費(注4)	6,197	6,017	7,988	14,643	34,845	3,527	38,372	3,404	41,776
持分法投資利益	301	—	653	—	954	3,356	4,310	23	4,333
有形固定資産の 増加額(注5)	5,930	6,070	16,393	16,241	44,634	3,801	48,435	6,611	55,046

(注) 1. 「その他」の区分は，報告セグメントに含まれない事業であり，検査・計測事業及び関連する機器等の製造，販売，その他サービス業等を含んでいます。また，変更前報告セグメントの「船舶・海洋」に関わる売上高117,358百万円，セグメント利益（営業利益）6,535百万円，減価償却費2,752百万円，持分法投資利益3,577百万円及び有形固定資産の増加額2,639百万円が含まれています。

2. セグメント利益の調整額は，セグメント間取引に関わる調整額62百万円，各報告セグメントに配分していない全社費用△12,845百万円です。

全社費用は，主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3. セグメント資産及び負債については，経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象とはなっていないため記載していません。

4. 減価償却費は，有形固定資産の減価償却費です。また，減価償却費の調整額は，各報告セグメントに配分していない全社の減価償却費です。

5. 有形固定資産の増加額の調整額は，各報告セグメントに配分していない全社の有形固定資産の増加額です。

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額
	資源・ エネルギー・ 環境	社会基盤・ 海洋	産業システム・ 汎用機械	航空・ 宇宙・防衛	計				
売上高									
外部顧客への売上高	333,392	144,560	386,110	401,607	1,265,669	38,369	1,304,038	—	1,304,038
セグメント間の 内部売上高又は振替 高	10,701	5,753	11,710	4,491	32,655	20,584	53,239	△53,239	—
計	344,093	150,313	397,820	406,098	1,298,324	58,953	1,357,277	△53,239	1,304,038
セグメント利益 (営業利益)	11,617	2,369	15,130	36,723	65,839	1,930	67,769	△14,498	53,271
その他の項目									
減価償却費(注4)	5,776	6,086	10,616	14,174	36,652	795	37,447	2,982	40,429
持分法投資利益 又は損失	325	—	552	△72	805	4,612	5,417	△20	5,397
有形固定資産の 増加額(注5)	8,137	9,177	14,615	17,277	49,206	984	50,190	4,379	54,569

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業であり、検査・計測事業及び関連する機器等の製造、販売、その他サービス業等を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引に関わる調整額88百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△14,586百万円です。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3. セグメント資産及び負債については、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための検討対象とはなっていないため記載していません。

4. 減価償却費は、有形固定資産の減価償却費です。また、減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社の減価償却費です。

5. 有形固定資産の増加額の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社の有形固定資産の増加額です。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一区分のため、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	米国	アジア	中南米	ヨーロッパ	その他	合計
769,746	147,153	173,598	52,895	93,004	19,653	1,256,049

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	北米	アジア	中南米	ヨーロッパ	その他	合計
292,640	1,522	9,612	91	17,053	139	321,057

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
防衛省	149,914	航空・宇宙・防衛, その他

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一区分のため、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	米国	アジア	中南米	ヨーロッパ	その他	合計
685,439	212,710	221,468	18,521	152,220	13,680	1,304,038

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	北米	アジア	中南米	ヨーロッパ	その他	合計
295,945	2,804	13,037	106	24,506	50	336,448

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
防衛省	130,427	航空・宇宙・防衛

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】  
前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計	調整額	連結財務諸 表計上額
	資源・ エネルギー・ 環境	社会基盤・ 海洋	産業システム・ 汎用機械	航空・ 宇宙・防衛	計				
減損損失	—	710	424	—	1,134	126	1,260	—	1,260

(注) 「その他」の金額は、報告セグメントに含まれない事業であり、検査・計測事業及び関連する機器等の製造、販売、その他サービス業等の金額です。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	合計	調整額	連結財務諸 表計上額
	資源・ エネルギー・ 環境	社会基盤・ 海洋	産業システム・ 汎用機械	航空・ 宇宙・防衛	計				
減損損失	—	20	225	—	245	—	245	—	245

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】  
前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額
	資源・ エネルギー・ 環境	社会基盤・ 海洋	産業システム・ 汎用機械	航空・ 宇宙・防衛	計				
当期償却額	100	—	678	—	778	290	1,068	14	1,082
当期末残高	1,066	1	17,832	—	18,899	3,654	22,553	55	22,608

(注) 1. 「その他」の金額は、報告セグメントに含まれない事業であり、検査・計測事業及び関連する機器等の製造、販売、その他サービス業等の金額です。

2. 調整額は、各報告セグメントに配分していない全社ののれん償却額及び未償却残高です。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額
	資源・ エネルギー・ 環境	社会基盤・ 海洋	産業システム・ 汎用機械	航空・ 宇宙・防衛	計				
当期償却額	193	1	2,449	—	2,643	421	3,064	14	3,078
当期末残高	1,106	—	18,509	—	19,615	3,302	22,917	41	22,958

(注) 1. 「その他」の金額は、報告セグメントに含まれない事業であり、検査・計測事業及び関連する機器等の製造、販売、その他サービス業等の金額です。

2. 調整額は、各報告セグメントに配分していない全社ののれん償却額及び未償却残高です。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】  
 前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）  
 重要性が乏しいため、記載を省略しています。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）  
 該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

①連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円) (注1)	科 目	期末残高 (百万円) (注1)
関連 会社	(株)IHIフ ァイナンス サポート	東京都 中央区	200	リース業, ファクタリング業 等	所有 直接 33.5	ファクタ リング	ファクタリング (注2)	75,997	支払手形 及び買掛金 流動負債 その他	28,091  943

(注) 1 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

2 ファクタリング取引については、当社債務に関し、当社・取引先・(株)IHIファイナンスサポートの3社間で基本契約を締結し、決済を行なっています。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円) (注1)	科 目	期末残高 (百万円) (注1)
関連 会社	(株)IHIフ ァイナンス サポート	東京都 中央区	200	リース業, ファクタリング業 等	所有 直接 33.5	ファクタ リング	ファクタリング (注2)	78,986	支払手形 及び買掛金 流動負債 その他	25,645  1,513

(注) 1 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

2 ファクタリング取引については、当社債務に関し、当社・取引先・(株)IHIファイナンスサポートの3社間で基本契約を締結し、決済を行なっています。

②連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主等

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円) (注1)	科 目	期末残高 (百万円) (注1)
役員	益 和明	—	—	(一財)日本航空機 エンジン協会 (代表理事)	被所有 直接 0.0	当社 代表取締役 役会長	(一財)日本航空 機エンジン協会 との営業取引 (注2)  ・ジェットエン ジンの開発研 究を受託  ・上記に係る分 担金の支出  ・上記に係る助 成金の受入    ・ジェットエン ジンの部品を 製作・納入   ・上記に係る分 担金の支出	8,100  7,382  6,011    96,324  50,427	—  —  流動負債 その他 固定負債 その他  受取手形 及び売掛金 前受金  —	—  —  2,834  23,196  18,120  4,370  —

(注) 1 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

2 第三者の代表として行なった取引であり、取引金額、価格等については、一般取引条件によっています。



当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)(注1)	科目	期末残高(百万円)(注1)
役員	金 和明	—	—	(一財)日本航空機エンジン協会 (代表理事)	被所有 直接 0.0	当社 代表取締役 役会長	(一財)日本航空機エンジン協会との営業取引 (注2) ・ジェットエンジンの開発研究を受託 ・上記に係る分担金の支出 ・上記に係る助成金の受入  ・ジェットエンジンの部品を製作・納入 ・上記に係る分担金の支出	21,318  8,237 19,543  126,724  84,417	— — 流動負債 その他 固定負債 その他 受取手形 及び売掛金 前受金 —	— — 3,142 34,756 30,430 6,360 —

(注) 1 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

2 第三者の代表として行なった取引であり、取引金額、価格等については、一般取引条件によっています。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

①連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)(注1)	科目	期末残高(百万円)(注1)
関連会社	(株)IHIファイナンスサポート	東京都 中央区	200	リース業, ファクタリング業 等	所有 直接 33.5	ファクタリング	ファクタリング (注2)	154,743	支払手形 及び買掛金	50,228

(注) 1 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

2 ファクタリング取引については、連結子会社債務に関し、連結子会社・取引先・(株)IHIファイナンスサポートの3社間で基本契約を締結し、決済を行なっています。

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円) (注1)	科目	期末残高 (百万円) (注1)
関連 会社	㈱IHIフ ァイナンス サポート	東京都 中央区	200	リース業, ファクタリング業 等	所有 直接 33.5	ファクタ リング	ファクタリング (注2)	143,620	支払手形 及び買掛金 流動負債 その他	51,605  9

(注) 1 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれています。

2 ファクタリング取引については、連結子会社債務に関し、連結子会社・取引先・㈱IHIファイナンスサポートの3社間で基本契約を締結し、決済を行なっています。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社はジャパン マリンユナイテッド㈱であり、その要約財務諸表は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	ジャパン マリンユナイテッド㈱	
	前連結会計年度	当連結会計年度
流動資産合計	176,989	204,432
固定資産合計	160,998	157,529
流動負債合計	134,465	156,994
固定負債合計	66,587	61,403
純資産合計	136,935	143,564
売上高 (注)	71,843	270,897
税引前当期純利益金額 (注)	2,323	5,235
当期純利益金額 (注)	3,885	6,574

(注) 前連結会計年度における当該金額は、ジャパン マリンユナイテッド㈱が当社の持分法適用関連会社となった平成25年1月1日以降のものです。

(開示対象特別目的会社関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

1 開示対象特別目的会社の概要及び開示対象特別目的会社を利用した取引の概要

当社では、安定的に資金を調達することを目的として、平成17年3月に不動産の流動化を実施しており、特例有限会社である特別目的会社1社を利用しています。特別目的会社は、不動産信託受益権の取得、保有、管理及び売却する事業を行なっています。さらに、当社は、特別目的会社に対し不動産管理受託業務を行なっています。

また、当該流動化においては、特別目的会社に対して、匿名組合契約を締結し、当該契約による出資金を有しています。匿名組合出資金については、すべてを回収する予定であり、将来における損失の負担はないと判断しています。

当該特別目的会社の直近の決算日における資産総額は5,182百万円であり、負債総額は4,733百万円です。なお、当該特別目的会社について、当社は議決権のある出資金等は有しておらず、役員や従業員の派遣もありません。

2 特別目的会社との取引金額等

	期末残高 (百万円)	主な損益	
		項目	金額 (百万円)
出資金(注1)	308	営業外収益(注2)	142
不動産管理受託業務	—	営業収益	3

(注) 1 出資金は、みなし有価証券であるためその他有価証券に計上しています。

2 出資に対する利益配当は、営業外収益に計上しています。

当連結会計年度(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

1 開示対象特別目的会社の概要及び開示対象特別目的会社を利用した取引の概要

当社では、安定的に資金を調達することを目的として、平成17年3月に不動産の流動化を実施し、特例有限会社である特別目的会社1社を利用していましたが、平成25年4月24日付で、当該特別目的会社より不動産信託受益権の買戻しを行ないました。これにより特別目的会社が計上した不動産信託受益権売却益については匿名組合分配金として当社が受領しました。また、当該特別目的会社は、平成25年8月をもって解散し、匿名組合出資金についての払戻しを受けています。

2 特別目的会社との取引金額等

	期末残高 (百万円)	主な損益	
		項目	金額 (百万円)
不動産信託受益権の取得 (注1)	5,140	営業外収益(注2)	1,200
出資金の払戻額(注3)	308	営業外収益(注4)	81

(注) 1 取得した不動産信託受益権は、連結貸借対照表上の科目としては主として信託財産である建物及び土地に計上しています。

2 特別目的会社で計上した不動産信託受益権売却益に基づく利益配当は、営業外収益に計上しています。

3 出資金の払戻額の内訳は、その他有価証券に計上していた匿名組合出資金です。

4 匿名組合契約終了に伴う配当金は、営業外収益に計上しています。

## (1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	197円08銭	223円68銭
1株当たり当期純利益金額	22円81銭	22円51銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	21円58銭	21円31銭

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	33,386	33,133
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	33,386	33,133
普通株式の期中平均株式数 (千株)	1,463,401	1,471,758
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額 (百万円)	△71	△208
(うち受取利息 (税額相当額控除後)) (百万円)	△71	△208
普通株式増加数 (千株)	80,574	73,548
(うち転換社債) (千株)	80,139	71,749
(うち新株予約権) (千株)	434	1,799
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の内容	新株予約権1種類(新株予約権の総数117個)、概要は「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況 ①平成19年7月23日開催の取締役会決議」に記載のとおり。	新株予約権1種類(新株予約権の総数76個)、概要は「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況 ①平成19年7月23日開催の取締役会決議」に記載のとおり。

(重要な後発事象)

1. 平成26年5月30日開催の当社取締役会において、第39回・第40回社債の発行を決議し、下記のとおり発行しました。

第39回無担保社債（5年債）

- (1) 発行総額 100億円
- (2) 発行価格 額面100円につき金100円
- (3) 利率 年0.389%
- (4) 払込期日 平成26年6月17日
- (5) 償還期限 平成31年6月17日
- (6) 資金使途 社債の償還資金に充当
- (7) 募集方法 一般募集

第40回無担保社債（7年債）

- (1) 発行総額 100億円
- (2) 発行価格 額面100円につき金100円
- (3) 利率 年0.592%
- (4) 払込期日 平成26年6月17日
- (5) 償還期限 平成33年6月17日
- (6) 資金使途 社債の償還資金に充当
- (7) 募集方法 一般募集

## ⑤【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限	摘要
当社	第34回無担保社債	平成19年 6月18日	20,000	20,000 (20,000)	2.13	無	平成26年 6月18日	社債償還 及び 運転資金
当社	第36回無担保社債	平成24年 3月9日	10,000	10,000	1.00	無	平成29年 3月9日	社債償還 資金
当社	第37回無担保社債	平成24年 10月15日	10,000	10,000	0.74	無	平成29年 10月13日	社債償還 資金
当社	第38回無担保社債	平成25年 6月14日	—	10,000	1.11	無	平成32年 6月12日	コマーシャル・ ペーパー償還 資金
当社	2016年満期ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債	平成23年 3月28日	23,335	—	—	無	平成28年 3月29日	設備投資 及び 借入金返済資金
合計		—	63,335	50,000 (20,000)	—	—	—	—

(注) 1 ( ) 内の金額は、1年内の償還予定額です。

2 新株予約権付社債に関する記載は次のとおりです。

銘柄	2016年満期ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債
発行すべき株式	普通株式
新株予約権の発行価額 (円)	無償
株式の発行価格 (円) (*2)	285.8
発行価額の総額 (百万円)	23,000
新株予約権の行使により発行した株式の 発行価額の総額 (百万円)	22,800
新株予約権の付与割合 (%)	100
新株予約権の行使期間	自 平成23年4月11日 至 平成28年3月14日

(\*1) 本新株予約権の行使に際しては、その新株予約権に係る本社債を出資するものとし、当該本社債の価額は、その額面金額と同等としています。

(\*2) 株式の発行価格については、平成25年6月27日開催の第196期定時株主総会において期末配当を5円とする剰余金の配当に関する議案が可決され、平成25年3月期の年間配当が1株につき5円と決定されたことに伴い、信託証書の転換価額調整条項に従い、平成25年4月1日より285.8円となっています。

(\*3) 発行価額の総額23,000百万円のうち、200百万円については平成26年3月28日に繰上償還しています。

3 連結決算日後5年内における償還予定額は以下のとおりです。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
20,000	—	10,000	10,000	—

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	67,441	68,481	0.77	—
1年以内に返済予定の長期借入金	47,486	41,859	1.24	—
1年以内に返済予定のリース債務	3,700	3,622	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	151,449	165,143	1.14	平成27年6月～ 平成45年9月
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	14,431	14,697	—	平成27年4月～ 平成47年11月
その他有利子負債 コマーシャル・ペーパー（1年以内返済予定）	6,000	14,000	0.16	—
合計	290,507	307,802	—	—

- (注) 1 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しています。  
 2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載していません。  
 3 長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりです。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	23,867	49,157	41,593	31,331
リース債務	3,204	2,604	2,373	1,801

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しています。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	252,959	546,305	871,533	1,304,038
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	15,196	23,344	52,751	60,490
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	9,163	12,753	31,317	33,133
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	6.26	8.72	21.4	22.51

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額(円)	6.26	2.45	12.69	1.21

(注) 第5 [経理の状況] 1 [連結財務諸表等] に記載の金額は百万円未満を四捨五入表示しています。

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	33,201	16,987
受取手形	※5 2,400	1,431
売掛金	161,643	179,701
製品	16	23
仕掛品	110,939	139,199
原材料及び貯蔵品	81,582	83,009
前払金	6,028	10,334
前払費用	4,315	3,499
繰延税金資産	15,274	19,737
未収入金	19,481	18,798
短期貸付金	55,951	56,064
その他	3,864	5,391
貸倒引当金	△4,820	△4,741
流動資産合計	489,880	529,434
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	95,430	93,759
構築物（純額）	5,752	5,608
船渠・船台（純額）	630	1,000
機械及び装置（純額）	※4 26,420	※4 27,108
船舶（純額）	0	0
車両運搬具（純額）	169	120
工具器具備品（純額）	※4 6,491	※4 7,195
土地	44,267	45,635
リース資産（純額）	7,836	8,273
建設仮勘定	5,982	6,809
有形固定資産合計	192,980	195,510
無形固定資産		
のれん	55	40
特許使用権	1,449	3,523
借地権	7	7
施設利用権	24	21
ソフトウェア	8,111	8,428
リース資産	65	50
その他	62	104
無形固定資産合計	9,776	12,177



(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 59,835	※1 71,094
関係会社株式	※1 129,955	※1 136,114
出資金	1,071	1,120
関係会社出資金	14,305	14,220
長期貸付金	6,751	13,222
繰延税金資産	24,355	17,400
その他	7,796	7,022
貸倒引当金	△616	△665
投資その他の資産合計	243,455	259,529
固定資産合計	446,213	467,217
資産合計	936,093	996,652
負債の部		
流動負債		
支払手形	※5 4,139	2,492
買掛金	128,709	123,926
短期借入金	124,014	112,929
コマーシャル・ペーパー	6,000	14,000
1年内償還予定の社債	—	20,000
リース債務	1,657	1,892
未払金	15,289	17,949
未払費用	40,490	50,198
未払法人税等	2,032	7,642
前受金	60,153	71,497
預り金	1,264	825
賞与引当金	8,857	9,826
役員賞与引当金	138	243
保証工事引当金	13,495	17,740
受注工事損失引当金	9,120	9,780
その他	5,110	2,027
流動負債合計	420,475	462,972

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
<b>固定負債</b>		
社債	63,335	30,000
長期借入金	132,197	135,255
リース債務	6,775	6,919
預り敷金・保証金	8,234	8,562
退職給付引当金	79,072	84,412
関係会社損失引当金	8,311	6,350
資産除去債務	140	141
その他	24,650	36,125
固定負債合計	322,718	307,767
<b>負債合計</b>	<b>743,193</b>	<b>770,740</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	95,762	107,165
資本剰余金		
資本準備金	43,133	54,520
その他資本剰余金	10	16
資本剰余金合計	43,144	54,536
利益剰余金		
利益準備金	6,083	6,083
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	10,648	10,106
繰越利益剰余金	33,844	42,308
利益剰余金合計	50,576	58,498
自己株式	△735	△665
株主資本合計	188,747	219,535
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	3,473	5,655
繰延ヘッジ損益	115	100
評価・換算差額等合計	3,589	5,755
新株予約権	563	620
純資産合計	192,899	225,912
<b>負債純資産合計</b>	<b>936,093</b>	<b>996,652</b>

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	※1 589,444	※1 608,678
売上原価	※1 515,673	※1 521,148
売上総利益	73,771	87,530
販売費及び一般管理費	※2 69,063	※2 76,139
営業利益	4,708	11,390
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	※1 24,008	※1 21,106
為替差益	2,762	2,823
その他	※1 3,865	※1 5,636
営業外収益合計	30,636	29,566
営業外費用		
支払利息	※1 3,262	※1 2,935
契約納期遅延に係る費用	6,061	3,989
その他	※1 9,354	※1 8,444
営業外費用合計	18,678	15,370
経常利益	16,665	25,586
特別利益		
株式交換利益	—	※1, ※3 7,952
抱合せ株式消滅差益	163	※4 1,440
固定資産売却益	13,798	—
特別利益合計	13,962	9,393
特別損失		
関係会社出資金評価損	—	10,413
減損損失	738	19
関係会社株式評価損	2,238	—
関係会社損失引当金繰入額	996	—
環境保全対策費用	839	—
投資有価証券評価損	749	—
特別損失合計	5,563	10,433
税引前当期純利益	25,064	24,547
法人税、住民税及び事業税	1,183	7,186
法人税等調整額	3,976	2,122
法人税等合計	5,160	9,308
当期純利益	19,903	15,238

【売上原価明細書】

区 分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
		金 額 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)
I 直接費	(注)				
1 直接材料費		126,206	(24.5)	124,975	(24.0)
2 直接経費		148,667	(28.8)	127,781	(24.5)
3 自製品費		155,266	(30.1)	178,949	(34.4)
4 用役費		36,210	(7.0)	31,862	(6.1)
II 加工費		466,350	90.4	463,568	89.0
III 原価差額		29,589	5.7	29,374	5.6
IV 保証工事引当金繰入額		△2,882	△0.5	684	0.1
V 受注工事損失引当金繰入額		13,495	2.6	17,740	3.4
売上原価合計		9,120	1.8	9,780	1.9
	515,673	100.0	521,148	100.0	

(注) 直接経費に含まれる加工外注費は、前事業年度69,538百万円、当事業年度49,224百万円です。

原価計算の方法

製造原価計算の方法は個別原価計算を主とし、鑄造工場等の部門においては総合原価計算を採用しています。

原価は原則として実際額で計算していますが、計算の便宜上労務費、間接費、自製品費、用役費については予定をもって計算し、実際額と予定額との差額は売上原価とたな卸資産とに按分賦課しています。

なお、個別原価計算を行なう製造部門においては、製造指図書に配賦する労務費と間接費との両者を併せて部門別計算を行ない、加工費として機械時間又は直接作業時間により配賦していますが、このうち直接労務費の割合は、前事業年度約30%、当事業年度約29%です。

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
						固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	95,762	43,133	7	43,141	6,083	11,235	19,210	36,529	△546	174,886
当期変動額										
転換社債型新株予約権付社債の転換										—
剰余金の配当							△5,856	△5,856		△5,856
当期純利益							19,903	19,903		19,903
固定資産圧縮積立金の取崩						△586	586	—		—
自己株式の取得									△211	△211
自己株式の処分			3	3					22	25
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	—	—	3	3	—	△586	14,633	14,047	△188	13,861
当期末残高	95,762	43,133	10	43,144	6,083	10,648	33,844	50,576	△735	188,747

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
当期首残高	△3,017	4	△3,012	461	172,335
当期変動額					
転換社債型新株予約権付社債の転換					—
剰余金の配当					△5,856
当期純利益					19,903
固定資産圧縮積立金の取崩					—
自己株式の取得					△211
自己株式の処分					25
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6,491	110	6,601	101	6,703
当期変動額合計	6,491	110	6,601	101	20,564
当期末残高	3,473	115	3,589	563	192,899

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
						固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	95,762	43,133	10	43,144	6,083	10,648	33,844	50,576	△735	188,747
当期変動額										
転換社債型新株予約権付社債の転換	11,402	11,387	3	11,390					6	22,800
剰余金の配当							△7,316	△7,316		△7,316
当期純利益							15,238	15,238		15,238
固定資産圧縮積立金の取崩						△542	542	—		—
自己株式の取得									△8	△8
自己株式の処分			2	2					72	74
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	11,402	11,387	5	11,392	—	△542	8,464	7,922	70	30,787
当期末残高	107,165	54,520	16	54,536	6,083	10,106	42,308	58,498	△665	219,535

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
当期首残高	3,473	115	3,589	563	192,899
当期変動額					
転換社債型新株予約権付社債の転換					22,800
剰余金の配当					△7,316
当期純利益					15,238
固定資産圧縮積立金の取崩					—
自己株式の取得					△8
自己株式の処分					74
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,181	△14	2,166	57	2,224
当期変動額合計	2,181	△14	2,166	57	33,012
当期末残高	5,655	100	5,755	620	225,912

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

#### (2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算出）

時価のないもの

移動平均法による原価法

### 2 デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

### 3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 製品

移動平均法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

#### (2) 仕掛品

個別法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

#### (3) 原材料及び貯蔵品

移動平均法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

### 4 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、貸与リース物件、及び平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法によっています。

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっています。

#### (3) リース資産

##### ①所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しています。

##### ②所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース契約日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

### 5 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

#### (2) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に充てるため、支給見込額を計上しています。

#### (3) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上しています。

#### (4) 保証工事引当金

保証工事費の支出に備えるため、過去の実績を基礎に将来の発生見込額を加味した見積額を計上しています。

#### (5) 受注工事損失引当金

当事業年度末において見込まれる未引渡工事の損失発生に備えるため、当該見込額を計上しています。

(6) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しています。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しています。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しています。

(7) 関係会社損失引当金

関係会社の事業に伴う損失に備えるため、資産内容等を勘案して、当社の損失負担見込額を計上しています。

6 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

(1) 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

(2) その他の工事

工事完成基準

7 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっています。為替予約等については、振当処理の要件を満たす場合は振当処理によっています。

なお、金利スワップについては、特例処理の要件を満たす場合は特例処理によっています。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

借入金の金利変動リスクをヘッジするために金利スワップを利用し、外貨建金銭債権債務の為替変動リスクをヘッジするために為替予約等を利用しています。

(3) ヘッジ方針

リスク・カテゴリー別に必要なヘッジ手段を選択しています。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額等を基礎にして有効性評価を行なっています。

8 その他の財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の貸借対照表における取扱いが連結財務諸表と異なっています。個別貸借対照表上、退職給付債務に未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を加減した額を退職給付引当金に計上しています。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっています。



(表示方法の変更)

(損益計算書)

「固定資産解体撤去費」は、前事業年度において、「営業外費用」に区分掲記していましたが、金額的重要性が乏しくなったため、「営業外費用」の「その他」に含めて表示しています。

なお、当事業年度の「営業外費用」の「その他」に含まれる「固定資産解体撤去費」は636百万円です。

(単体開示の簡素化)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しています。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しています。

以下の事項について、記載を省略しています。

- ・財務諸表等規則第26条に定める減価償却累計額の注記については、同条第2項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第54条の4に定める同一の工事契約に係るたな卸資産及び工事損失引当金の注記については、同条第4項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第76条の2に定める工事損失引当金繰入額の注記については、同条第2項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第80条に定めるたな卸資産の帳簿価額の切下げに関する記載については、同条第3項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第86条に定める研究開発費の注記については、同条第2項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第95条の3の2に定める減損損失の注記については、同条第2項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しています。

(貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりです。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
関係会社株式	144百万円 (注1)	144百万円 (注2)
投資有価証券	646 (注3)	646 (注3)
合計	790	790

(注) 1 関係会社の借入金(短期借入金44百万円, 長期借入金109百万円)に係る担保です。

2 関係会社の借入金(短期借入金44百万円, 長期借入金65百万円)に係る担保です。

3 鹿児島メガソーラー発電㈱と金融機関との間で締結した限度貸付契約に基づく同社の一切の債務を担保するために、鹿児島メガソーラー発電㈱とその株主7社と金融機関との間で株式根質権設定契約を締結しています。

2 保証債務等

次の関係会社等の金融機関の借入等に対し、保証債務及び保証類似行為を行なっています。

(1) 保証債務(注1)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
IHI Charging Systems International GmbH	7,328百万円	IHI Charging Systems International GmbH 13,296百万円
(一財)日本航空機エンジン協会	5,674	Estaleiro Atlântico Sul S.A. 12,569
㈱UNIGEN	5,000	㈱UNIGEN 6,300
IHI Ionbond AG	4,782	(一財)日本航空機エンジン協会 6,179
ALPHA Automotive Technologies LLC	1,600	IHI Ionbond AG 4,916
㈱IHI機械システム	1,000	JAPAN EAS INVESTIMENTOS E PARTICIPAÇÕES LTDA 3,428
IHIグループ健康保険組合	983	新潟原動機㈱ 3,360
日本エアロフォージ㈱	944	ALPHA Automotive Technologies LLC 1,834
新潟原動機㈱	705	㈱IHI機械システム 1,000
石川島自動化設備(上海)有限公司	415	石川島自動化設備(上海)有限公司 908
IHI・東芝パワーシステム㈱	220	IHIグループ健康保険組合 884
		IHI Charging Systems 708
		International S.p.A 590
		日本エアロフォージ㈱ 455
		IHI・東芝パワーシステム㈱ 360 (注2)
		Rio Bravo Frenso 349 (注2)
		Rio Bravo Rocklin 215
		IHI Southwest Technologies, Inc.
合計	28,653	合計 57,356

## (2) 保証類似行為 (注1)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)	
従業員の住宅資金借入保証等	9,336百万円	従業員の住宅資金借入保証等	8,657百万円
I H I グループ健康保険組合	1,024	I H I グループ健康保険組合	932
新潟原動機㈱	295		
ターボシステムズ			
ユナイテッド㈱	40		
合計	10,696	合計	9,589

(注) 1 以下のいずれかに該当する場合には、当社の負担額を表示しています。

- ①債権者への対抗要件を備えた共同保証等の保証契約で、当社の負担額が明示され、かつ、他の保証人の負担能力に関係なく当社の負担額が特定されている場合。
  - ②複数の保証人がいる連帯保証契約で、保証人間の取決め等により、当社の負担割合又は負担額が明示され、かつ、他の連帯保証人の負担能力が十分であると判断される場合。
- 2 継続的取引に係る債務を保証するために設定した一定の限度額の範囲内で保証する根保証契約であり、保証枠を表示しています。

## 3 関係会社に対する資産・負債

関係会社に対する資産・負債は次のとおりです。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期金銭債権	81,134百万円	81,894百万円
長期金銭債権	3,628	10,088
短期金銭債務	116,207	108,387
長期金銭債務	480	689

## ※4 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりです。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
機械及び装置	114百万円	－百万円
工具器具備品	35	－
合計	149	－

## ※5 期末日満期手形

事業年度末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しています。

なお、前事業年度末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が前事業年度末日の残高に含まれていません。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
受取手形	161百万円	－百万円
支払手形	240	－

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引高

関係会社との取引高は以下のとおりです。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	56,549百万円	39,439百万円
仕入高	156,071	152,213
営業取引以外の取引による取引高	36,891	27,452

※2 主要な販売費及び一般管理費

販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度55%，当事業年度55%，一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度45%，当事業年度45%です。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は以下のとおりです。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
引合費用	7,430百万円	7,969百万円
貸倒引当金繰入額	△91	406
役員・従業員給与手当(注)	20,733	21,683
旅費及び交通費	2,212	2,447
試験研究費	19,003	22,141
業務委託費	4,870	4,969
共通部門費受入額	4,234	4,202
減価償却費	2,061	2,102

(注) 前事業年度には、賞与引当金繰入額3,128百万円、退職給付費用4,104百万円が含まれており、当事業年度には、賞与引当金繰入額2,627百万円、退職給付費用4,051百万円が含まれています。

※3 株式交換利益

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

連結子会社であったIHIメタルテック㈱が圧延機を主体とする事業を三菱日立製鉄機械㈱に継承させる吸収分割を行なったことに伴い、当社が受け取った三菱日立製鉄機械㈱の普通株式の帳簿価額と、IHIメタルテック㈱の普通株式の帳簿価額のうち、合理的に算定した分割事業の価額とみなされる部分との差額です。

※4 抱合せ株式消滅差益

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

連結子会社であったIHIメタルテック㈱を吸収合併したことによるものです。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度 (平成25年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
①子会社株式	6,231	6,094	△136
②関連会社株式	—	—	—
合計	6,231	6,094	△136

当事業年度 (平成26年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
①子会社株式	6,231	7,178	947
②関連会社株式	—	—	—
合計	6,231	7,178	947

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
①子会社株式	80,478	86,167
②関連会社株式	43,246	43,715

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めていません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
減損損失	4,450百万円	4,385百万円
投資有価証券等評価損	17,753	19,636
未払費用否認	5,664	6,935
賞与引当金	3,423	3,606
保証工事引当金	5,110	6,323
受注工事損失引当金	3,430	3,486
退職給付引当金	27,992	29,412
関係会社損失引当金	2,962	2,263
繰越欠損金	5,185	—
その他	6,113	11,963
繰延税金資産小計	82,094	88,009
評価性引当額	△32,761	△38,230
繰延税金資産合計	49,333	49,779
繰延税金負債		
組織再編に伴う資産評価差額	—	△2,923
その他有価証券評価差額金	△3,647	△4,032
固定資産圧縮積立金	△5,961	△5,597
その他	△96	△89
繰延税金負債合計	△9,704	△12,641
繰延税金資産の純額	39,629	37,138

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
国内の法定実効税率 (調整)	38.0%	38.0%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△33.0	△26.4
試験研究費税額控除	△0.2	△5.7
評価性引当額増減	9.6	23.0
外国法人税	2.6	4.2
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—	4.0
その他	3.5	0.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率	20.5	37.9

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が978百万円減少し、法人税等調整額が982百万円増加しています。

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しています。

(重要な後発事象)

1. 平成26年5月30日開催の当社取締役会において、第39回・第40回社債の発行を決議し、下記のとおり発行しました。

第39回無担保社債（5年債）

- (1) 発行総額 100億円
- (2) 発行価格 額面100円につき金100円
- (3) 利率 年0.389%
- (4) 払込期日 平成26年6月17日
- (5) 償還期限 平成31年6月17日
- (6) 資金使途 社債の償還資金に充当
- (7) 募集方法 一般募集

第40回無担保社債（7年債）

- (1) 発行総額 100億円
- (2) 発行価格 額面100円につき金100円
- (3) 利率 年0.592%
- (4) 払込期日 平成26年6月17日
- (5) 償還期限 平成33年6月17日
- (6) 資金使途 社債の償還資金に充当
- (7) 募集方法 一般募集

## ④【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	当期末減価 償却累計額 又は 償却累計額
有形固定資産	建物	95,430	4,591	444	5,817	93,759	83,388
	構築物	5,752	596	70 (5)	670	5,608	23,577
	船渠・船台	630	403	—	33	1,000	4,450
	機械及び装置	26,420	10,546	1,630	8,227	27,108	125,985
	船舶	0	—	0	0	0	23
	車両運搬具	169	36	5	79	120	1,479
	工具器具備品	6,491	6,693	77	5,911	7,195	48,524
	土地	44,267	2,966	1,598 (14)	—	45,635	—
	リース資産	7,836	2,063	3	1,623	8,273	4,300
	建設仮勘定	5,982	31,438	30,611	—	6,809	—
	計	192,980	59,335	34,442 (19)	22,363	195,510	291,730
無形固定資産	のれん	55	—	—	14	40	31
	特許使用权	1,449	2,776	—	702	3,523	16,571
	借地権	7	—	—	—	7	—
	施設利用権	24	0	2	0	21	1,173
	ソフトウェア	8,111	3,255	18	2,919	8,428	27,030
	リース資産	65	11	—	26	50	82
	その他	62	42	—	—	104	—
	計	9,776	6,086	20	3,664	12,177	44,889

(注) 1 「当期首残高」及び「当期末残高」については、簿価により記載しています。

2 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額です。

3 「当期増加額」のうち主なものは、以下の要因によります。

建設仮勘定 …建物、機械及び装置、工具器具備品、土地取得に伴う支出。

機械及び装置…航空エンジン生産設備、試験研究設備の取得。

4 「当期減少額」のうち主なものは、以下の要因によります。

機械及び装置…原動機生産設備の売却、航空エンジン生産設備の廃却。



【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	5,436	410	440	5,406
賞与引当金	8,857	9,826	8,857	9,826
役員賞与引当金	138	243	138	243
保証工事引当金	13,495	17,740	13,495	17,740
受注工事損失引当金	9,120	9,780	9,120	9,780
関係会社損失引当金	8,311	538	2,499	6,350

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しています。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

(注) 第5 [経理の状況] 2 [財務諸表等] に記載の金額は百万円未満を切捨て表示しています。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取・売渡	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	_____
買取・売渡手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行ないます。ただし、事故その他やむを得ない事由によっ て電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行 される日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL <a href="http://www.ihl.co.jp/ihl/elec/index.html">http://www.ihl.co.jp/ihl/elec/index.html</a>
株主に対する特典	なし

- (注) 1 取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行なうことができます。
- 2 当社定款の定めにより、単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。
- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
  - (2) 会社法第166条第1項の規定により請求をする権利
  - (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
  - (4) 単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

- |   |  |  |
|---|--|--|
| (1) 有価証券報告書<br>及びその添付書類<br>並びに確認書   | ( 事業年度 自平成24年4月1日<br>(第196期) 至平成25年3月31日 )   | 平成25年6月27日<br>関東財務局長に提出  |
| (2) 内部統制報告書及びその添付書類   |  | 平成25年6月27日<br>関東財務局長に提出  |
| (3) 発行登録追補書類(社債)及びその添付書類  |  | 平成25年6月7日<br>関東財務局長に提出<br>平成26年6月11日<br>関東財務局長に提出                              |
| (4) 四半期報告書<br>及び確認書   | ( 第197期第1四半期 自平成25年4月1日<br>至平成25年6月30日 )<br>( 第197期第2四半期 自平成25年7月1日<br>至平成25年9月30日 )<br>( 第197期第3四半期 自平成25年10月1日<br>至平成25年12月31日 ) | 平成25年8月13日<br>関東財務局長に提出<br>平成25年11月13日<br>関東財務局長に提出<br>平成26年2月13日<br>関東財務局長に提出 |
| (5) 臨時報告書   |  |  |
| 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2<br>(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書                      |  | 平成25年6月28日<br>関東財務局長に提出  |
| 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2<br>(新株予約権の割当)の規定に基づく臨時報告書                              |  | 平成25年7月22日<br>関東財務局長に提出  |
| 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号<br>(財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生)の規定に基づく臨時報告書 |  | 平成26年2月4日<br>関東財務局長に提出   |
| 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号<br>(代表取締役の異動)の規定に基づく臨時報告書                                |  | 平成26年2月24日<br>関東財務局長に提出  |
| (6) 臨時報告書の訂正報告書   |  |  |
| 平成25年7月22日に提出した臨時報告書の訂正報告書  |  | 平成25年8月22日<br>関東財務局長に提出  |

(7) 訂正発行登録書

平成25年6月27日  
関東財務局長に提出  
平成25年6月28日  
関東財務局長に提出  
平成25年7月22日  
関東財務局長に提出  
平成25年8月13日  
関東財務局長に提出  
平成25年8月22日  
関東財務局長に提出  
平成25年11月13日  
関東財務局長に提出  
平成26年2月4日  
関東財務局長に提出  
平成26年2月13日  
関東財務局長に提出  
平成26年2月24日  
関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

株式会社 I H I

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 上 村 純 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐久間 佳 之 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田 島 一 郎 ㊞

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社 I H I の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社 I H I 及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社IHIの平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、株式会社IHIが平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- ※1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

# 独立監査人の監査報告書

平成26年6月27日

株式会社 I H I

取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 上村 純 (印)

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐久間 佳之 (印)

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田島 一郎 (印)

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社 I H I の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第197期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社 I H I の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- ※1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは監査の対象に含まれておりません。